目次

ホーム
メニュー

索引

SONY

WALKMAN

クリックしてジャンプできます。

▶ 音楽を転送する

▶ ビデオ・写真・ポッドキャストを転送する

▶ 困ったときは

詳細操作ガイド

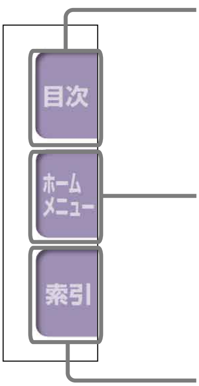
NW-A845 / A846 / A847

4-164-613-**03**(1)

詳細操作ガイドの見かた

詳細操作ガイドのボタンを使うには

右上にあるボタンから、希望のボタンをクリックすれば、「目次」や「ホームメニュー一覧」、「索引」へ移動できます。



目次へ移動
やりたいことから参照ページを探せます。

ホームメニュー一覧へ移動
本機のホームメニュー一覧から参照ページを探せます。

索引へ移動
キーワードから参照ページを探せます。

ヒント

- 「目次」や「ホームメニュー一覧」、「索引」で、各項目またはページ番号をクリックすれば、該当ページへ移動できます。
- 各ページにある参照ページ表示をクリックすれば、該当ページへ移動できます。
  例：(☞ 7ページ)
- Adobe Readerの画面上にある検索入力欄にキーワードを入力すれば、キーワードから参照ページを検索できます。
- お使いのAdobe Readerのバージョンによっては、操作方法などが異なる場合があります。

次のページにつづく ⇩

ページの表示方法を変えるには

Adobe Readerの画面上にあるボタンを使えば、見やすい表示に変えられます。



連続ページ

ウィンドウの幅に合わせて、連続ページで表示します。
ページをスクロールすると、前後のページが続いて表示されます。

単一ページ

ウィンドウの大きさに合わせて、1ページ全体を表示します。
ページをスクロールすると、1ページずつ表示が切り換わります。

目次

次のページにつづく

ポッドキャストを楽しむ

写真を見る

FMラジオ放送を聞く

録音する

ノイズキャンセリング機能を使う

本機の設定をする

次のページにつづく ⇩

目次
ホームメニュー
索引

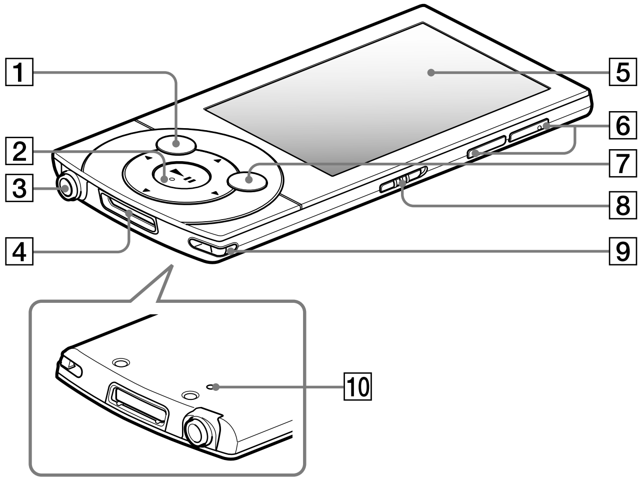
役に立つヒント

困ったときは

その他

目次
ホーム
メニュー
索引

各部の名前



1 BACK/HOMEボタン
リスト画面の階層を上がったり、前の画面に戻ったりできます。
押したまま（長押し）にすると、ホームメニューが表示されます（☞ 12ページ）。

2 5方向ボタン*1
再生を始めたり、項目を選んだりできます（☞ 15、18ページ）。

3 ヘッドホンジャック
ヘッドホンを接続します。「カチッ」と音がするまで差し込んでください。ヘッドホンが正しく接続されていないと、音が正常に聞こえません。

ノイズキャンセリング機能について
ノイズキャンセリング機能は付属のヘッドホンを使用したときのみ有効です。なお、付属のヘッドホンは専用ヘッドホンのため、他の機器には使用することができません。

4 WM-PORTジャック
付属のUSBケーブルや、別売りのWM-PORT対応のアクセサリーを接続できます。
録音に対応したアクセサリー（別売り）や、映像/音声出力ケーブル（別売り）も接続できます。

5 画面
☞ 12、44、68、82、92、99ページ

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

6 VOL（ボリューム）＋[*1]/－ボタン
音量を調節します。

7 OPTION（オプション）/PWR（パワー） OFF（オフ）ボタン
オプションメニューを表示します（☞ 54、76、89、96、102、114ページ）。
長押しすると画面表示が消え、再生待機状態になります。

8 HOLD（ホールド）スイッチ
誤ってボタンが押されて動作するのを防ぎます。
HOLDスイッチを矢印の方向➡にスライドすると、操作ボタンが働かなくなります。HOLDスイッチを逆の位置にスライドすると、HOLD（ホールド）が解除されます。

9 ストラップ取り付け口
ストラップ（別売り）を取り付けます。

10 RESET（リセット）ボタン
クリップなどの細い棒でRESETボタンを押すと、本機をリセットできます（☞ 143ページ）。

[*1] ボタンには、凸点（突起）がついています。操作の目印としてお使いください。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

イヤーピースを装着する

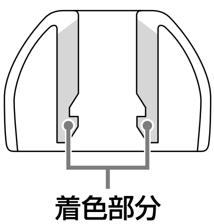
イヤーピースが耳にフィットしていないと、適切なノイズキャンセル効果が得られない場合があります。快適なノイズキャンセル効果とより良い音質を楽しんでいただくためには、イヤーピースのサイズを交換したり、おさまりの良い位置に調整するなど、ぴったり耳に装着させるようにしてください。

お買い上げ時には、Mサイズが装着されています。サイズが耳に合わないと感じたときは、付属のLサイズやSサイズに交換してください。内側の色でイヤーピースのサイズを確認してください。

イヤーピースがはずれて耳に残らないよう、イヤーピースを交換する際には、ヘッドホンにしっかり取り付けてください。取り付けを確実にするためにイヤーピースを回転してください。

付属以外にも、SサイズよりSさいSSサイズを別売りしています。

イヤーピースのサイズ（内側の色）

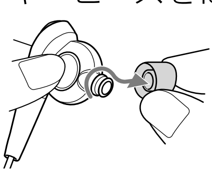


小さい ←→ 大きい

SS（別売）（赤）	S（橙）	M（緑）	L（水色）

イヤーピースをはずすときは

ヘッドホンを抑えた状態で、イヤーピースをねじりながら引き抜きます。



ヒント

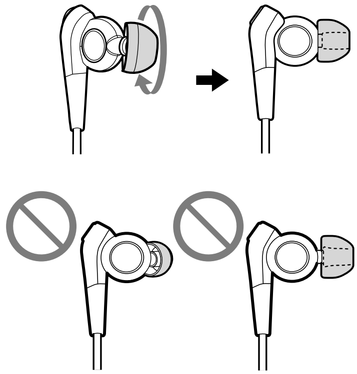
- イヤーピースが滑ってはずれない場合は、乾いた柔らかい布でくるむとはずれやすくなります。

次のページにつづく

目次
ホーム
メニュー
索引

イヤーピースをつけるときは

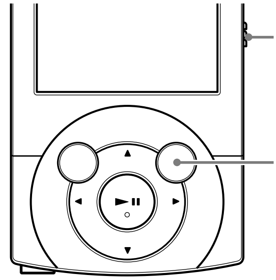
ヘッドホンの突起部分が完全に隠れるまで、イヤーピースの着色部分をねじりながら押し込んでください。



イヤーピースが破損した場合には、別売りのイヤーピース（EP-EX10）をご購入ください。サイズごとに４種類の別売りイヤーピースがあります。

目次
ホーム
メニュー
索引

電源を入れる／切る



電源を入れる

本機のいずれかのボタンを押すと本機の電源が入ります。

ヒント

- 画面上部に HOLD が点滅した場合は、HOLDスイッチを矢印（⟶）と反対の方向にスライドしてHOLD（ホールド）を解除してください。

電源を切る

OPTION/PWR OFFボタンを長押しすると、「POWER OFF」と表示されたあとに画面表示が消え再生待機状態になります。

ヒント

- 本機をお使いになる前に、本機の日付と時刻を合わせてください（☞ 24、129ページ）。
- 本機は、約10分間操作がないと、画面表示が消えて自動的に再生待機状態になります。このときいずれかのボタンを押すと、画面が表示されます。
- 再生待機状態のまま最長で1日経過すると、自動的に電源が切れます。

ご注意

- パソコン接続中は本機を操作することはできません。USBケーブルをはずしてから操作してください。
- パソコンにUSBケーブルで接続すると、前回再生していた曲やビデオ、写真などの再生の記録はクリアされます。リスト画面から希望のコンテンツを選び直してください。
- 再生待機状態でもわずかに電池を消耗するため、電池残量によっては早く電源が切れる場合があります。

目次
ホームメニュー
索引

ホームメニュー一覧

本機のホームメニューの項目一覧です。
各メニューについては参照ページをご覧ください。



	ノイズキャンセル	ノイズキャンセリングをオン/オフします。ノイズキャンセリングをオンにすると周囲の騒音を低減することができます（☞116ページ）。
	FMラジオ	FMラジオ放送を受信します（☞98ページ）。
	録音	パソコンを使わずに本機に曲を録音します（☞104ページ）。
	フォト	本機に転送した写真を表示します（☞91ページ）。
	ミュージック	本機に転送した曲や録音した曲を再生します（☞43ページ）。
	ビデオ	本機に転送したビデオを再生します（☞67ページ）。
	各種設定	各機能の設定や、本機の設定を行います（☞56、77、97、103、115、122、124ページ）。
	ポッドキャスト	本機に転送したポッドキャストを再生します（☞81ページ）。
	音楽再生画面へ	音楽再生画面を表示します。

次のページにつづく ⇩

目次

ホーム メニュー

索引

目次
ホーム
メニュー
索引

情報表示エリアの表示

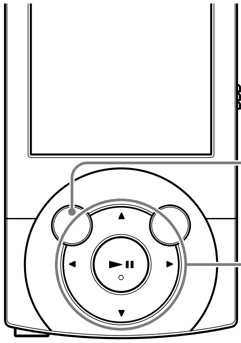
情報表示エリアには、再生状態および設定、表示している画面に応じて以下のようなアイコンが表示されます。
アイコンの説明について詳しくは各参照ページをご覧ください。

表示	意味
►、❚❚、►►、◄◄、►►❚、❚◄◄ など	再生状態（☞ 44、68、82、92ページ）
HOLD	HOLD（ホールド）状態（☞ 8ページ）
	ノイズキャンセリング（☞ 118ページ）
	テレビ出力中（☞ 51ページ）
	電池残量（☞ 22ページ）

目次
ホーム
メニュー
索引

ホームメニューの使いかた

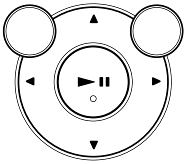
本機では、ホームメニューが各機能の入り口になり、曲を探したり、設定の変更をしたりできます。
BACK/HOME ボタンを長押しすると、ホームメニューが表示されます。





ホームメニューからは、5方向ボタンの▲/▼/◀/▶ボタンを使って、希望の項目を選択、決定していきます。

- ▲/▼/◀/▶：上下左右で選択
- ▶II：決定



次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

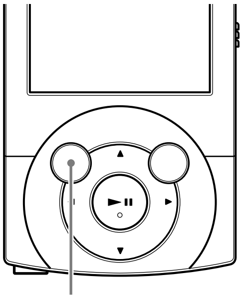
ホームメニューからの操作を、本書では以下のように記載しています。

例　ホームメニュー➡♫（ミュージック）➡「アルバム」➡希望のアルバム➡希望の曲を選ぶ。

上記の例の具体的な操作は、以下のようになります。

1 ホームメニューが表示されるまでBACK/HOMEボタンを押したままにする。

ホームメニューが表示されます。



BACK/HOMEボタン

2 ▲/▼/◀/▶ボタンで♫（ミュージック）を選び、▶IIボタンを押して決定する。

「ミュージック」画面が表示されます。



3 ▲/▼/◀/▶ボタンで「アルバム」を選び、▶IIボタンを押して決定する。

アルバムのリスト画面が表示されます。

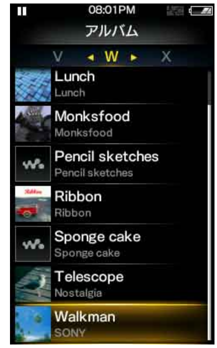


次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

4 **▲/▼/◀/▶ボタンで希望のアルバムを選び、▶II ボタンを押して決定する。**

アルバム内の曲のリスト画面が表示されます。



5 **▲/▼/◀/▶ボタンで希望の曲を選び、▶II ボタンを押して決定する。**

音楽再生画面が表示されて、曲の再生が始まります。





操作の途中でホームメニューを表示するには

BACK/HOMEボタンを長押しする。

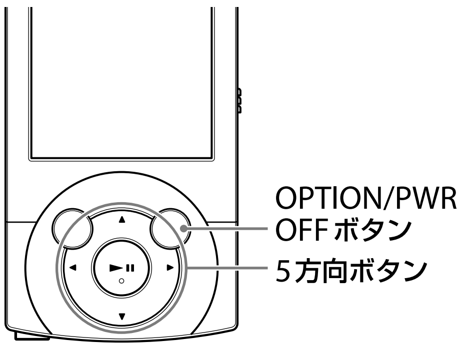
操作の途中でひとつ前の画面に戻るには

BACK/HOMEボタンを押す。

目次
ホームメニュー
索引

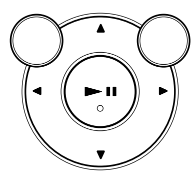
オプションメニューの使いかた

オプションメニューでは、機能に応じたメニューが表示され、設定の変更などができます。
OPTION/PWR OFFボタンを押すと、オプションメニューが表示されます。もう一度OPTION/PWR OFFボタンを押すと、オプションメニューが消えます。





オプションメニューからは、5方向ボタンの▲/▼/◀/▶ボタンを使って、希望の項目を選択、決定していきます。



- ▲/▼：メニューの項目を選択
- ◀/▶：（サーチ）、（オプション）、（再生画面へ）のメニューを切り替える。*1
- ▶II：決定

*1　画面によっては、（サーチ）メニューと（再生画面へ）アイコンは表示されません。

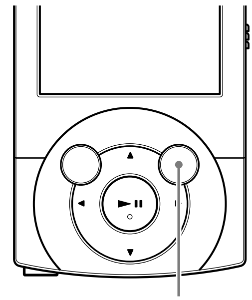
次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

オプションメニューで「プレイモード」の「シャッフル」再生を選ぶ操作は、以下のようになります。

❶ **音楽再生画面でOPTION/PWR OFFボタンを押す。**

オプションメニューが表示されます。



OPTION/PWR OFFボタン

❷ **▲/▼/◀/▶ボタンで「プレイモード」を選び、▶II ボタンを押して決定する。**



❸ **▲/▼/◀/▶ボタンで「シャッフル」を選び、▶II ボタンを押して決定する。**

プレイモードがシャッフル再生に変わります。





次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

オプションメニューの項目は表示した画面によって異なります。詳しくは、以下をご覧ください。

- 「音楽のオプションメニューを使う」(☞ 54ページ)
- 「ビデオのオプションメニューを使う」(☞ 76ページ)
- 「ポッドキャストのオプションメニューを使う」(☞ 89ページ)
- 「フォトのオプションメニューを使う」(☞ 96ページ)
- 「FMラジオのオプションメニューを使う」(☞ 102ページ)
- 「録音のオプションメニューを使う」(☞ 114ページ)

目次
ホーム
メニュー
索引

ソフトウェアについて

付属のソフトウェア

SonicStage V

音楽ファイルを本機に転送できる音楽管理ソフトウェアです。
音楽CDから取り込んだ曲や、音楽配信サイトからダウンロードした曲を、管理、編集して本機に転送できます。
音楽を高音質で保存し、高音質のまま本機に転送したり、アルバムのジャケット写真の転送や、プレイリストの転送にも対応しています。
SonicStage Vの操作について詳しくは、SonicStage Vのヘルプをご覧ください。

WALKMAN Guide

本機の詳細操作ガイド（本PDF）や役立つリンク集がご利用になれます。

対応のソフトウェア

x-アプリ[*1]

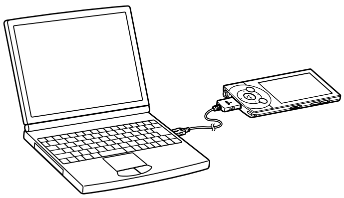
SonicStage Vの後継ソフトウェアです。
音楽ファイル以外に、ビデオ、写真、ポッドキャストの転送が可能です。
また、インターネットから歌詞をダウンロードして本機への転送が可能になります。
今までSonicStage Vをご利用の方は、x-アプリのインストール時にSonicStage Vはアンインストールされますが、ご利用のコンテンツはx-アプリに引き継がれます。
x-アプリの操作について詳しくは、x-アプリのヘルプをご覧ください。

[*1] x-アプリは、2009年10月以降、インターネットからダウンロードでのご提供予定です。

目次
ホーム
メニュー
索引

充電する

本機は起動しているパソコンと接続することで、充電されます。
本機とパソコンの接続には、付属のUSBケーブルを使います。
本体画面右上の電池残量表示が FULL になったら、充電完了です（充電時間：約3時間）。



はじめてお使いになる場合や、しばらくお使いにならなかった場合は、なるべく電池残量表示が FULL になるまで充電することをおすすめします。

いたわり充電について

いたわり充電モードを使用すると、バッテリー充電量の約90％に達したところで充電を停止します。長時間の使用が必要なとき以外は「いたわり充電」を「オン」に設定しておけば、電池耐久寿命に影響する最大充電量を抑えることで、電池の耐久時間の長寿命化をはかれます。
いたわり充電モードの設定のしかたについては、「いたわり充電」（☞ 131ページ）をご覧ください。

電池残量の表示について

ご使用中、情報表示エリアの電池残量表示でお知らせします。



目盛りが少なくなるほど、電池残量が減っています。また「電池残量がありません。充電してください。」と表示された場合は、操作できません。本機をパソコンに接続して充電を行ってください。電池の持続時間については、☞ 199ページをご覧ください。

本機に対応している別売りのACアダプター（AC-NWUM50Aなど）を使って充電することもできます。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

ヒント

- 充電中に「画面オフタイマー」（☞ 126ページ）で設定された時間が経過すると画面表示が消えます。本機のいずれかのボタンを押すことによって充電などの画面表示を確認することができます。

ご注意

- 本機を長期間使わないで充電した場合、本機がパソコンに認識されなかったり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は、本機を約30秒間充電すれば正常に動作します。
- 画面にが表示されている場合、周囲の温度が推奨範囲外のため充電を止めています。周囲の温度が5 ～ 35 ℃の環境にて充電を行ってください。
- 電池を使いきった状態から充電が可能な回数の目安は500回です。ただし、使用条件により異なります。
- 残量表示は目安です。1つの目盛りが4分の1を示しているわけではありません。
- 本機とパソコン間でのデータ転送中は、「USB接続を解除しないでください。」と表示されます。「USB接続を解除しないでください。」と表示されている間は、USBケーブルをはずさないでください。転送中のデータや本機内のデータが破損することがあります。
- パソコンに接続しているときは、本機の操作はできません。
- 本機を長期間使わない場合、半年から1年ごとに充電するようにしてください。
- 同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- 自作のパソコンや改造したパソコンでの充電は保証できません。
- USB接続時にパソコンがスタンバイ（スリープ）、休止状態に入ると、充電されないため電池が消耗します。
- 電源を接続していないノートパソコンと本機を接続した場合、ノートパソコンの電池が消耗します。電源を接続していないノートパソコンと本機を接続したまま長時間放置しないでください。
- 本機をUSB接続したまま、パソコンの起動、再起動、スリープモードからの復帰、終了操作を行わないでください。本体が正常に動作しなくなることがあります。これらの操作は、パソコンから本機を取りはずしてから行ってください。
- 本機を充電中は本体が温かくなることがありますが、故障ではありません。
- パソコンにUSBケーブルで接続すると、前回再生していた曲やビデオ、写真などの再生の記録はクリアされます。リスト画面から希望のコンテンツを選び直してください。

目次
ホーム メニュー
索引

日付と時刻を設定する

お使いになる前に現在の日付と時刻を設定してください。お買い上げ時は、パソコンの時刻と同期する「対応ソフト・機器と同期」（☞ 129ページ）に設定されていますので、x-アプリまたはSonicStage Vと接続して日付と時刻を自動で設定できます。
お買い上げ時の設定のまま本機をお使いになることをおすすめします。
また、下記の手順で手動設定することもできます。



1. ホームメニュー→（各種設定）→「共通設定」→「時計設定」→「日付時刻設定」→「マニュアル設定」を選ぶ。

2. ◀/▶ボタンで年を選び、▲/▼ボタンで年の数字を選ぶ。

3. 手順 2 で「年」を入力したのと同様に「月」、「日」、「時」、「分」の数字を入力し、▶II ボタンを押して決定する。

ご注意

- 「日付時刻設定」を「マニュアル設定」に設定した場合は、1か月で最大60秒の誤差が生じる場合があります。「対応ソフト・機器と同期」に設定して使用することをおすすめします（☞ 129ページ）。「マニュアル設定」に設定して時刻に誤差が生じた場合は、手動で時刻を修正してください。
- 本機を使用しないまま長期間放置するなど、本体の内蔵電池が放電しきると、設定した日時がリセットされ、「−」で表示されます。

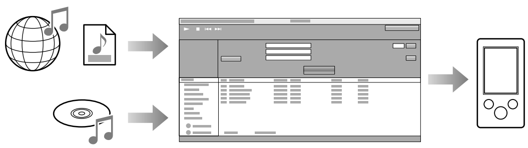
目次
ホーム
メニュー
索引

音楽を転送する方法を選ぶ

曲は音楽CDやインターネットなどからパソコンに取り込みます。
取り込んだ曲を本機に転送するには、以下の方法があります。

Ⓐ x-アプリをインストールした場合
x-アプリでCDなどから取り込み、本機に転送する（☞ 27ページ）

お持ちの音楽CDやインターネットで購入した曲などを、x-アプリを使ってパソコンに取り込み、本機に転送してください。

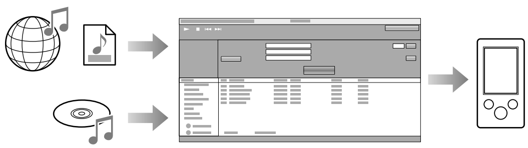


ヒント

- x-アプリについては、「ソフトウェアについて」（☞ 21ページ）をご覧ください。

Ⓑ SonicStage Vをインストールした場合
SonicStage VでCDなどから取り込み、本機に転送する（☞ 31ページ）

お持ちの音楽CDやインターネットで購入した曲などを、SonicStage Vを使ってパソコンに取り込み、本機に転送してください。



ヒント

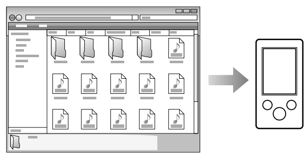
- SonicStage Vについては、「ソフトウェアについて」（☞ 21ページ）をご覧ください。

次のページにつづく ⇩

C ソフトウェアを使わない場合

Windowsのエクスプローラを使ってドラッグアンドドロップで本機に転送する（☞ 35ページ）

すでにパソコン内に取り込まれて保管されている曲を、Windowsのエクスプローラで本機の[MUSIC]フォルダへドラッグアンドドロップして転送してください。



ヒント

- 本機でサポートしているファイルフォーマットについては、「再生できるファイルの種類」（☞ 194ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機とパソコン間でのデータ転送中は、「USB接続を解除しないでください。」と表示されます。



「USB接続を解除しないでください。」と表示されている間は、USBケーブルをはずさないでください。転送中のデータや本機内のデータが破損することがあります。
- 電源を接続していないノートパソコンと本機を接続した場合、ノートパソコンのバッテリーが消耗します。本機を接続したまま長時間放置しないでください。
- 本機をパソコンに接続しているとき、パソコンの起動または再起動をすると、本機が正常に動作しないことがあります。その場合は、本機のRESETボタンを押して、本機をリセットしてください（☞ 143ページ）。パソコンを起動または再起動するときは、本機の接続をはずしてください。

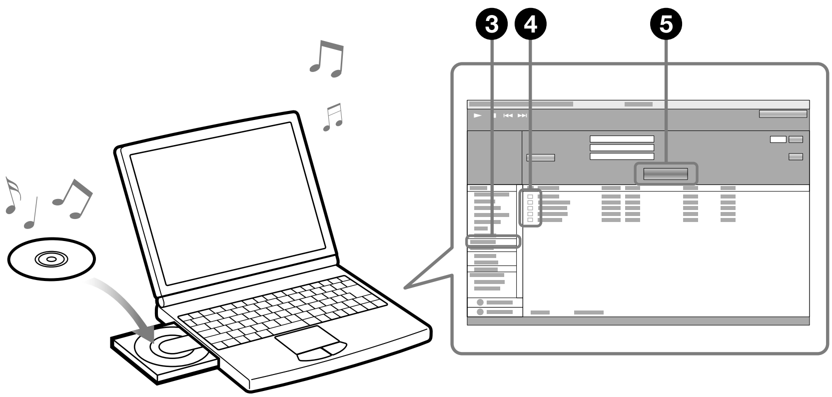
目次
ホーム
メニュー
索引

目次
ホーム
メニュー
索引

Ⓐ x-アプリを使って音楽を転送する

CDから音楽を取り込む

x-アプリを使って、パソコンに曲を取り込みます。ここでは、音楽CDの曲を取り込む方法を説明します。
x-アプリでは、インターネットに接続して、CD情報（曲名やアーティスト名など）を自動取得することができます。



1 デスクトップの  アイコンをダブルクリックする。

x-アプリが起動します。

2 音楽CDをドライブに入れる。

x-アプリではじめて音楽CDを利用するときは、ドライブのチェックが行われる場合があります。ドライブチェックが表示された場合は、画面に従って操作してください。

3 ［CDから取り込み］をクリックする。

CDを録音する画面が表示され、音楽CDの曲が一覧で表示されます。

4 取り込みたい楽曲にチェック（☑）を付ける。

CD内の楽曲全てを取り込みたい場合、［すべてチェック］をクリックすると、全ての曲にチェックが付きます。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

❺ ［取り込み開始］をクリックする。

曲の取り込みが始まります。取り込みが終わると、曲単位で「取り込み済み」と表示されます。

ヒント

- Windowsの［スタート］メニューから、x-アプリを起動することもできます。
- x-アプリでは、曲をインターネット音楽配信サービスからパソコンに取り込んだり、すでにパソコンに保存している曲（MP3、WMA[*1]、ATRAC、AAC[*1]など）をx-アプリで取り込んで管理できます。

[*1] 著作権保護されたWMA/AACファイルは、取り込めません。

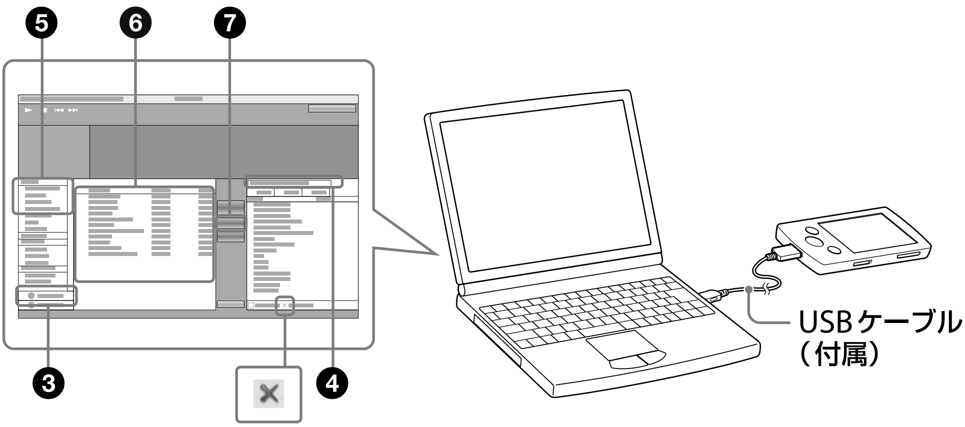
ご注意

- x-アプリを使用中（CD録音中、曲の取り込み中、本機への転送処理中）にパソコンがスリープ／スタンバイ／休止状態へ移行すると、データが失われたり、x-アプリが正常に復帰しない場合がありますのでご注意ください。

目次
ホームメニュー
索引

本機に音楽を転送する

本機をパソコンと接続し、x-アプリで取り込んだ曲を、本機に転送します。曲に歌詞情報を付けて転送することもできます。
すでにパソコンと接続して、x-アプリが起動している場合は、手順❸から操作してください。



❶ **付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続する。**

USBケーブルのコネクタは、W. を上にして本機に差し込みます。

❷ **デスクトップの アイコンをダブルクリックする。**

x-アプリが起動します。

❸ **［機器へ転送］をクリックする。**

❹ **をクリックして本機を選ぶ。**

❺ **「ライブラリー」の［ミュージックライブラリー］を選ぶ。**

❻ **転送する曲やアルバムを選ぶ。**

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

7 [→] をクリックして曲を転送する。

「USB接続を解除しないでください。」と表示されて、転送が始まります。この表示が消えて、x-アプリの画面右側に曲やアルバムが表示されたら、本機を取りはずすことができます。
転送を途中で止めるには、[中止]をクリックします。

ヒント

- Windowsの[スタート]メニューから、x-アプリを起動することもできます。
- x-アプリで好きな曲と順番でまとめたプレイリストを作成し、転送すると、本機で好きな順番で再生できます。
- x-アプリで曲を削除するには、曲を選んで、[×]アイコンをクリックしてください。

x-アプリでの歌詞データの付加について

本機には、楽曲の進行に合わせて、歌詞を表示する機能「歌詞ピタ」が搭載されています。
「歌詞ピタ」に対応した歌詞データの取得には、インターネットの接続が必要です。
詳しくは、同梱の「歌詞ピタ」サービスご案内チラシをご覧ください。

ご注意

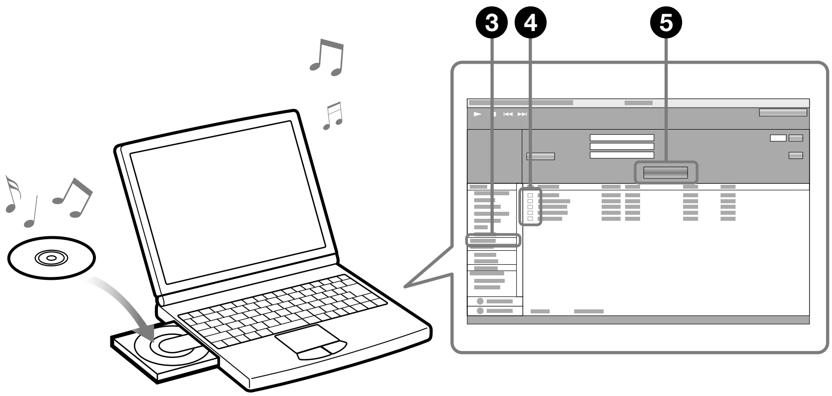
- 歌詞データは、x-アプリで「歌詞ピタ」サービスよりダウンロードし、1台の歌詞対応"ウォークマン"のみに転送できます。x-アプリ上で、歌詞ピタ(データ)が「なし」の時に、歌詞データが付いた楽曲を本機に転送すると、「この歌詞を表示するには歌詞を追加購入して転送し直してください。」というメッセージが出ます。
  歌詞データの権利上の制約により、複数台の歌詞対応"ウォークマン"に転送する場合は、複数の同一歌詞データを購入する必要があります。
- 歌詞データの権利上の制約により、x-アプリから本機に転送した歌詞データ付きの楽曲をx-アプリに戻し、他の"ウォークマン"に転送することはできません。
- x-アプリでは、歌詞データの歌詞を表示したり、歌詞データを自分で入力することはできません。
- SonicStage Vでは、「歌詞ピタ」サービスをご利用できません。

目次
ホーム
メニュー
索引

Ⓑ SonicStage Vを使って音楽を転送する

CDから音楽を取り込む

SonicStage Vを使って、パソコンに曲を取り込みます。ここでは、音楽CDの曲を取り込む方法を説明します。
SonicStage Vでは、インターネットに接続して、CD情報（曲名やアーティスト名など）を自動取得することができます。



❶ **デスクトップの アイコンをダブルクリックする。**

SonicStage Vが起動します。

❷ **音楽CDをドライブに入れる。**

SonicStage Vではじめて音楽CDを利用するときは、ドライブのチェックが行われる場合があります。ドライブチェックが表示された場合は、画面に従って操作してください。

❸ **［CDから取り込み］をクリックする。**

CDを録音する画面が表示され、音楽CDの曲が一覧で表示されます。

❹ **取り込みたい楽曲にチェック（☑）を付ける。**

CD内の楽曲すべてを取り込みたい場合、［すべてチェック］をクリックすると、すべての曲にチェックが付きます。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

❺ ［取り込み開始］をクリックする。

曲の取り込みが始まります。取り込みが終わると、曲単位で「取り込み済み」と表示されます。

ヒント

- Windowsの［スタート］メニューから、SonicStage Vを起動することもできます。
- SonicStage Vでは、曲をインターネット音楽配信サービスからパソコンに取り込んだり、すでにパソコンに保存している曲（MP3、WMA[*1]、ATRAC、AAC[*1]など）をSonicStage Vで取り込んで管理できます。

[*1] 著作権保護されたWMA/AACファイルは、取り込めません。

ご注意

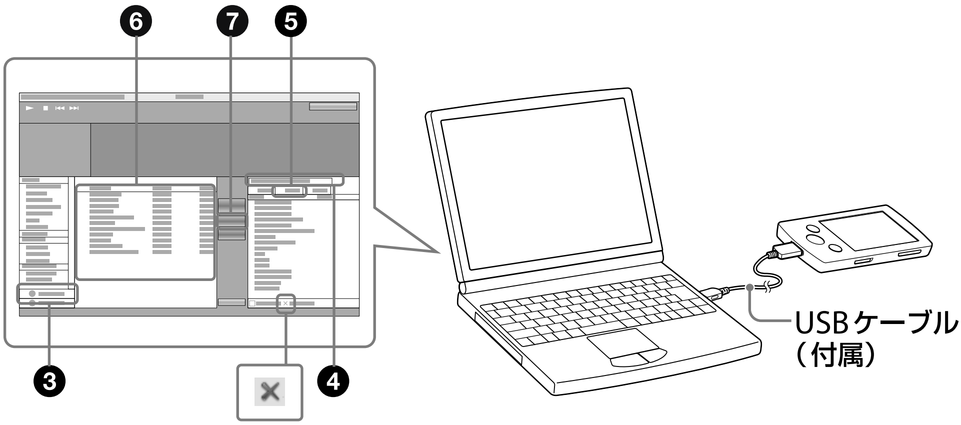
- SonicStage Vを使用中（CD録音中、曲の取り込み中、本機への転送処理中）にパソコンがスリープ／スタンバイ／休止状態へ移行すると、データが失われたり、SonicStage Vが正常に復帰しない場合がありますのでご注意ください。

目次
ホーム
メニュー
索引

本機に音楽を転送する

本機をパソコンと接続し、SonicStage Vで取り込んだ曲を、本機に転送します。

すでにパソコンと接続して、SonicStage Vが起動している場合は、手順❸から操作してください。



❶ **付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続する。**

USBケーブルのコネクタは、W. を上にして本機に差し込みます。

❷ **デスクトップの アイコンをダブルクリックする。**

SonicStage Vが起動します。

❸ **［機器へ転送］をクリックする。**

❹ **をクリックして本機を選ぶ。**

❺ **「転送モード」を［ミュージック］にする。**

「転送モード」が表示されない場合は次の手順へ進んでください。

❻ **転送する曲やアルバムを選ぶ。**

次のページにつづく⇩

目次
ホームメニュー
索引

❼ をクリックして曲を転送する。

「USB接続を解除しないでください。」と表示されて、転送が始まります。この表示が消えて、SonicStage Vの画面右側に曲やアルバムが表示されたら、本機を取りはずすことができます。
転送を途中で止めるには、[中止] をクリックします。

ヒント

- Windowsの [スタート] メニューから、SonicStage Vを起動することもできます。
- SonicStage Vで好きな曲と順番でまとめたプレイリストを作成し、転送すると、本機で好きな順番で再生できます。
- SonicStage Vで曲を削除するには、曲を選んで、 アイコンをクリックしてください。

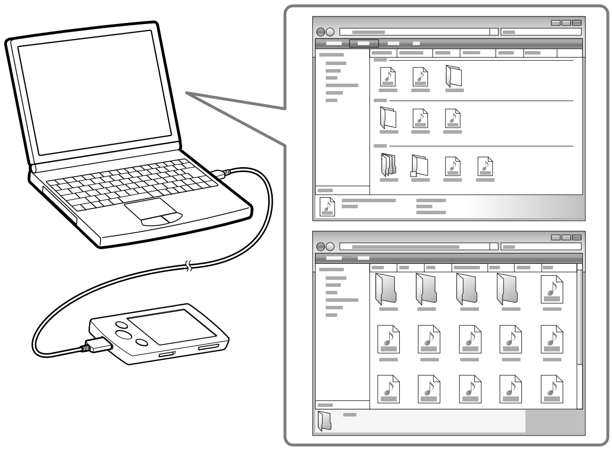
ご注意

- SonicStage Vでは、「歌詞ピタ」サービスはご利用いただけません。

目次
ホーム
メニュー
索引

C エクスプローラを使って音楽を転送する

Windowsのエクスプローラを使って、ドラッグアンドドロップで本機に曲を転送できます。

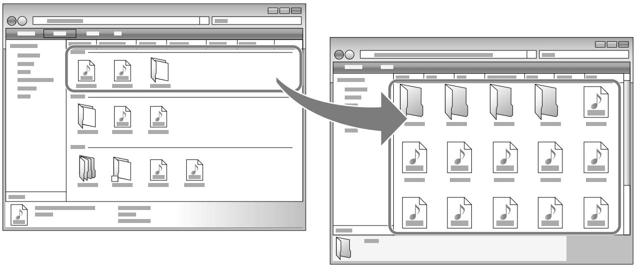


1 付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続する。

USBケーブルのコネクタは、W. を上にして本機に差し込みます。

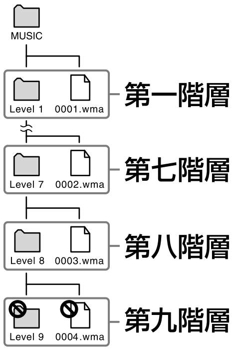
2 Windowsの[スタート]メニューから、[マイコンピュータ](または[コンピュータ])をクリックし、[WALKMAN]-[MUSIC]の順に選択する。

3 曲や曲の入ったフォルダを[MUSIC]フォルダにドラッグアンドドロップする。



次のページにつづく ⇩

- 「MUSIC」フォルダ以下の、第八階層までのファイルが本機で再生できます。



ご注意

- 「MUSIC」フォルダのフォルダ名は変更しないでください。本機で表示されなくなります。
- 「OMGAUDIO」フォルダ内のファイルやフォルダ名を変更したり、ファイルを転送したりしないでください。本機が正常に動作しなくなることがあります。
- 「MUSIC」フォルダにドラッグアンドドロップで転送した曲は、x-アプリやSonicStage Vでは表示されません。
- 著作権保護された曲は、ドラッグアンドドロップでの転送では再生できません。
- 「MUSIC」フォルダの下に本機で録音した曲を保存する「NWWM_REC」フォルダが作成されます。「NWWM_REC」フォルダやその中のファイルをパソコンで変更しないでください。本機で再生、録音できなくなる場合があります。

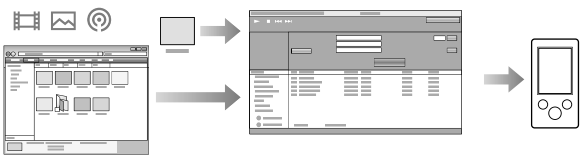
目次
ホーム
メニュー
索引

ビデオ・写真・ポッドキャストを転送する方法を選ぶ

パソコンに取り込んだビデオ・写真・ポッドキャストを本機に転送して楽しむことができます。
取り込んだビデオ・写真・ポッドキャストを本機に転送するには、以下の方法があります。

Ⓐ x-アプリをインストールした場合
x-アプリで取り込み、本機に転送する（☞ 38ページ）

x-アプリを使ってパソコンにビデオ・写真・ポッドキャストを取り込み、本機に転送してください。

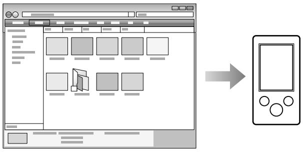


ヒント

- x-アプリについては、「ソフトウェアについて」（☞ 21ページ）をご覧ください。

Ⓑ ソフトウェアを使わない場合
Windowsのエクスプローラを使ってドラッグアンドドロップで本機に転送する（☞ 41ページ）

すでにパソコン内に取り込まれて保管されているビデオ・写真・ポッドキャストを、Windowsのエクスプローラで本機のそれぞれのコンテンツに対応したフォルダへドラッグアンドドロップして転送してください。



ご注意

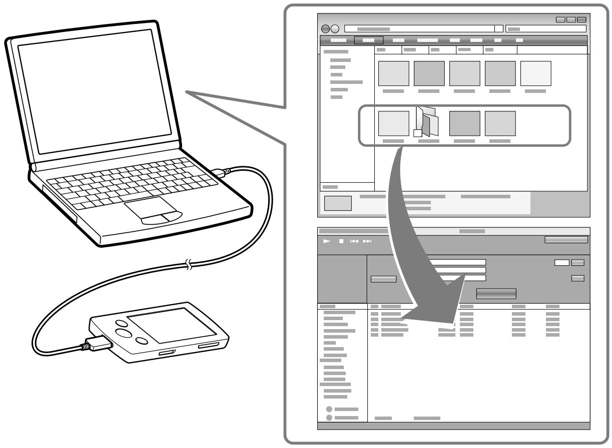
- SonicStage Vでは、ビデオ、写真、ポッドキャストは転送できません。
SonicStage Vをインストールしていて、ビデオ・写真・ポッドキャストを転送するときは「Ⓑ ソフトウェアを使わない場合」の方法で転送してください。
- 映画や音楽などのDVDやBlu-ray Discは、著作権保護されていますので、本機への転送はできません。
- 市販ソフトウェアやインターネット上のサービスなどには、さまざまなビデオ（YouTubeなど）に対して、PCへの取り込み、WALKMAN対応フォーマットへの変換ができるものがありますが、弊社ではそれらソフトウェアなどのご案内、フォーマット変換手順についてのご質問はお受けしておりません。

目次
ホーム
メニュー
索引

Ⓐ x-アプリを使ってビデオ・写真・ポッドキャストを転送する

パソコンのデータを取り込む

パソコンに取り込んだビデオ・写真をx-アプリに取り込んだり、x-アプリでインターネットからポッドキャストをダウンロードします。



❶ **付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続する。**

USBケーブルのコネクタは、W.を上にして本機に差し込みます。

❷ **デスクトップの アイコンをダブルクリックする。**

x-アプリが起動します。

❸ **x-アプリのコンテンツ一覧エリアにビデオや写真のデータまたは登録したいポッドキャストの登録アイコンをドラッグアンドドロップする。**

ビデオや写真やポッドキャストの登録情報がx-アプリ内に取り込まれます。

ヒント

- ビデオや写真は[ファイル]メニューからファイルを指定して取り込むこともできます。

ご注意

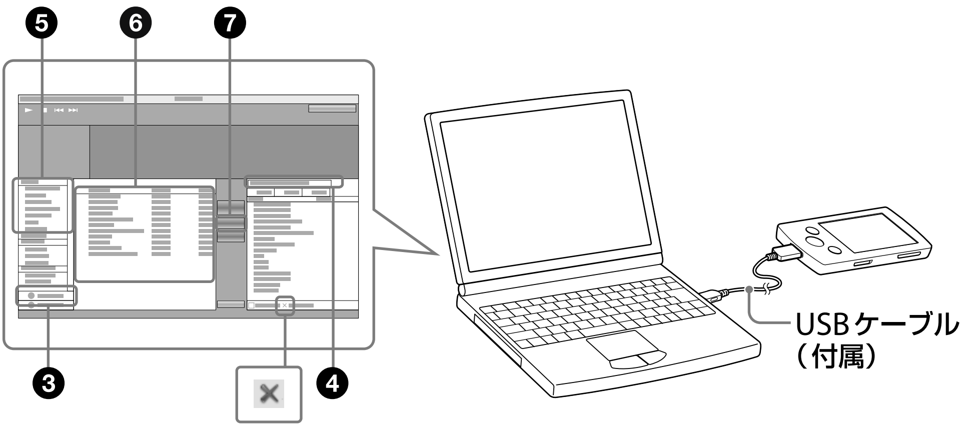
- 著作権保護されたビデオをx-アプリに取り込むことはできません。
- ビデオフォーマットによっては、取り込めなかったり、再生できない場合があります。

目次
ホーム
メニュー
索引

本機にビデオ・写真・ポッドキャストを転送する

本機をパソコンと接続し、x-アプリでビデオ・写真・ポッドキャストを転送します。

すでにパソコンと接続して、x-アプリが起動している場合は、手順❸から操作してください。



❶ **付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続する。**

USBケーブルのコネクタは、を上にして本機に差し込みます。

❷ **デスクトップの アイコンをダブルクリックする。**

x-アプリが起動します。

❸ **[機器へ転送]をクリックする。**

❹ **をクリックして本機を選ぶ。**

❺ **「ライブラリー」から転送したいコンテンツの種類を選ぶ。**

❻ **転送するビデオや写真やポッドキャストを選ぶ。**

次のページにつづく⇩

目次
ホームメニュー
索引

❼ をクリックして転送する。

「USB接続を解除しないでください。」と表示されて、転送が始まります。この表示が消えて、x-アプリの画面右側にコンテンツが表示されたら、本機を取りはずすことができます。
転送を途中で止めるには、[中止] をクリックします。

ヒント

- Windowsの [スタート] メニューから、x-アプリを起動することもできます。
- x-アプリのポッドキャストの設定メニューで、本機をパソコンに接続したときのポッドキャストの更新方法を設定できます。詳しくはx-アプリのヘルプをご覧ください。
- x-アプリでコンテンツを削除するには、コンテンツを選んで アイコンをクリックしてください。

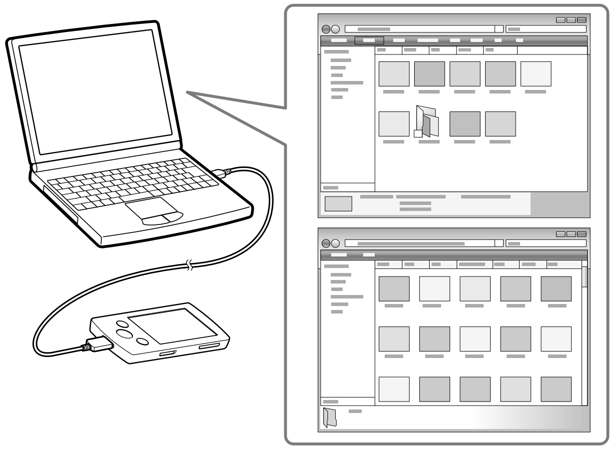
ご注意

- x-アプリで管理・再生できないファイルは転送できません。
  x-アプリで管理・再生できるビデオコンテンツは、本機に転送できます。本機が対応していない形式の場合には、x-アプリで変換処理が行われたうえで転送されます。

目次
ホーム メニュー
索引

Ⓑ エクスプローラを使ってビデオ・写真・ポッドキャストを転送する

Windowsのエクスプローラを使って、ドラッグアンドドロップで本機にビデオ・写真・ポッドキャストを転送できます。



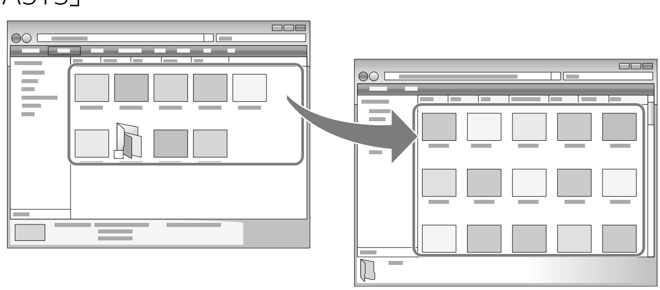
❶ **付属のUSBケーブルで本機とパソコンを接続する。**

USBケーブルのコネクタは、 を上にして本機に差し込みます。

❷ **Windowsの[スタート]メニューから、[マイコンピュータ](または[コンピュータ])-[WALKMAN]の順にクリックし、[VIDEO]、[PICTURE]、[DCIM]、[PODCASTS]のいずれかのフォルダを選択する。**

❸ **ビデオ・写真・ポッドキャストやビデオ・写真・ポッドキャストの入ったフォルダをそれぞれ、以下のフォルダにドラッグアンドドロップする。**

- ビデオは「VIDEO」、写真は「PICTURE」または「DCIM」、ポッドキャストは「PODCASTS」

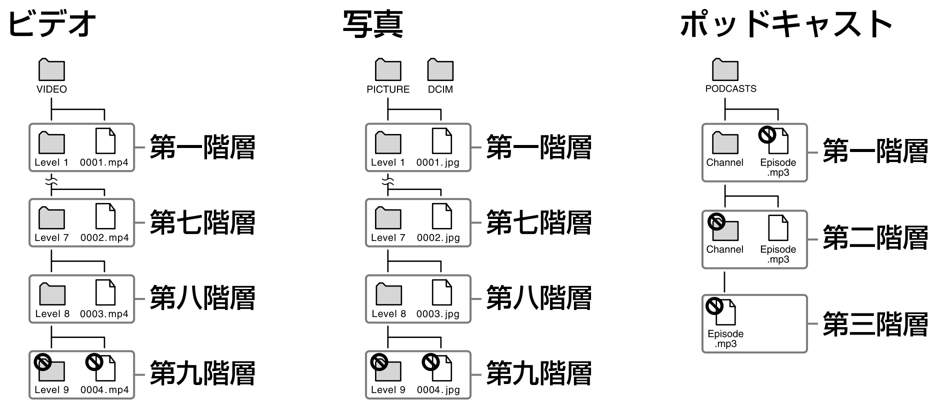


次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

ご注意

- 「VIDEO」、「PICTURE」、「DCIM」、「PODCASTS」フォルダのフォルダ名は変更しないでください。本機で表示されなくなります。
- ドラッグアンドドロップで転送したときに、本機で再生できるファイルの階層は以下のとおりです。
  ビデオは、「VIDEO」フォルダ以下の、第八階層までのファイルが、写真は、「PICTURE」、「DCIM」フォルダ以下の、第八階層までのファイルが再生できます。
  ポッドキャストは、「PODCASTS」フォルダ内にあるフォルダの、第二階層のファイルが再生できます。



- SonicStage Vをお使いの場合、ビデオコンテンツは、Windowsのエクスプローラでドラッグアンドドロップして本機に転送してください。
- x-アプリをお使いの場合、x-アプリで管理・再生できるビデオコンテンツは、本機に転送できます。本機が対応していない形式の場合には、x-アプリで変換処理が行われたうえで転送されます。

目次
ホーム
メニュー
索引

音楽を再生する（ミュージック）

音楽を再生するには、ホームメニューから ♫（ミュージック）を選びます。



❶ ホームメニュー ➡ ♫（ミュージック）を選ぶ。

「ミュージック」画面が表示されます。

- オプションメニューでの検索方法については、「検索して再生する」の「検索方法」をご覧ください（☞ 47ページ）。

❷ 希望の項目 ➡ 希望の曲を選ぶ。



音楽再生画面が表示され、曲の再生が始まります。

- 曲が表示されるまでリストから項目を選んでください。
- 音楽再生画面について詳しくは、☞ 44ページをご覧ください。

目次
ホーム
メニュー
索引

音楽再生画面

情報表示エリア（☞ 14ページ）



歌詞情報アイコン（☞ 59ページ）
曲名
アーティスト名
アルバム名／フォルダ名
現在再生曲番号／再生予定総曲数
経過時間／総再生時間 *1
タイムラインバー *1

プレイモード（☞ 56ページ）、再生範囲（☞ 57ページ）、イコライザ（☞ 57ページ）、
VPT（サラウンド）（☞ 60ページ）、A-Bリピート（☞ 65ページ）、歌詞表示（☞ 59ページ）アイコン表示

*1 ビットレートが可変ビットレート（VBR）の曲の再生時は、再生時間の表示やタイムラインバーの再生位置が安定せず、誤差が生じる場合があります。

再生画面での操作

再生操作（画面表示）	操作手順
再生（▶）／一時停止（❚❚）*1 する	▶❚❚ボタンを押す。
早送り（▶▶）／早戻し（◀◀）する	◀/▶ボタンを長押しする。
前（または再生中）（❙◀◀）／次（▶▶❙）の曲を頭出しする	◀/▶ボタンを押す。
ジャケット写真を表示してアルバムを選ぶ *2	▲/▼ボタンを押す。
リスト画面に戻る	BACK/HOMEボタンを押す。

*1 一時停止中に、一定時間操作がないと自動的に再生待機状態になります。
*2 「語学学習モード」が「オフ」のときのみ（☞ 64ページ）。

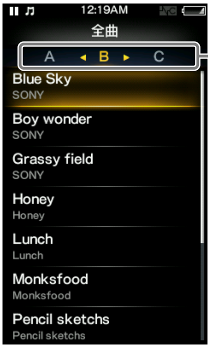
OPTION/PWR OFFボタンで選べる項目

項目	説明
🔍（サーチ）	サーチメニューを表示します。希望の検索方法を選んで曲を探すことができます。詳しくは、「検索して再生する」（☞ 47ページ）をご覧ください。
（オプションメニュー）	オプションメニューを表示します。音楽のオプションメニューについて詳しくは、「音楽のオプションメニューを使う」（☞ 54ページ）をご覧ください。

目次
ホーム
メニュー
索引

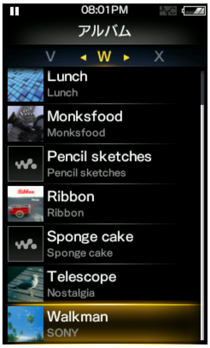
リスト画面

以下はリスト画面の一例です。



インデックス
曲やアルバム、アーティスト名などを、50音順やアルファベット順で頭文字を選んで、リスト画面の先頭に表示します。

曲のリスト画面



アルバムリスト画面
（ジャケット写真＋アルバム名）

ヒント

- アルバムリスト画面の表示形式は、ジャケット写真のみを並べたサムネイル表示にすることができます（☞ 63ページ）。

リスト画面での操作

リスト操作	操作手順
項目を選ぶ	►II ボタンを押す。
カーソルを上下に移動する	▲/▼ ボタンを押す。 • 長押しすると、速くスクロールできます。
インデックスを左右に移動する（インデックス表示時）	◄/► ボタンを押す。
リストの前/次のページを表示する（インデックス非表示時）	◄/► ボタンを押す。
カーソルを左右に移動する（インデックス非表示時のサムネイル画面）	◄/► ボタンを押す。
1つ上の階層のリスト画面に戻る	BACK/HOME ボタンを押す。

次のページにつづく ⇩

OPTION/PWR OFFボタンで選べる項目

項目	説明
（サーチ）[*1]	サーチメニューを表示します。詳しくは、「検索して再生する」（☞ 47ページ）をご覧ください。
（再生画面へ）	音楽再生画面に戻ります。
（オプションメニュー）[*1]	オプションメニューを表示します。音楽のオプションメニューについて詳しくは、「音楽のオプションメニューを使う」（☞ 54ページ）をご覧ください。

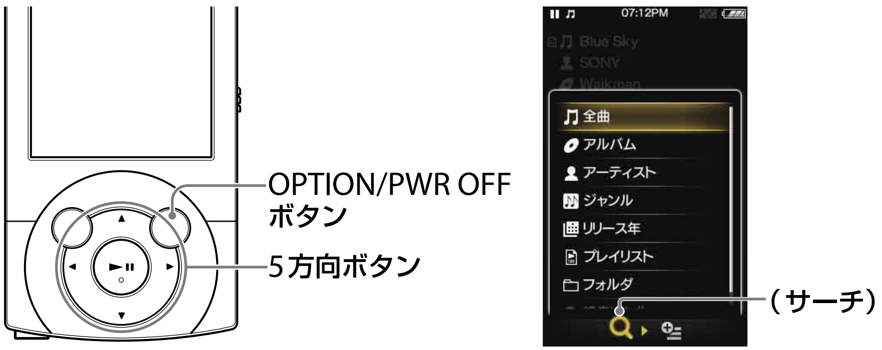
[*1] 画面によっては表示されません。

目次
ホームメニュー
索引

目次
ホーム
メニュー
索引

検索して再生する

音楽再生画面やリスト画面で 🔍（サーチ）を選ぶと、サーチメニューが表示されます。ミュージック画面またはサーチメニューから、希望の検索方法を選んで曲を再生できます。



---

❶ 音楽再生画面またはリスト画面でOPTION/PWR OFFボタンを押す。

---

❷ 🔍（サーチ）➡希望の検索方法の種類➡希望の曲を選ぶ。

音楽再生画面が表示され、曲の再生が始まります。

- 曲が表示されるまでリストから項目を選んでください。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

検索方法

種類	説明
全曲[*1]	全曲のリストから曲を選びます。
アルバム	アルバム→曲の順に選びます。
アーティスト[*2]	アーティスト→アルバム→曲の順に選びます。
ジャンル	ジャンル→アーティスト→アルバム→曲の順に選びます。
リリース年	リリース年 → アーティスト→曲の順に選びます。
プレイリスト[*3]	プレイリスト→曲の順に選びます。
フォルダ[*4]	フォルダ→曲の順に選びます。
録音した曲[*5]	フォルダ→曲の順に選びます。

[*1] 「全曲」のリストには、録音した曲は含まれません。

[*2] アーティスト名の頭文字が、「The（スペース）」、「ザ・」、「ジ・」の場合、これらの文字を省略して並び換えます。

[*3] x-アプリまたはSonicStage Vで作成するプレイリストです。プレイリストの作成については、x-アプリまたはSonicStage Vのヘルプをご覧ください。プレイリストに登録したジャケット写真は本機では表示されません。

[*4] 「フォルダ」には、録音した曲および、x-アプリまたはSonicStage Vで転送した「OMGAUDIO」フォルダ内の曲は含まれません。
フォルダが名前順に表示され、次にファイルが名前順に表示されます。この場合、大文字小文字は区別されません。

[*5] 「録音した曲」のリストには、録音した曲以外は含まれません。

ヒント

- 「全曲」、「アルバム」、「アーティスト」、「ジャンル」、「プレイリスト」、「フォルダ」のリスト表示は、数字、アルファベット、日本語、その他の順で表示されます。日本語の場合は、読み仮名に変換して50音順に並び、アルファベットの場合は、abc順で表示されます。
- 「リリース年」、「録音した曲」は日付の古い順に表示されます。

ジャケット写真でアルバムを選ぶ（アルバムスクロール）

音楽再生画面で▲/▼ボタンを押すと、ジャケット写真をスクロールさせてアルバムを選べます。

ご注意

- 「語学学習モード」が「オン」（☞ 64ページ）のときや、録音した曲の再生では、アルバムスクロール機能は使えません。

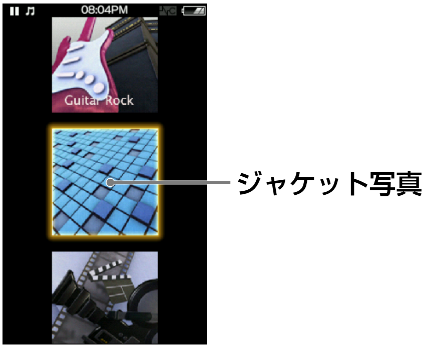
1 ホームメニュー ➡ ♫（ミュージック）➡ 希望の項目を選んで再生画面を表示する。

2 ▲/▼ボタンを押す。

アルバムスクロール画面が表示されます。

3 ▲/▼ボタンを押して、ジャケット写真を前/次に送る。

ジャケット写真はアルバム名順に表示されます。



4 希望のアルバムのジャケット写真を選び、►II ボタンを押す。

音楽再生画面が表示されて、選んだアルバムの曲の再生が始まります。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム メニュー
索引

目次
ホーム
メニュー
索引

ヒント

- ジャケット写真はx-アプリまたはSonicStage Vで登録することができます。x-アプリまたはSonicStage Vでジャケット写真を登録する方法については、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ご注意

- ジャケット写真は、曲にジャケット写真情報が付加されている場合のみ表示されます。
- ジャケット写真のフォーマットによっては、本機で表示されない場合があります。

操作の途中で元の音楽再生画面に戻るには

BACK/HOMEボタンを押す。

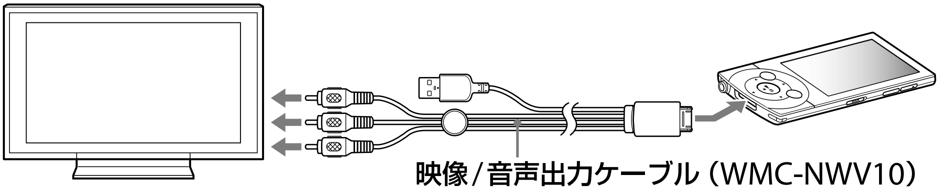
目次
ホーム
メニュー
索引

音楽再生をテレビで楽しむ

本機をテレビに接続し、歌詞やジャケット写真などを大きな画面で見たり、テレビのスピーカーから音楽を楽しめます。

音楽再生画面と音声をテレビに出力する

1. **別売りの映像/音声出力ケーブル(WMC-NWV10)を使って、本機とテレビを接続する。**



接続について詳しくは、別売りの映像/音声出力ケーブル(WMC-NWV10)の取扱説明書をご覧ください。

2. **ホームメニュー ➡ (各種設定) ➡「音楽設定」➡「テレビ出力(ミュージック)」➡「オン」を選ぶ。**

「テレビ出力(ミュージック)」設定の種類

種類	説明
オン	音楽の画面表示を、本機に接続したテレビに映します。
オフ	音楽の画面表示を、本機の画面で表示します。(お買い上げ時の設定)

ヒント

- ACアダプタ(AC-NWUM50A)(別売り)を使用することによって、充電しながらテレビ出力を楽しむことができます。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

ご注意

- USBケーブルで同時にパソコンに接続した場合、USB接続が優先されてテレビ出力は中断されます。
- テレビによっては、同じ画面を長時間表示したままにすると、焼き付きを生じることがあります。お使いのテレビの取扱説明書をご覧になり、焼き付きの可能性がある場合は、同じ画面を長時間表示しないようにしてください。
- 「テレビ出力サイズ」の設定はビデオ映像にのみ有効で、音楽の画面表示には無効です。
- 本機とテレビの画素の縦横比が異なるため、テレビによって縦横比が変わることがあります。
- 本機で再生する音楽やビデオの音声は、テレビ放送の音声などと比べて音が小さい場合があります。その場合、テレビの音量を上げて調整してください。テレビ出力の終了後は大きくした音量を下げてからテレビ放送に切り換えてください。

NTSC/PAL切替

本機が出力する映像信号を設定します。通常はお買い上げ時の設定のままお使いください。海外旅行や出張時に海外のテレビなどに接続するときは、接続するテレビに合わせて設定してください。

1 ホームメニュー → （各種設定）→「音楽設定」→「NTSC/PAL切替」→ テレビに合った設定の種類を選ぶ。

種類	説明
NTSC	映像信号をNTSC方式で出力します。（お買い上げ時の設定）
PAL	映像信号をPAL方式で出力します。

目次
ホーム メニュー
索引

曲を削除する

パソコンから本機に転送した曲は本機では削除できません。本機で録音した曲を削除する方法については、「録音した曲を削除する」（☞ 112ページ）をご覧ください。
本機に転送した曲を削除するときは、x-アプリまたはSonicStage Vを使用するか、Windowsのエクスプローラを使います。
x-アプリまたはSonicStage Vを使って曲を本機に転送した場合は、x-アプリまたはSonicStage Vを使って削除してください。詳しくは、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
Windowsのエクスプローラを使って曲を本機に転送した場合は、Windowsのエクスプローラを使って削除してください。

ご注意

- 「MUSIC」フォルダにある「NWWM_REC」フォルダやその中のファイルをパソコンで変更しないでください。本機で録音、再生ができなくなる場合があります。

音楽のオプションメニューを使う

音楽のリスト画面や再生画面でOPTION/PWR OFFボタンを押すと、音楽のオプションメニューを表示できます。オプションメニューの使いかたは☞ 18ページをご覧ください。

画面によってオプションメニューに表示される項目は異なります。各項目の設定値や使いかたは参照ページをご覧ください。

リスト画面でのみ表示される項目

項目	説明/参照ページ
アルバム一覧表示形式	アルバムリストの表示形式を設定します（☞ 63ページ）。

再生画面で表示される項目

項目	説明/参照ページ
プレイモード	再生方法を設定します（☞ 56ページ）。
再生範囲設定	再生範囲を設定します（☞ 57ページ）。
語学学習モード*1	曲の再生中に、ちょっと戻し機能とA-Bリピート機能が使えるようになります（☞ 64ページ）。
DPC（スピードコントロール）	曲の再生速度を調整できます（☞ 66ページ）。
歌詞表示*1	曲の歌詞が表示されます（☞ 59ページ）。
イコライザ	音質を設定します（☞ 57ページ）。
VPT（サラウンド）	VPT（サラウンド）を設定します（☞ 60ページ）。
詳細情報	曲の再生時間、音楽ファイル形式、ビットレートなどが表示されます（☞ 55ページ）。

*1 「語学学習モード」と「歌詞表示」は同時に使用できません。どちらかを「オン」に設定すると、もう片方は自動で「オフ」に設定されます。

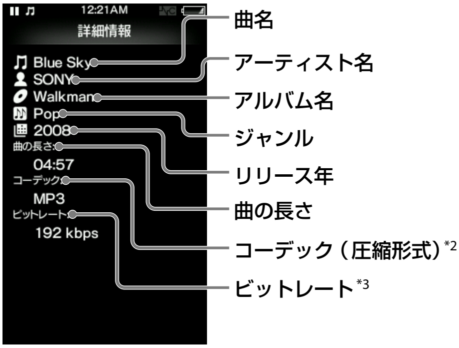
目次
ホーム
メニュー
索引

詳細情報画面を表示する

❶ 音楽再生画面でOPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。

❷ 「詳細情報」を選ぶ。

詳細情報画面 *1



*1 録音した曲の場合は、項目が一部異なります。
*2 著作権保護されているコンテンツには「Secured」と表示されます。
*3 ビットレートが可変ビットレートの場合は「VBR」と表示されます。

目次
ホームメニュー
索引

音楽の設定を変更する

音楽の設定を変更するには、（各種設定）の「音楽設定」を選びます。



プレイモード

曲を順不同に聞いたり、選んだ再生方法で繰り返し再生できます。

1 ホームメニュー→（各種設定）→「音楽設定」→「プレイモード」→希望のプレイモードの種類を選ぶ。

種類（アイコン）	説明
ノーマル（表示なし）	再生範囲の曲を順に再生します。（お買い上げ時の設定）
リピート（）	再生範囲の曲を順に繰り返し再生します。
シャッフル（SHUF）	再生範囲のすべての曲を順不同に再生します。
シャッフルリピート（SHUF）	再生範囲のすべての曲を順不同に繰り返し再生します。
1曲リピート（1）	再生中または再生を始めた曲を繰り返し再生します。

ご注意

- 設定した再生範囲（☞ 57ページ）によって、再生内容が異なります。
- 本機では、パソコンから転送した曲と本機で録音した曲はそれぞれ保存場所が異なります。そのため、パソコンから転送した曲と本機で録音した曲を合わせたシャッフル再生や連続再生はできません。

目次
ホームメニュー
索引

再生範囲設定

曲の再生範囲を設定できます。

1 ホームメニュー→（各種設定）→「音楽設定」→「再生範囲設定」→希望の再生範囲の種類を選ぶ。

種類（アイコン）	説明
全範囲を再生（表示なし）	ミュージックメニュー内の曲、または録音したすべての曲を再生します。 ミュージックメニュー内のアルバムなどを順に再生したい場合はこちらを選択してください。
選択範囲内を再生（）	再生を始めた項目（アーティストやアルバム）内の曲、または録音した曲のフォルダ内の曲のみを再生します。

イコライザ

音楽のジャンルなどに合わせて音質を設定できます。

1 ホームメニュー→（各種設定）→「音楽設定」→「イコライザ」→希望のイコライザの種類を選ぶ。

種類（アイコン）	説明
オフ（表示なし）	イコライザ機能を無効にし、通常の音で再生します。（お買い上げ時の設定）
ヘビー（H）	低域と高域を強調した迫力のある音質になります。
ポップス（P）	中域を強調したヴォーカルなどに適した音質になります。
ジャズ（J）	メリハリのある低域と高域を強調した音質になります。
ユニーク（U）	小さな音でも比較的聞き取りやすいように低域と高域を強調した音質になります。
カスタム 1（1）	任意に設定した値になります。設定方法は☞ 58ページをご覧ください。
カスタム 2（2）	

ご注意

- 「カスタム 1」または「カスタム 2」を選んだときと、それ以外の音質で音量が変わったように感じる場合は、音量を調節してください。
- ビデオまたはFMラジオ、ポッドキャスト（ビデオのみ）、録音モニターや、ノイズキャンセル機能の外部入力の音声には、イコライザの設定は反映されません。

次のページにつづく

目次
ホーム
メニュー
索引

イコライザの値をカスタム設定する

CLEAR BASS（低音）と5音域のイコライザの値を設定し、「カスタム 1」または「カスタム 2」としてあらかじめ登録できます。

1 ホームメニュー → （各種設定）→「音楽設定」→「イコライザ」→「カスタム 1」または「カスタム 2」を選ぶ。

2 ◀/▶ボタンでCLEAR BASSまたは音域のスライダーを選択し、▲/▼ボタンで設定値を選び、▶II ボタンを押して決定する。

音楽設定画面に戻ります。

- CLEAR BASSは4段階、5つの音域は7段階で設定できます。
- 数値を決定したあとは、必ず▶II ボタンを押して決定してください。決定する前にBACK/HOMEボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

ご注意

- ビデオまたはFMラジオ、ポッドキャスト（ビデオのみ）、録音モニターや、ノイズキャンセル機能の外部入力の音声には、イコライザの設定は反映されません。

目次
ホーム
メニュー
索引

歌詞表示

x-アプリで「歌詞ピタ」（データ）が付けられた曲の歌詞を表示できます。曲の進行に合わせて歌詞を同期させて表示します。

1 ホームメニュー → （各種設定）→「音楽設定」→「歌詞表示」→ 希望の設定の種類を選ぶ。

種類	説明
オン	歌詞情報が付けられた曲は画面に歌詞を表示します。（お買い上げ時の設定）
オフ	歌詞を表示しません。

歌詞表示中の音楽再生画面



ご注意

- x-アプリで歌詞を取得できない曲は、歌詞が表示されません。
- SonicStage Vでは、「歌詞ピタ」（データ）を付けることができません。
- 曲と歌詞が若干ずれる場合もあります。
- moraから購入した楽曲や「着うたフル®」に付いている静止画による歌詞情報は表示することができません。
- 「語学学習モード」（☞ 64ページ）と「歌詞表示」は同時に使用できません。どちらかを「オン」に設定すると、もう片方は自動で「オフ」に設定されます。
- ポッドキャストの再生画面（☞ 82ページ）に歌詞を表示することはできません。
- 「画面オフタイマー」で設定した時間が経過すると、画面表示は消えます。「画面オフタイマー」は30分まで設定できます（☞ 126ページ）。

目次
ホーム
メニュー
索引

VPT（サラウンド）

VPT*1（サラウンド）機能を使った音響効果を設定し、再生音に臨場感を設定できます。
スタジオ→ライブ→クラブ→アリーナの順で臨場感が広がります。

1 ホームメニュー→（各種設定）→「音楽設定」→「VPT（サラウンド）」→希望のVPT（サラウンド）の種類を選ぶ。

種類（アイコン）	説明
オフ（表示なし）	VPT機能を無効にし、通常の音で再生します。（お買い上げ時の設定）
スタジオ（S）	録音スタジオにいるような臨場感になります。
ライブ（L）	ライブハウスにいるような臨場感になります。
クラブ（C）	クラブにいるような臨場感になります。
アリーナ（A）	アリーナ会場にいるような臨場感になります。
マトリックス（M）	全方向から音が再現されるようなチューニングを加えたモードで、ナチュラルな再生音ながら豊かなサラウンド音場感が得られます。
カラオケ（K）	センターボーカルを減衰させ、演奏音に対してサラウンド効果を持たせることで、ステージ上にいるような臨場感を得ることができます。

*1 VPT : Virtual Phones Technology（バーチャルホンテクノロジー）は、ソニーが独自に開発した特殊音響効果です。

ご注意

- ビデオまたはFMラジオ、ポッドキャスト（ビデオのみ）、ノイズキャンセル機能の外部入力の音声には、VPT（サラウンド）の設定は反映されません。

目次
ホーム
メニュー
索引

DSEE（高音域補完）

圧縮音源に対して高音質化処理を施し、さらに圧縮で取り除かれた高音域を補完することで、オリジナル音源に近い自然で広がりのある音を再現します。

1 ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「音楽設定」➡「DSEE（高音域補完）」➡ 希望の設定の種類を選ぶ。

種類	説明
オン	DSEE[*1]（高音域補完）機能が有効になり、オリジナル音源に近い自然で広がりのある音で再生します。
オフ	DSEE（高音域補完）機能を無効にし、通常の音で再生します。（お買い上げ時の設定）

[*1] DSEE とは Digital（デジタル） Sound（サウンド） Enhancement（エンハンスメント） Engine（エンジン） の略称で、ソニーが独自開発した高音域補完技術です。

ご注意

- ビデオまたはFM ラジオ、ポッドキャスト（ビデオのみ）、外部入力の音声には、DSEE（高音域補完）の設定は反映されません。
- 高音域が失われていない圧縮されていないファイル形式や高いビットレートの曲には、DSEE（高音域補完）機能は働きません。
- 適切に補完できない低すぎるビットレートの曲には、DSEE（高音域補完）機能は働きません。

目次
ホーム メニュー
索引

クリアステレオ

ヘッドホンの左右から出る音を、デジタル処理によりくっきりと区別してよりステレオ感を強調した音で再生します。

1 ホームメニュー➡（各種設定）➡「音楽設定」➡「クリアステレオ」➡希望の設定の種類を選ぶ。

種類	説明
オン	クリアステレオ機能の効果を得たい場合に選びます。
オフ	クリアステレオ機能を無効にし、通常の音で再生します。（お買い上げ時の設定）

ご注意

- ビデオまたはFMラジオ、ポッドキャスト（ビデオのみ）、外部入力の音声には、クリアステレオの設定は反映されません。
- クリアステレオ機能は、付属のヘッドホンで効果が最適になるように設定されています。他のヘッドホンではクリアステレオの効果が感じられないことがあります。その場合は、クリアステレオ機能を「オフ」にしてください。

ダイナミックノーマライザ

曲どうしの音量レベルの差が少なくなるように音量を揃えて再生できます。この設定により、録音レベルの異なる複数のアルバムの曲をシャッフル再生するときでも、曲によって音量が大きすぎたり、小さすぎたりするのを避けられます。

1 ホームメニュー➡（各種設定）➡「音楽設定」➡「ダイナミックノーマライザ」➡希望の設定の種類を選ぶ。

種類	説明
オン	曲どうしの音量レベルの差が少なくなります。
オフ	曲を取り込んだときの音量レベルのまま再生します。（お買い上げ時の設定）

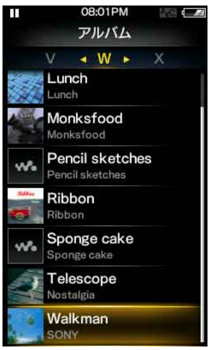
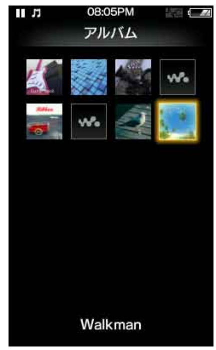
ご注意

- ビデオまたはFMラジオ、ポッドキャスト（ビデオのみ）、外部入力の音声には、ダイナミックノーマライザの設定は反映されません。

アルバム一覧表示形式

アルバム一覧の表示形式を選べます。

1 ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「音楽設定」➡「アルバム一覧表示形式」➡ 希望の表示形式の種類を選ぶ。

種類	ジャケット写真＋アルバム名 （お買い上げ時の設定）	ジャケット写真のみ
画面		

ヒント

- x-アプリまたはSonicStage Vで登録されたジャケット写真が表示されます。ジャケット写真の登録方法については、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
  なお、プレイリストに登録されたジャケット写真は、本機では表示されません。

目次
ホームメニュー
索引

目次
ホーム
メニュー
索引

語学学習機能を使う

「語学学習モード」を「オン」にすると、クイックリプレイ（約3秒の早戻し）機能とA-Bリピート（区間リピート）機能を使えるようになります。また、この章では再生速度調整機能についても説明します。

ヒント

- 再生速度は、「語学学習モード」が「オン」「オフ」どちらの設定でも調整できます（☞ 66ページ）。
- 「語学学習モード」が「オン」のとき、ポッドキャストの音楽再生画面（☞ 82ページ）でもクイックリプレイ機能とA-Bリピート機能が使えます。また、再生速度の設定はポッドキャストの音楽再生画面でも有効です。

語学学習モードをオンにする

1 ホームメニュー → （各種設定）→「音楽設定」→「語学学習モード」→「オン」を選ぶ。

種類	説明
オン	語学学習モードが有効になり、クイックリプレイ機能とA-Bリピート機能が使えるようになります。
オフ	語学学習モードが無効になります。（お買い上げ時の設定）

ご注意

- 「語学学習モード」と「歌詞表示」（☞ 59ページ）は同時に使用できません。どちらかを「オン」に設定すると、もう片方は自動で「オフ」に設定されます。
- 「語学学習モード」を「オン」に設定すると、▲/▼ボタンは語学学習用の動作になり、アルバムスクロール機能（☞ 49ページ）は使用できなくなります。

語学学習中の音楽再生画面



目次
ホーム
メニュー
索引

クイックリプレイをする

再生中の音声を約3秒前に戻して聞き直せます。

1. **音楽再生画面で再生中に▲ボタンを押す。**

ヒント

- A点(A-Bリピートの開始点)が設定されているとき、A点から3秒以内の位置で▲ボタンを押すと、A点の位置に戻ります。

A-Bリピート再生をする

再生中の音声の任意の区間を繰り返し再生できます。

1. **A-Bリピートを開始したい位置で▼ボタンを押す。**

   A点(A-Bリピートの開始点)が表示されます。A点から曲の終わりまでの区間が繰り返し再生されます。

2. **A-Bリピートの終点に設定したい位置で▼ボタンを押す。**

   B点(A-Bリピートの終点)が表示されます。A点からB点までの区間が繰り返し再生されます。

ご注意

- A点とB点の間は最低1秒間の間隔を空けてください。A点から1秒以内の位置で▼ボタンを押してもB点は設定されません。

A-Bリピート中の操作

A-Bリピート中は、一時停止/再生再開、早送り、早戻し(☞44ページ)、クイックリプレイの操作を通常と同様に行えます。また、次の操作ができます。

A-Bリピート操作	操作手順
A点に戻る	◀ボタンを押す。
B点に進み、A-Bリピートを解除する	▶ボタンを押す。
A-Bリピートを解除する	▼ボタンを押す。

目次
ホーム
メニュー
索引

再生速度を調整する（DPC（スピードコントロール））

再生速度を0.5倍から2倍の間で調整できます。DPC(デジタル・ピッチ・コントロール)機能により、再生速度を変更しても自然な音程で再生することができます。

ヒント

- 再生速度は、「語学学習モード」が「オン」「オフ」どちらの設定でも調整できます。
- 再生速度の設定はポッドキャストの音楽再生画面（☞ 82ページ）でも有効です。
- 再生速度を変更しても、歌詞を同期して表示することができます（☞ 59ページ）。

1 ホームメニュー → （各種設定）→「音楽設定」→「DPC（スピードコントロール）」→ 希望の設定の種類を選ぶ。

種類	説明
×0.5	再生速度を0.5倍にします。
×0.75	再生速度を0.75倍にします。
×0.9	再生速度を0.9倍にします。
オフ	通常の速度で再生します。（お買い上げ時の設定）
×1.1	再生速度を1.1倍にします。
×1.25	再生速度を1.25倍にします。
×1.5	再生速度を1.5倍にします。
×1.75	再生速度を1.75倍にします。
×2.0	再生速度を2.0倍にします。

ビデオを再生する（ビデオ）

ビデオを再生するには、ホームメニューから（ビデオ）を選びます。

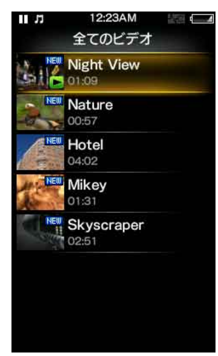


1 ホームメニュー ➡ （ビデオ）を選ぶ。

「ビデオ」画面が表示されます。

- オプションメニューでの検索方法については、「検索して再生する」の「検索方法」をご覧ください（☞ 71ページ）。

2 希望の項目 ➡ 希望のビデオを選ぶ。



ビデオ再生画面が表示され、ビデオの再生が始まります。

- ビデオが表示されるまでリストから項目を選んでください。
- ビデオ再生画面について詳しくは、☞ 68ページをご覧ください。

ヒント

- 本機へのデータ転送に対応したブルーレイディスクレコーダーからのおでかけ転送のデータも、ホームメニューから（ビデオ）を選んで再生できます。詳しくは、お使いのブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
- 「画面オフ設定」（☞ 80ページ）で「ホールド時画面オフ」に設定すると、ビデオを再生中にHOLD（ホールド）状態にしたとき、画面をオフにして音声のみを楽しむことができます。またこれにより、消費電力を抑え、電池を長持ちさせることができます（☞ 134ページ）。
- リストに表示されるビデオの順番は、ビデオを転送した日付順やビデオのタイトル順で並び替えることができます（☞ 80ページ）。

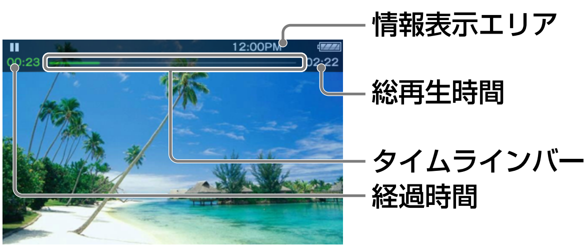
次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

目次
ホーム メニュー
索引

- ドラッグアンドドロップで転送するビデオファイルには、パソコンでサムネイル（リストに表示するための小さな画像）を付けることができます。以下の規則に従って作成してください。
  - JPEG形式のファイルにする
  - 横160×縦120ドットにする
  - ビデオファイルと同じ名前の".jpg"ファイルとする
  - ビデオファイルと同じフォルダに置く
- 本機で再生できるビデオファイルの解像度は最大720×480となります。再生できるビデオの仕様については「主な仕様」（☞194ページ）をご覧ください。

ビデオ再生画面



再生画面での操作

ビデオ再生時は本機は横向き表示になり、▲/▼ボタンと◀/▶ボタンは、本機を横向きに持ったときの方向キーになります。ビデオをテレビに映すとき（☞73ページ）は、5方向ボタンは通常の縦向きになります。

再生操作（画面表示）	操作手順
再生（▶）/一時停止（❚❚）[*1]する	▶❚❚ボタンを押す。
早送り（▶▶）/早戻し（◀◀）する	再生中に◀/▶ボタンを長押しする。[*2]
一時停止中に早送り（▶▶）/早戻し（◀◀）する[*3]	一時停止中に◀/▶ボタンを長押しする。
前（❙◀◀）/次（▶▶❙）の場面[*4]やチャプターに移動する	▲ボタン（前に戻る）/▼ボタン（次に進む）を押す。
少し前に戻る/先に進む	一時停止中に◀/▶ボタンを押す。
リスト画面に戻る	BACK/HOMEボタンを押す。

[*1] 一時停止中に、一定時間操作がないと自動的に再生待機状態になります。

[*2] 早送り/早戻し中に▶/◀ボタンを押し直すたびに、3段階で早送り再生（▶▶**1**（10倍）、▶▶**2**（30倍）、▶▶**3**（100倍））/早戻し再生（◀◀**1**（10倍）、◀◀**2**（30倍）、◀◀**3**（100倍））します。▶/◀ボタンから指をはなすと、早送り/早戻しを終了して、再生に戻ります。

[*3] 一時停止中の早送り/早戻しの速度は、ビデオの長さによって異なります。

[*4] ビデオにチャプターが設定されていない場合は、5分ごとに場面が移動します。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

OPTION/PWR OFF ボタンで選べる項目

項目	説明
（サーチ）	サーチメニューを表示します。希望の方法を選ぶと、リスト画面が表示されて希望のビデオを探すことができます。詳しくは、「検索して再生する」（☞ 71ページ）をご覧ください。
（シーンスクロール）	シーンスクロール画面を表示します。画面に表示されるサムネイル[*1]をスクロールして、希望の場面やチャプターを選べます。詳しくは、「サムネイルから見たい場面を探す（シーンスクロール）」（☞ 72ページ）をご覧ください。
（オプションメニュー）	オプションメニューを表示します。ビデオのオプションメニューについて詳しくは、「ビデオのオプションメニューを使う」（☞ 76ページ）をご覧ください。

[*1] サムネイルとは、ビデオのワンシーンの縮小表示のことです。

リスト画面

以下はリスト画面の一例です。



リスト画面のアイコン表示

ビデオの欄には、以下のアイコンが表示されます。

表示	説明
NEW（未視聴アイコン）	一度も再生していないビデオを示します。
（再生中アイコン）	再生中のビデオを示します。

次のページにつづく ⇩

目次
ホームメニュー
索引

リスト画面での操作

リスト操作	操作手順
項目を選ぶ	►II ボタンを押す。
カーソルを上下に移動する	▲/▼ ボタンを押す。 • 長押しすると、速くスクロールできます。
リストの前/次のページを表示する	◄/► ボタンを押す。
1つ上の階層のリスト画面に戻る	BACK/HOME ボタンを押す。

OPTION/PWR OFF ボタンで選べる項目

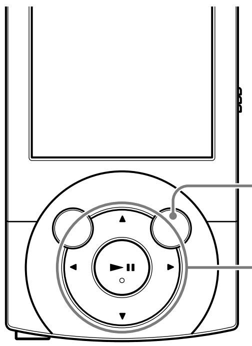
項目	説明
(サーチ)[*1]	サーチメニューを表示します。希望の方法を選ぶと、リスト画面が表示されて希望のビデオを探すことができます。詳しくは、「検索して再生する」(☞ 71 ページ)をご覧ください。
(再生画面へ)	ビデオ再生画面に戻ります。
(オプションメニュー)[*1]	オプションメニューを表示します。ビデオのオプションメニューについて詳しくは、「ビデオのオプションメニューを使う」(☞ 76 ページ)をご覧ください。

*1 画面によっては表示されません。

目次
ホーム
メニュー
索引

検索して再生する

ビデオ再生画面やリスト画面で 🔍（サーチ）を選ぶと、サーチメニューが表示されます。「ビデオ」画面またはサーチメニューから、希望の検索方法を選ぶと、リスト画面から希望のビデオを選んで再生できます。





❶ ビデオ再生画面またはリスト画面でOPTION/PWR OFFボタンを押す。

❷ 🔍（サーチ）➡希望の検索方法の種類➡希望のビデオを選ぶ。

ビデオ再生画面が表示され、ビデオの再生が始まります。

- ビデオのタイトルが表示されるまでリストから項目を選んでください。

検索方法

種類	説明
全てのビデオ	すべてのビデオを一覧表示し、ビデオを選びます。
ジャンル	ジャンル→ビデオの順に選びます。
おでかけ転送など	ブルーレイディスクレコーダーなどから転送したビデオのリストから選べます。
VIDEO	フォルダ（ビデオのまとまり）単位で選べます。 フォルダ→ビデオの順に選びます。

目次
ホーム
メニュー
索引

サムネイルから見たい場面を探す（シーンスクロール）

サムネイル[*1]を表示して、再生したい場面やチャプターを選べます。

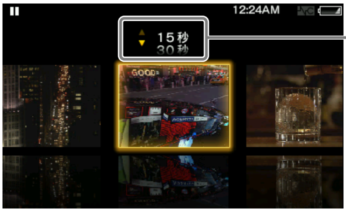
[*1] サムネイルとは、ビデオのワンシーンの縮小表示のことです。

❶ ビデオ再生画面でOPTION/PWR OFFボタンを押す。

❷ ◀/▶ボタンで （シーンスクロール）を選ぶ。

シーンスクロール画面が表示されます。

❸ ◀/▶ボタンでサムネイルを前/次へ送る。



シーン設定項目

サムネイルを表示する間隔を設定できます。

「15秒」、「30秒」、「1分」、「2分」、「5分」、「チャプター」の中から選べます。▲/▼ボタンを押して希望の間隔を選んでください。

❹ 希望の画面を選び、▶II ボタンを押して決定する。

ビデオ再生画面が表示されて、選んだ場面やチャプターの先頭から、ビデオの再生が始まります。

ヒント

- チャプターが設定されているビデオ（ブルーレイディスクレコーダーからのおでかけ転送のデータなど）では、チャプターごとのサムネイルを表示するように設定することもできます。
- シーン設定項目で設定した時間間隔通りに、正確にサムネイルが表示されるわけではありません。

操作の途中で元のビデオ再生画面に戻るには

BACK/HOMEボタンを押す。

目次
ホーム
メニュー
索引

ビデオをテレビで楽しむ

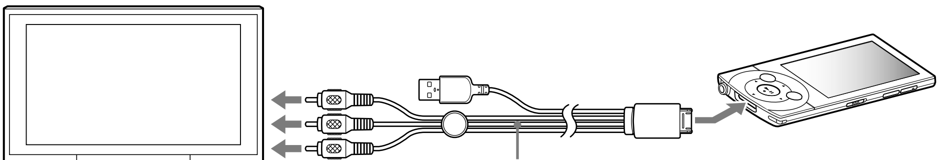
本機をテレビに接続し、本機のビデオの映像と音声をテレビで楽しむことができます。

ビデオをテレビに出力する

ご注意

- テレビにビデオ映像を映す前に、お使いのテレビに合わせて「テレビ出力サイズ」を設定してください（☞ 74ページ）。

1 別売りの映像／音声出力ケーブル（WMC-NWV10）を使って、本機とテレビを接続する。



接続について詳しくは、別売りの映像／音声出力ケーブル（WMC-NWV10）の取扱説明書をご覧ください。

2 ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「ビデオ設定」➡「テレビ出力（ビデオ）」➡「オン」を選ぶ。

「テレビ出力（ビデオ）」設定の種類

種類	説明
オン	ビデオを、本機に接続したテレビに映します。
オフ	ビデオを、本機の画面で表示します（お買い上げ時の設定）。

次のページにつづく ⇩

目次
ホームメニュー
索引

ご注意

- 本機に表示される映像の全領域がテレビに表示されるとは限りません。
- テレビ画面にはビデオ映像のみ映ります。本機のメッセージなどの情報は本機の画面に表示されます。
- ビデオポッドキャストをテレビに映すことはできません。
- ビデオをテレビに映すときは、5方向ボタンは通常の縦向きになります。
- ビデオをテレビに映すときは、オプションメニューは使用できません。BACK/HOMEボタンを押してビデオ再生リストに戻ってから使ってください。
- 著作権保護されているビデオはテレビに出力できない場合があります。
- 本機で再生する音楽やビデオの音声は、テレビ放送の音声などと比べて音が小さい場合があります。その場合、テレビの音量を上げて調整してください。テレビ出力の終了後は大きくした音量を下げてからテレビ放送に切り換えてください。

テレビ出力サイズ

本機をつなぐテレビに合わせて、「16:9」または「4:3」に設定してください。

1 ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「ビデオ設定」➡「テレビ出力サイズ」➡ テレビに合った設定の種類を選ぶ。

種類	説明
16:9	ビデオ映像のサイズを、ワイド画面（16:9）に調整して出力します。
4:3	ビデオ映像のサイズを、通常画面（4:3）に調整して出力します。（お買い上げ時の設定）

NTSC/PAL 切替

本機が出力する映像信号を設定します。通常はお買い上げ時の設定のままお使いください。海外旅行や出張時に海外のテレビなどにつなぐときは、つなぐテレビに合わせて設定してください。

1 ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「ビデオ設定」➡「NTSC/PAL 切替」➡ 希望の設定の種類を選ぶ。

種類	説明
NTSC	映像信号をNTSC方式で出力します。（お買い上げ時の設定）
PAL	映像信号をPAL方式で出力します。

目次
ホームメニュー
索引

ビデオを削除する

本機に転送したビデオを削除することができます。

再生中のビデオを削除する

1. 削除したいビデオの再生画面でOPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。
2. 「このビデオを削除」➡「はい」を選ぶ。
   ビデオが削除されます。

ビデオをリストから選んで削除する

1. ビデオのリスト画面でOPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。
2. 「ビデオ削除」➡削除したいビデオ➡「はい」を選ぶ。
   ビデオが削除されます。

ヒント

- 削除したいビデオを選択中にBACK/HOMEボタンを押すと、元のリスト画面に戻ります。

ビデオのオプションメニューを使う

ビデオのリスト画面や再生画面でOPTION/PWR OFFボタンを押すと、ビデオのオプションメニューを表示できます。オプションメニューの使いかたは☞18ページをご覧ください。
画面によってオプションメニューに表示される項目は異なります。各項目の設定値や使いかたは参照ページをご覧ください。

リスト画面でのみ表示される項目

項目	説明/参照ページ
ビデオ一覧の並び順	リスト画面に表示されるビデオの順番を並び替えます（☞80ページ）。
テレビ出力	本機のビデオをテレビに出力します（☞73ページ）。
NTSC/PAL切替	テレビへの出力信号の種類を設定します（☞74ページ）。
テレビ出力サイズ	テレビの画面サイズを設定します（☞74ページ）。
ビデオ削除	ビデオを削除します（☞75ページ）。

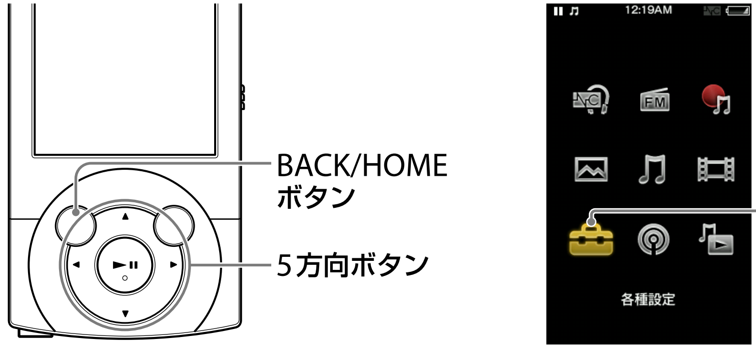
再生画面で表示される項目

項目	説明/参照ページ
ズーム設定	ズームを設定します（☞77ページ）。
輝度設定	画面の明るさを設定します（☞127ページ）。
画面オフ設定	HOLD（ホールド）状態にしたとき、画面をオフにしてビデオの音声だけを楽しむことができます（☞80ページ）。
詳細情報	ビデオのファイルサイズ、解像度、ビデオ/オーディオファイルの圧縮形式、ファイル名などが表示されます。
このビデオを削除	選んだビデオを本機から削除します（☞75ページ）。

目次
ホーム
メニュー
索引

ビデオの設定を変更する

ビデオの設定を変更するには、（各種設定）の「ビデオ設定」を選びます。



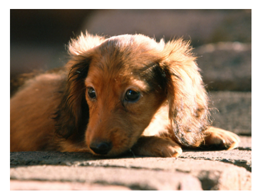
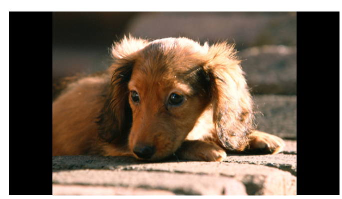
ズーム設定

再生中のビデオを拡大して見られます。ビデオをテレビに出力するときは、「テレビ出力サイズ」の設定に合わせて拡大します（☞ 73、74ページ）。

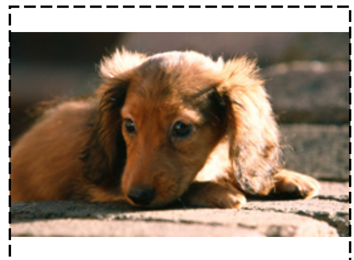
1. **ホームメニュー➡（各種設定）➡「ビデオ設定」➡「ズーム設定」➡希望のズーム設定の種類を選ぶ。**

次のページにつづく⇩

目次
ホーム メニュー
索引

種類	説明
オート	ビデオの縦横比を維持したまま、ビデオ全体が表示されるように拡大/縮小されます。（お買い上げ時の設定） 16:9（横長）のビデオを4:3のテレビで表示すると、画面の上下は黒く表示されます。4:3のビデオをワイドテレビで表示すると、画面の左右は黒く表示されます。 **本機** 16：9の映像  4：3の映像  **4:3のテレビ** 16：9の映像  4：3の映像  **ワイドテレビ** 16：9の映像  4：3の映像 

次のページにつづく ⇩

種類	説明
フル	ビデオの縦横比を維持したまま、画面全体に映像が表示されるように拡大/縮小されます。 16:9(横長)のビデオを4:3のテレビで表示すると、左右にはみ出た部分は切り取られて表示されます。4:3のビデオをワイドテレビで表示すると、上下にはみ出た部分は切り取られて表示されます。 **本機** 16:9の映像  4:3の映像  **4:3のテレビ** 16:9の映像  4:3の映像  **ワイドテレビ** 16:9の映像  4:3の映像  ● 点線の枠は元の映像の大きさを表しています。
オフ	拡大/縮小はしないで保存されているビデオの解像度で表示されます。ビデオの解像度が大きすぎるときは、上下左右が切り取られて表示されます。小さすぎるときは、上下左右が黒く表示されます。

目次
ホーム
メニュー
索引

画面オフ設定

ビデオ再生中にHOLD（ホールド）状態にしたとき、通常どおりビデオ再生したり、画面をオフにしてビデオの音声だけを楽しむことができます。画面をオフにすれば、消費電力を抑え、電池を長持ちさせることができます。

1 ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「ビデオ設定」➡「画面オフ設定」➡ 希望の画面オフ設定の種類を選ぶ。

種類	説明
常時画面オン	HOLD（ホールド）状態にするとボタン操作は無効になり、通常どおりビデオ再生を楽しめます。（お買い上げ時の設定）
ホールド時画面オフ	HOLD（ホールド）状態にするとボタン操作は無効になり、画面が消えビデオの音声だけを楽しむことができます。

ビデオ一覧の並び順

ビデオのリスト画面に表示されるビデオの順番を並び替えます。

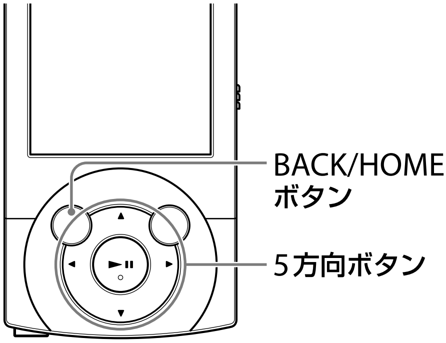
1 ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「ビデオ設定」➡「ビデオ一覧の並び順」➡ 希望のビデオ一覧の並び順の種類を選ぶ。

種類	説明
日時（古い順）	ビデオを転送/録画した日付順（昇順）で表示します。
日時（新しい順）	ビデオを転送/録画した日付順（降順）で表示します。（お買い上げ時の設定）
タイトル（A→Z）	ビデオをタイトル名順（昇順）で表示します。
タイトル（Z→A）	ビデオをタイトル名順（降順）で表示します。

目次
ホーム
メニュー
索引

ポッドキャストを再生する（ポッドキャスト）

ポッドキャストを再生するには、ホームメニューから（ポッドキャスト）を選びます。リスト画面で希望の項目を選び、ポッドキャスト再生画面を表示します。再生が始まると、ポッドキャストの情報が表示されます。





ポッドキャストとは

「ポッドキャスト」とは、インターネット上に公開された音声ファイルや動画ファイルを、RSSを使って自動的にダウンロードし、視聴する仕組みのことです。ポッドキャストはニュース配信サイトや一般企業、個人などからRSSを使って配信されています。x-アプリなどのソフトウェアでポッドキャストを登録すると、最新の音声・動画ファイル（エピソード）が追加されたときに、パソコンにダウンロードできるようになります。パソコンにダウンロードしたポッドキャストを、Windowsのエクスプローラやx-アプリを使って本機に転送し、再生することができます。

目次
ホーム
メニュー
索引

ポッドキャストを再生する

1 ホームメニュー ➡ (ポッドキャスト) ➡ 希望のポッドキャスト ➡ 希望のエピソードを選ぶ。

ポッドキャスト再生画面が表示されます。

ご注意

- ポッドキャストエピソードは連続再生できません。

ヒント

- 「語学学習モード」が「オン」のとき、ポッドキャストの音楽再生画面でもクイックリプレイ機能とA-Bリピート機能が使えます（☞ 65ページ）。また、「DPC（スピードコントロール）」の設定はポッドキャストの音楽再生画面でも有効です。
- ポッドキャストの再生画面に歌詞（☞ 59ページ）を表示することはできません。

ポッドキャスト再生画面

音声再生画面



音声再生画面での操作

再生操作（画面表示）	操作手順
再生（▶）/一時停止（❚❚）*1する	▶❚❚ボタンを押す。
早送り（▶▶）/早戻し（◀◀）する	◀/▶ボタンを長押しする。
再生中の音声の先頭に移動する*2	◀/▶ボタンを押す。
リスト画面に戻る	BACK/HOMEボタンを押す。

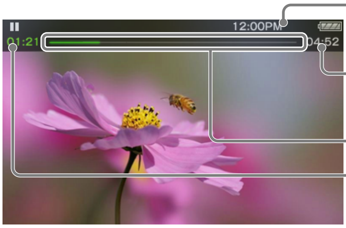
*1 一時停止中に、一定時間操作がないと自動的に再生待機状態になります。

*2 ▶ボタンを押しても再生中のエピソードの先頭に戻ります。次のエピソードに進むには、BACK/HOMEボタンを押してエピソードリストを表示してから、希望のエピソードを選んでください。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

ビデオ再生画面



ビデオ再生画面での操作

ビデオ再生時は本機は横向き表示になり、▲/▼ボタンと◀/▶ボタンの機能が入れ替わります。

再生操作（画面表示）	操作手順
再生（▶）/一時停止（❚❚）[*1]する	▶❚❚ボタンを押す。
早送り（▶▶）/早戻し（◀◀）する[*2*3]	再生中に◀/▶ボタンを長押しする。[*4]
一時停止中に早送り（▶▶）/早戻し（◀◀）する[*5]	一時停止中に◀/▶ボタンを長押しする。
前（❙◀◀）/次（▶▶❙）の場面[*6]やチャプターに移動する	▲ボタン（前に戻る）/▼ボタン（次に進む）を押す。
少し前に戻る/先に進む	一時停止中に◀/▶ボタンを押す。
リスト画面に戻る	BACK/HOMEボタンを押す。

*1 一時停止中に、一定時間操作がないと自動的に再生待機状態になります。

*2 エピソードの終わりまで早送りすると、そのまま一時停止します。再生中にエピソードの最初まで早戻しすると、自動で再生が再開します。一時停止中にエピソードの最初まで早戻しすると、そのまま一時停止します。

*3 エピソードによっては動作が異なる場合があります。

*4 早送り/早戻し中に▶/◀ボタンを押し直すたびに、3段階で早送り再生（▶▶**1**（10倍）、▶▶**2**（30倍）、▶▶**3**（100倍））/早戻し再生（◀◀**1**（10倍）、◀◀**2**（30倍）、◀◀**3**（100倍））します。▶/◀ボタンから指をはなすと、早送り/早戻しを終了して、再生に戻ります。

*5 一時停止中の早送り/早戻しの速度は、エピソードの長さによって異なります。

*6 ビデオにチャプターが設定されていない場合は、5分ごとに場面が移動します。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

OPTION/PWR OFFボタンで選べる項目

項目	説明
（オプションメニュー）	オプションメニューを表示します。ポッドキャストのオプションメニューについて詳しくは「ポッドキャストのオプションメニューを使う」（☞ 89ページ）をご覧ください。
（シーンスクロール）[*1]	シーンスクロール画面を表示します。画面に表示されるサムネイル[*2]をスクロールして、希望の場面やチャプターを選べます。詳しくは、「サムネイルから見たい場面を探す（シーンスクロール）」（☞ 72ページ）をご覧ください。

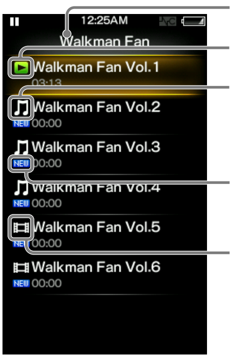
[*1] ポッドキャストエピソードのビデオ再生画面のみで表示されます。

[*2] サムネイルとは、ビデオのワンシーンの縮小表示のことです。

目次
ホーム メニュー
索引

エピソードリスト画面

エピソードリスト画面には、エピソードが名前順に表示されます。



エピソードのアイコン表示

エピソードの欄には、以下のアイコンが表示されます。

表示	説明
♫（音声アイコン）	音声エピソードを示します。
（ビデオアイコン）	ビデオエピソードを示します。
NEW（未視聴アイコン）	一度も再生していないエピソードを示します。
▶（再生中アイコン）	再生中のエピソードを示します。

エピソードリスト画面での操作

リスト操作	操作手順
項目を選ぶ	▶II ボタンを押す。
カーソルを上下に移動する	▲/▼ボタンを押す。 • 長押しすると、速くスクロールできます。
リストの前/次のページを表示する	◀/▶ボタンを押す。
ポッドキャストのリスト画面に戻る	BACK/HOMEボタンを押す。

次のページにつづく ⇩

目次
ホームメニュー
索引

OPTION/PWR OFFボタンで選べる項目

項目	説明
（再生画面へ）	ポッドキャスト再生画面に戻ります。
（オプションメニュー）	オプションメニューを表示します。ポッドキャストのオプションメニューについて詳しくは、「ポッドキャストのオプションメニューを使う」（☞ 89 ページ）をご覧ください。

ポッドキャストリスト画面

ポッドキャストリスト画面には、ポッドキャスト名が名前順に表示されます。



ポッドキャストリスト画面での操作

リスト操作	操作手順
項目を選ぶ	►II ボタンを押す。
カーソルを上下に移動する	▲/▼ボタンを押す。 • 長押しすると、速くスクロールできます。
リストの前/次のページを表示する	◄/►ボタンを押す。

OPTION/PWR OFFボタンで選べる項目

項目	説明
（再生画面へ）	ポッドキャスト再生画面に戻ります。
（オプションメニュー）	オプションメニューを表示します。ポッドキャストのオプションメニューについて詳しくは、「ポッドキャストのオプションメニューを使う」（☞ 89 ページ）をご覧ください。

目次
ホームメニュー
索引

ポッドキャストを削除する

エピソード、ポッドキャスト内の全エピソード、ポッドキャスト、本機に転送された全ポッドキャストを削除できます。

表示中のエピソードを削除する

1. 削除したいエピソードの再生画面でOPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。
2. 「このエピソードを削除」→「はい」を選ぶ。

エピソードをリストから選んで削除する

1. エピソードリスト画面でOPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。
2. 「エピソード削除」→削除したいエピソード→「はい」を選ぶ。

目次
ホーム メニュー
索引

ポッドキャストを削除する

ポッドキャストと、そこに含まれる全エピソードを削除します。

1. ポッドキャストリスト画面でOPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。

2. 「ポッドキャスト削除」➡削除したいポッドキャスト➡「はい」を選ぶ。

または、

1. 削除したいポッドキャストのエピソードリスト画面でOPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。

2. 「このポッドキャストを削除」➡「はい」を選ぶ。

全ポッドキャストを削除する

全ポッドキャストおよび全エピソードを削除します。

1. ポッドキャストリスト画面でOPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。

2. 「全ポッドキャストを削除」➡「はい」を選ぶ。

ポッドキャストのオプションメニューを使う

ポッドキャストの再生画面やリスト画面でOPTION/PWR OFFボタンを押すと、ポッドキャストのオプションメニューを表示できます。オプションメニューの使いかたは☞18ページをご覧ください。
画面によってオプションメニューに表示される項目は異なります。各項目の設定値や使いかたは参照ページをご覧ください。

再生画面で表示される項目

項目	説明/参照ページ
語学学習モード（音声のみ）[*1]	曲の再生中に、クイックリプレイ機能とA-Bリピート機能が使えるようになります（☞64ページ）。
DPC（スピードコントロール）（音声のみ）	曲の再生速度を調整できます（☞66ページ）。
イコライザ（音声のみ）	音質を設定します（☞57ページ）。
VPT(サラウンド)（音声のみ）	VPT（サラウンド）を設定します（☞60ページ）。
ズーム設定（ビデオのみ）	ズームを設定します（☞77ページ）。
輝度設定（ビデオのみ）	画面の明るさを設定します（☞127ページ）。
画面オフ設定（ビデオのみ）	HOLD（ホールド）状態にしたとき、画面をオフにしてビデオの音声だけを楽しむことができます（☞80ページ）
詳細情報	エピソードの詳細情報を表示します。
このエピソードを削除	エピソードを削除します（☞87ページ）。

[*1] 「語学学習モード」と「歌詞表示」（☞59ページ）は同時に使用できません。どちらかを「オン」に設定すると、もう片方は自動で「オフ」に設定されます。

次のページにつづく

目次
ホーム
メニュー
索引

エピソードリスト画面で表示される項目

項目	説明/参照ページ
エピソード削除	削除リスト画面を表示し、エピソードをひとつ選んで削除します（☞ 87ページ）。
このポッドキャストを削除	ポッドキャストを削除します（☞ 88ページ）。

ポッドキャストリスト画面で表示される項目

項目	説明/参照ページ
ポッドキャスト削除	削除リスト画面を表示し、ポッドキャストをひとつ選んで、ポッドキャスト内の全エピソードを削除し、登録を解除します（☞ 88ページ）。
全ポッドキャストを削除	登録されている全ポッドキャストのエピソードを削除し、登録を解除します（☞ 88ページ）。

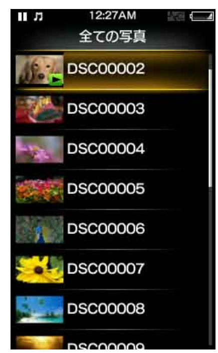
目次
ホームメニュー
索引

写真を表示する（フォト）

写真を見るには、ホームメニューから（フォト）を選びます。



1 ホームメニュー→（フォト）→希望の写真フォルダ→希望の写真を選ぶ。



写真が表示されます。

- フォルダに入っている場合は、表示されるまでリストから選んでください。
- ◀（前）/▶（次）ボタンを押して、前後の写真を表示できます。
- 写真の表示操作について詳しくは「写真表示画面」（☞ 92ページ）をご覧ください。

ヒント

- 写真表示画面や、写真フォルダや写真のリスト画面で写真を検索中でも、曲の再生は継続します。
- 本機に転送した写真をフォルダごとに整理できます。Windowsのエクスプローラで本機［WALKMAN］を選び、「DCIM」、「PICTURE」フォルダのいずれかに写真の入ったフォルダをコピーします。
  写真の転送方法および認識できるデータ階層については☞ 37ページをご覧ください。

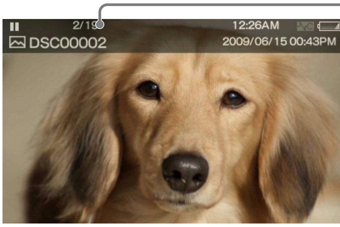
ご注意

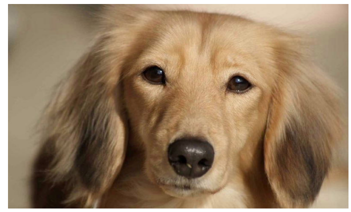
- 写真のサイズが大きすぎる場合、またはデータが破損している場合はが表示され、再生できません。

目次
ホーム メニュー
索引

写真表示画面

写真を表示させたり、表示を送ったりすると、写真のファイル名などの情報が数秒間表示されます。





表示画面での操作

再生操作	操作手順
次/前の写真を表示する	◀(前)/▶(次) ボタンを押す。
次/前の写真を連続して送る	◀(前)/▶(次) ボタンを長押しする。
リスト画面に戻る	BACK/HOME ボタンを押す。

OPTION/PWR OFF ボタンで選べる項目

項目	説明
(サーチ)	サーチメニューを表示します。希望の方法を選ぶと、リスト画面が表示されて希望の写真を探すことができます。
(オプションメニュー)	オプションメニューを表示します。写真のオプションメニューについて詳しくは、「フォトのオプションメニューを使う」(☞ 96ページ) をご覧ください。

目次
ホーム
メニュー
索引

リスト画面

以下はリスト画面の一例です。



サムネイルのみ　サムネイル＋タイトル

リスト画面のアイコン表示

写真の欄には、以下のアイコンが表示されます。

表示	説明
▶（再生中アイコン）	表示中の写真を示します。

リスト画面での操作

リスト操作	操作手順
項目を選ぶ	►II ボタンを押す。
カーソルを上下に移動する	▲/▼ボタンを押す。 • 長押しすると、速くスクロールできます。
リストの前/次のページを表示する（サムネイル＋タイトル画面）	◄/►ボタンを押す。
カーソルを左右に移動する（サムネイル画面）	◄/►ボタンを押す。
1つ上の階層のリスト画面に戻る	BACK/HOMEボタンを押す。

次のページにつづく⇩

OPTION/PWR OFFボタンで選べる項目

項目	説明
（サーチ）*1	サーチメニューを表示します。希望の方法を選ぶと、リスト画面が表示されて希望の写真を探すことができます。
（再生画面へ）	写真表示画面に戻ります。
（オプションメニュー）*1	オプションメニューを表示します。写真のオプションメニューについて詳しくは、「フォトのオプションメニューを使う」（☞ 96ページ）をご覧ください。

*1 画面によっては表示されません。

目次
ホーム
メニュー
索引

写真を削除する

写真は本機では削除できません。
Windowsのエクスプローラを使って写真を本機に転送した場合は、Windowsのエクスプローラを使って削除してください。x-アプリで転送したものはx-アプリで削除してください。

目次
ホーム
メニュー
索引

フォトのオプションメニューを使う

フォトのリスト画面（サムネイル画面を含む）や表示画面でOPTION/PWR OFFボタンを押すと、フォトのオプションメニューを表示できます。オプションメニューの使いかたは☞18ページをご覧ください。
画面によってオプションメニューに表示される項目は異なります。各項目の設定値や使いかたは参照ページをご覧ください。

リスト画面でのみ表示される項目

項目	説明/参照ページ
写真一覧表示形式	写真のリストの表示形式を設定します（☞97ページ）。

再生画面で表示される項目

項目	説明/参照ページ
輝度設定	画面の明るさを設定します（☞127ページ）。
詳細情報	写真のファイルサイズ、解像度、ファイル名などのファイル情報を表示します。
この写真を壁紙にする	現在表示中の写真を壁紙に設定します（☞128ページ）。

目次
ホーム
メニュー
索引

写真の設定を変更する

写真の設定を変更するには、（各種設定）の「フォト設定」を選びます。



写真一覧表示形式

写真のリストの表示形式を、「サムネイル*1+タイトル」または「サムネイルのみ」の2通りの表示形式から選べます。

1. **ホームメニュー → （各種設定）→「フォト設定」→「写真一覧表示形式」→ 希望の表示形式の種類を選ぶ。**

種類	説明
サムネイル+タイトル	サムネイルとタイトルが表示されます。
サムネイルのみ	サムネイルのみが表示されます。（お買い上げ時の設定）

*1 サムネイルとは、写真の縮小表示のことです。

ご注意

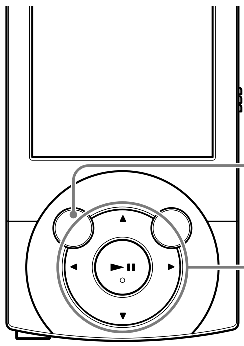
- ファイル形式によっては、サムネイルが表示されないことがあります。

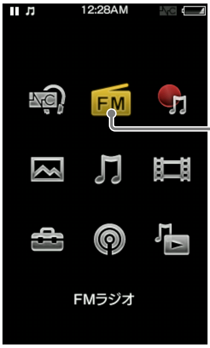
目次
ホームメニュー
索引

FMラジオ放送を聞く（FMラジオ）

FMラジオ放送を聞くには、ホームメニューから（FMラジオ）を選んで、FMラジオ画面を表示します。
本機のFMラジオでは、FMラジオ放送とテレビ放送[*1]（1 ～ 3チャンネル）を楽しめます。

*1 地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了することが、国の法令によって定められています。地上アナログテレビ放送終了後は、本機ではテレビの音声を聞くことはできません。





ご注意

- ヘッドホンのコードがアンテナとして働くため、コードをできるだけ長く伸ばしてお使いください。

---

1 ホームメニュー ➡ （FMラジオ）を選ぶ。

FMラジオ画面が表示されます。

---

2 ▲/▼ボタンで周波数を選ぶか、または◀/▶ボタンでプリセット番号を選ぶ。

選んだ周波数またはプリセット番号のFMラジオ放送が受信されます。

- FMラジオ画面での操作については、「FMラジオ画面」（☞ 99ページ）をご覧ください。

ご注意

- 放送局がひとつもプリセット登録されていないときはプリセット番号で選曲できません。受信可能な放送局を「オートプリセット」機能（☞ 100ページ）で自動登録するか、または手動で登録（☞ 101ページ）してからお使いください。

FMラジオ画面



FMラジオ画面での操作

FMラジオ操作	操作手順
受信周波数を上げる/下げる	▲/▼ボタンを押す。
受信できる放送局（次/前）を探す[*1]	▲/▼ボタンを長押しする。
登録されている前/次のプリセット番号を選ぶ[*2]	◀/▶ボタンを押す。 ● 長押しすると、連続して前/次のプリセット番号に進みます。

[*1] 受信感度が強すぎるときは、スキャン感度の設定（☞ 103ページ）を「低」に設定してください。

[*2] 放送局を登録していない場合は、プリセット番号を選ぶことができません。「オートプリセット」を実行し、受信できる放送局をプリセット登録してください（☞ 100ページ）。

OPTION/PWR OFFボタンで選べる項目

項目	説明
（オプションメニュー）	オプションメニューを表示します。FMラジオのオプションメニューについて詳しくは、「FMラジオのオプションメニューを使う」（☞ 102ページ）をご覧ください。

目次
ホーム
メニュー
索引

自動で放送局を登録する（オートプリセット）

「オートプリセット」を実行すると、お使いの地域で受信できる放送局を自動的に探してプリセット登録できます（最大30局まで）。はじめてFMラジオをお使いになるときや、お使いになる地域が変わったときは、「オートプリセット」を実行し、受信できる放送局をプリセット登録しておくことをおすすめします。

1 FMラジオ画面でOPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。

2 「オートプリセット」➡「はい」を選ぶ。

受信できる低い周波数の放送局から順番にプリセット登録されます。
登録が終了すると「オートプリセットを完了しました。」と表示され、最初に登録された放送局を受信します。

- 「オートプリセット」をしないときは「いいえ」を選びます。

ヒント

- 「オートプリセット」時の電波状態では受信感度が強いために、多くの不要な放送局を受信してしまうときは、スキャン感度の設定（☞ 103ページ）を「低」に設定してください。

ご注意

- 「オートプリセット」を実行すると、それまで登録されていたプリセットはすべて消去されます。

目次
ホーム メニュー
索引

手動で放送局を登録する

「オートプリセット」（☞ 100ページ）で登録できなかった放送局を、必要に応じてプリセット登録できます。

❶ **FMラジオ画面で登録したい周波数を選ぶ。**

❷ **OPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。**

❸ **「プリセットに登録」を選ぶ。**

手順❶で選んだ周波数がプリセット登録され、周波数の下部にプリセット番号が表示されます。

ヒント

- プリセットには、最大30局まで登録できます。

ご注意

- プリセット番号は、低い周波数から順番に振り直されます。

登録した放送局を解除する

❶ **FMラジオ画面で登録を解除したい周波数のプリセット番号を選ぶ。**

❷ **OPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。**

❸ **「プリセットを解除」を選ぶ。**

プリセットが解除されます。

目次
ホーム
メニュー
索引

FMラジオのオプションメニューを使う

FMラジオ画面を表示中にOPTION/PWR OFFボタンを押すと、FMラジオのオプションメニューを表示できます。オプションメニューの使いかたは☞18ページをご覧ください。
画面によってオプションメニューに表示される項目は異なります。各項目の設定値や使いかたは参照ページをご覧ください。

項目	説明/参照ページ
プリセットに登録	受信中の周波数をプリセット登録します（☞101ページ）。
プリセットを解除	プリセット登録した放送局を解除します（☞101ページ）。
オートプリセット	自動で放送局をプリセット登録します（☞100ページ）。
スキャン感度	スキャン中の受信感度を設定します（☞103ページ）。
モノラル/オート	モノラル/オートを切り換えます（☞103ページ）。

目次
ホームメニュー
索引

FMラジオの設定を変更する

FMラジオの設定を変更するには、（各種設定）の「FMラジオ設定」を選びます。



スキャン感度

「オートプリセット」（☞ 100ページ）や▲/▼ボタンを長押しして放送局を探すときに、受信感度が強すぎ、多くの不要な放送局を受信してしまう場合があります。
このようなときは、スキャン感度を「低」に設定してください。お買い上げ時は、「高」に設定されています。

1. **ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「FMラジオ設定」➡「スキャン感度」➡「低」を選ぶ。**
   - スキャン感度を元に戻すには「高」を選びます。

モノラル/オート

FMラジオ放送を受信中に雑音が多いときは、「モノラル/オート」の設定を「モノラル」にしてください。「オート」に設定してある場合は、ステレオとモノラルは受信時の状態によって自動設定されます。お買い上げ時の設定は「オート」になっています。

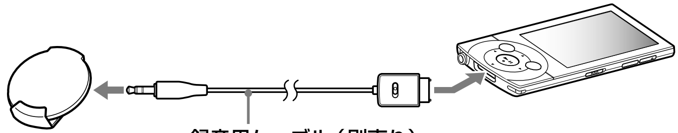
1. **ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「FMラジオ設定」➡「モノラル/オート」➡「モノラル」を選ぶ。**
   - 自動設定に戻すには「オート」を選びます。

目次
ホーム
メニュー
索引

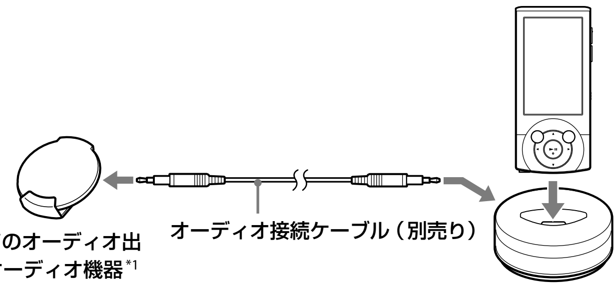
パソコンを使わずに録音する（ダイレクトエンコーディング）

本機とオーディオ機器を、別売りの録音用アクセサリーを使って接続すると、パソコンを介さずに本機で直接CDプレーヤーなどから曲を録音することができます。録音する前に本機を充分に充電してください。

録音用ケーブル（別売り）を接続の場合



クレードル（別売り）を接続の場合



*1 LINE OUT端子がないオーディオ機器の場合は、ヘッドホン端子に接続してください。

ヒント

- 本機での録音に対応した別売りアクセサリーには、録音用ケーブル（WMC-NWR1）やクレードル（BCR-NWU5）などがあります。
- 日付と時刻が合っていないとフォルダ名や曲名が正しい日付と時刻になりません。録音をする前に日付と時刻が正しく設定されているかご確認ください（☞ 24ページ）。

目次
ホーム
メニュー
索引

本機で録音した曲の管理について

本機で録音した曲は、パソコンから転送した曲とは別に管理されます。そのため、シャッフル再生などをしても、パソコンから転送した曲と本機で録音した曲が混ざって再生されることはありません。また、本機で録音した曲はアルバムスクロール画面（☞ 49ページ）には表示されません。

ヒント

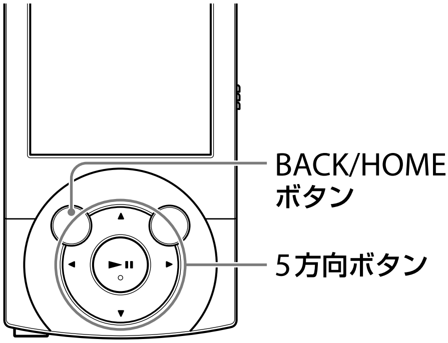
- パソコンに接続して、一度x-アプリまたはSonicStage Vに取り込んだうえで再度転送すれば、パソコンから転送した曲と一緒に管理できます（☞ 109ページ）。

ご注意

- 本機内の「MUSIC」フォルダの「NWWM_REC」フォルダ内のファイルをパソコンで変更しないでください。本機で再生できなくなる場合があります。

シンクロ録音する

録音元のオーディオ機器で再生を始めると、本機が自動的に音を検出して録音を開始します。





1 **別売りのアクセサリーを使って、本機とオーディオ機器を接続する（☞ 104ページ）。**

- 詳しくは、別売りのアクセサリーの取扱説明書をご覧ください。

2 **ホームメニュー → （録音）→「シンクロ録音」を選ぶ。**

3 **►II ボタンを押す。**

- 新しいフォルダが作成され、音の検出待ちの状態になります。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム メニュー
索引

❹ オーディオ機器で、録音したいCDなどを再生する。

- 音を検出すると自動的に録音が開始されます。
  2秒以上無音[*1]が続くと、自動的に録音が終了し、音の検出待ちの状態になります。[*2]
  再び音を検知すると、同じフォルダに新しい曲として録音が開始されます。
- 本機のヘッドホンで録音元の音が確認（録音モニター）でき、VOL＋／－ボタンで録音モニター音の音量の調整ができます。ただし、音量の調整をしても録音レベルは変わりません。

[*1] 無音とは本機では約4.8 mV以下の入力レベルです。
[*2] 5分間無音が続くと、自動的にシンクロ録音が終了されます。

録音を止めるには

録音を止めるには、►II ボタンを押します。次に録音するときは新しいフォルダに録音されます。

ヒント

- ビットレートを変更するには、録音停止中にOPTION/PWR OFFボタンを押し、「ビットレート設定」（☞ 115ページ）のオプションメニューから希望のビットレートを選びます。
- 録音元の音量が小さい状態が続くと録音が開始されなかったり、1曲が複数曲として録音されることがあります。録音レベル切り換えスイッチがあるアクセサリーをご使用の場合は、入力音が大きくなるようにスイッチを切り換えたり、録音元の音量を上げて録音してください。
- 録音元の曲間が2秒以上ない場合は同じ曲として録音されることがあります。その場合はマニュアル録音（☞ 107ページ）をお試しください。

ご注意

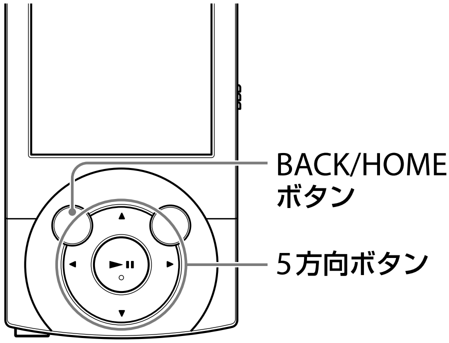
- 残り録音可能時間は、実際よりわずかに短く表示される場合があります。また、1,000時間を越える場合は表示されません。

シンクロ録音画面



マニュアル録音する

録音の開始や停止のタイミングを任意に指定できます。





1 別売りのアクセサリーを使って、本機とオーディオ機器を接続する（☞ 104ページ）。

- 詳しくは、別売りのアクセサリーの取扱説明書をご覧ください。

2 ホームメニュー➡（録音）➡「マニュアル録音」を選ぶ。

3 オーディオ機器で、録音したいCDなどを再生する。

- 本機のヘッドホンで録音元の音が確認（録音モニター）でき、VOL＋/ーボタンで録音モニター音の音量の調整ができます。ただし、音量の調整をしても録音レベルは変わりません。

4 録音を開始したいタイミングで►II ボタンを押す。

録音が開始されます。

次のページにつづく⇩

目次
ホームメニュー
索引

目次
ホーム
メニュー
索引

録音を止めるには

録音を止めるには、►II ボタンを押します。

ヒント

- 新しいフォルダに録音するには、録音停止中にOPTION/PWR OFF ボタンを押し、オプションメニューから「新規フォルダ」を選びます。次の曲から新しいフォルダに録音されます。
- ビットレートを変更するには、録音停止中にOPTION/PWR OFF ボタンを押し、「ビットレート設定」（☞ 115ページ）のオプションメニューから希望のビットレートを選びます。

ご注意

- 残り録音可能時間は、実際よりわずかに短く表示される場合があります。また、1,000 時間を越える場合は表示されません。

マニュアル録音画面



目次
ホーム
メニュー
索引

録音した曲をx-アプリまたはSonicStage Vに取り込む

本機で録音した曲は、x-アプリまたはSonicStage Vのミュージックライブラリに取り込み、インターネットからアルバム名や曲名などの情報も取得できます。ミュージックライブラリに取り込んだ曲を本機に転送すると、他の転送した曲と同様にミュージックメニューから再生できます。

1. **本機をパソコンに接続する。**

   x-アプリまたはSonicStage Vが起動し、音楽を転送する画面に切り換わります。

   - 本機を接続したときにx-アプリまたはSonicStage Vが自動起動する設定にしていない場合は、x-アプリまたはSonicStage Vを起動してください。
     本機で録音した曲は、パソコンに接続しても、画面右側の一覧には表示されません。

2. **x-アプリまたはSonicStage Vの［取り込み］ボタンをクリックする。**

   x-アプリでは「楽曲の取り込み」、SonicStage Vでは「曲の取り込み」画面が表示されます。

3. **［取り込み開始］ボタンをクリックする。**

   ミュージックライブラリへの曲の取り込みが始まります。

ヒント

- インターネットに接続しておくと、［ツール］メニューの［設定］からCD情報（曲名やアーティスト名など）を自動で取得できるように設定できます。
  自動取得できなかった場合は、取り込んだアルバムまたは曲を選択し、右クリックして、x-アプリでは[楽曲情報の取得・解析]、SonicStage Vでは［楽曲情報の取得］を選ぶと情報を取得できます。
  詳しくは、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

目次
ホーム
メニュー
索引

本機で録音するときのヒントとご注意

録音モニターについて

- 本機のヘッドホンで録音元の音が確認（録音モニター）できます。
- 本機のVOL＋/－ボタンで録音モニター音の音量の調整ができます。ただし、音量の調整をしても録音レベルは変わりません。
- 録音モニター時の音には音量以外の音の効果の設定などはできません。
- 録音モニター時の音にはノイズキャンセル効果が反映されますが、録音データに影響はありません。

録音した曲の曲名について

- 本機で録音した曲はすべてフォルダに格納されます。フォルダ名や曲名は以下のとおりになります。
  – フォルダ名：「yyyy-mm-dd」（西暦４桁-月２桁-日２桁[*1]）
  [*1] 同日に複数のフォルダが作成された場合、-dd（2）、-dd（3）…となります。
  – 曲名：「NNN-hhmm」（通し番号3桁-時分2桁ずつ）
  本機の日時をあらかじめ正しく設定しておくことをおすすめします（☞ 24ページ）。
- 本機上では録音した曲名やフォルダ名を変更することはできません。曲名を変更したい場合にはx-アプリまたはSonicStage Vに取り込んで編集してください（☞ 109ページ）。

録音レベルとビットレートについて

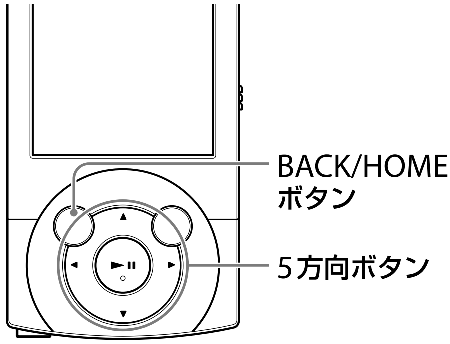
- 録音元のオーディオ機器のオーディオ出力レベルによっては、適切な録音レベルで録音できずに音が割れたり、小さかったりする場合があります。
  録音レベル切り換えスイッチがあるアクセサリーの場合は、スイッチを切り換えることにより、適切な録音レベルにすることができる場合があります。また、録音元のオーディオ機器のオーディオ出力レベルを調整できる場合は、オーディオ機器の音量を調整してください。
  詳しくは、本機での録音に対応した別売りのアクセサリーの取扱説明書をご覧ください。
- 録音する曲のビットレートを設定できます（☞ 115ページ）。

制限事項について

- 1つの曲として、録音できる時間は約1,000分、容量は約4 GBまでです。それを超える場合は自動的に録音が停止します。
- 本機にパソコンを使わずに直接録音できる曲の最大数や1つのフォルダに録音できる最大曲数、フォルダの最大数については「主な仕様」の「録音できる最大曲数、最大フォルダ数、1つのフォルダに録音できる最大曲数」（☞ 197ページ）をご覧ください。
- 本機の空き容量が少ないときは録音できません。

録音した曲を再生する

本機で録音した曲を再生するには、ホームメニューから ♫（ミュージック）を選びます。「ミュージック」画面で「録音した曲」を選び、リストから希望の項目を選んで、音楽再生画面を表示します。





ご注意

- 本機では、パソコンから転送した曲と本機で録音した曲はそれぞれ別に管理されます。そのため、パソコンから転送した曲と本機で録音した曲をあわせたシャッフル再生や連続再生はできません。
- 本機で録音した曲の再生画面では、アルバムスクロール機能（☞ 49ページ）は使えません。

1 ホームメニュー ➡ ♫（ミュージック）➡「録音した曲」➡ 希望の録音フォルダ ➡ 希望の曲を選ぶ。

音楽再生画面が表示され、選んだ曲から順に再生します。

- 音楽再生画面の操作については「音楽再生画面」（☞ 44ページ）をご覧ください。

目次
ホーム
メニュー
索引

目次
ホームメニュー
索引

録音した曲を削除する

本機で録音した曲を削除できます。



ご注意

- 本機で録音した曲を削除した場合、曲を元に戻すことはできません。削除する前に充分に確認してください。
- 曲を再生中に削除の操作を行うと、再生が一時停止します。

録音した曲を1曲だけ削除する

❶ ホームメニュー➡♫(ミュージック)➡「録音した曲」➡削除したい曲のフォルダを選ぶ。

❷ OPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。

❸ 「曲を選択して削除」➡削除したい曲➡「はい」を選ぶ。

選択した曲が削除されると「削除しました。」と表示されます。

ヒント

- 曲を削除するのをやめるには、手順❸で「いいえ」を選び、►IIボタンを押します。

ご注意

- フォルダ内の曲をすべて削除した場合、そのフォルダは自動的に削除されます。該当フォルダ内にパソコンで必要なデータを置かないでください。

目次
ホーム
メニュー
索引

録音したフォルダを削除する

1. **ホームメニュー ➡ ♫（ミュージック）➡「録音した曲」を選ぶ。**

2. **OPTION/PWR OFFボタンを押してオプションメニューを表示する。**

3. **「フォルダを選択して削除」➡ 削除したいフォルダ ➡「はい」を選ぶ。**

   選択したフォルダが削除されると「削除しました。」と表示されます。
   - 録音したすべての曲を削除する場合は「全フォルダを削除」を選びます。

ヒント

- フォルダを削除するのをやめるには、手順❸で「いいえ」を選び、▶II ボタンを押します。

ご注意

- 「全フォルダを削除」を選択すると、本機の「MUSIC」フォルダの「NWWM_REC」フォルダ以下のフォルダやファイルはすべて削除されます。これらのフォルダに必要なデータを置かないでください。
- 削除する曲が多い場合は、削除が完了するまでに時間がかかる場合があります。

目次
ホーム
メニュー
索引

録音のオプションメニューを使う

録音した曲やフォルダのリスト画面、録音画面でOPTION/PWR OFFボタンを押すと、録音のオプションメニューを表示できます。オプションメニューの使いかたは☞18ページをご覧ください。
画面によってオプションメニューで表示される項目が異なります。各項目の設定値や使いかたは参照ページをご覧ください。

録音した曲のリスト画面でのみ表示される項目

項目	説明/参照ページ
曲を選択して削除	録音した曲を本機から削除します（☞112ページ）。

録音したフォルダのリスト画面でのみ表示される項目

項目	説明/参照ページ
フォルダを選択して削除	録音した曲を本機から削除します（☞113ページ）。
全フォルダを削除	録音したすべての曲を本機から削除します（☞113ページ）。

録音した曲の再生画面でのみ表示される項目

項目	説明/参照ページ
この曲を削除 （録音した曲の場合のみ）	録音した曲を本機から削除します（☞112ページ）。

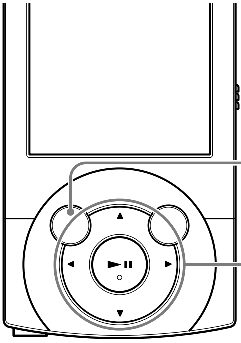
録音画面で表示される項目

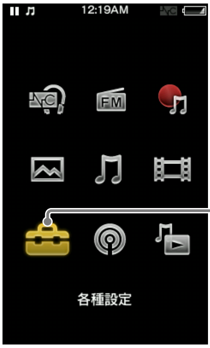
項目	説明/参照ページ
新規フォルダ （マニュアル録音のみ）	録音するフォルダを新規に作成します（☞107ページ）。
ビットレート設定	録音する曲のビットレートを設定します（☞115ページ）。

録音の設定を変更する

ビットレート設定

録音する曲のビットレートを設定することができます。





1. **ホームメニュー → （各種設定）→「録音設定」→「ビットレート設定」→ 希望のビットレートの種類を選ぶ。**

種類	説明
ATRAC 256kbps	ATRAC 256 kbpsで録音されます。
ATRAC 128kbps	ATRAC 128 kbpsで録音されます。（お買い上げ時の設定）
ATRAC 64kbps	ATRAC 64 kbpsで録音されます。

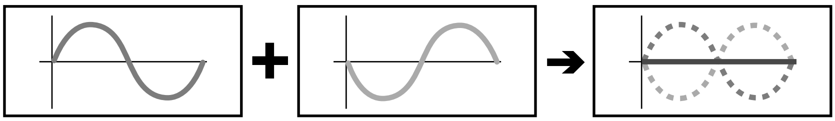
ヒント

- 録音画面からもビットレートを変更できます。OPTION/PWR OFFボタンを押し、オプションメニューから「ビットレート設定」を選びます。
  ただし、録音実行中はオプションメニューは操作できません。

目次
ホーム メニュー
索引

ノイズキャンセリングとは

ヘッドホンに内蔵したマイクが周囲の騒音を拾い、逆位相の音を出力することで騒音を聞こえにくくします。飛行機、電車やバスなど、主に乗り物内での騒音を減らし、小さな音量でも音楽を楽しめます。



1 騒音（元の音）の波形

ヘッドホンに内蔵されたマイクで周囲からの騒音を集音、ノイズキャンセリング回路がその信号を解析。

2 逆位相の音の波形

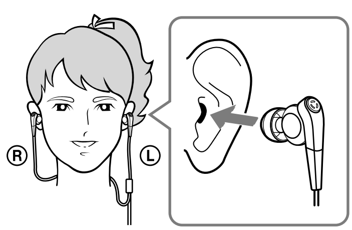
解析した騒音を打ち消す逆位相の音を発生。

3 合成されて消えた音の波形

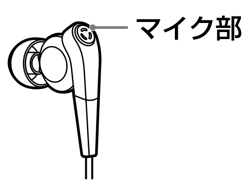
元の音に逆位相の音を重ね、元の音を打ち消す。これにより鼓膜位置での騒音を低減します。

ご注意

- イヤーピースが耳にフィットしていないと、ノイズキャンセリング効果が得られませんので、イヤーピースをおさまりの良い位置に調整したり、ぴったりと耳に装着させるようにしてください。



- 装着時にこすれ音などが発生することがありますが、製品には影響ありません。
- ノイズキャンセリング機能は主に低い周波数帯域のノイズを打ち消すもので、高い周波数帯域のノイズに対しては効果はありません。また、すべての音が打ち消されるわけではありません。
- ヘッドホンのマイク部を手などで覆わないでください。ノイズキャンセリング効果がなくなることがあります。



- ノイズキャンセリング機能をオンにすると、かすかにサーという音がしますが、ノイズキャンセリング機能の動作音で、故障ではありません。

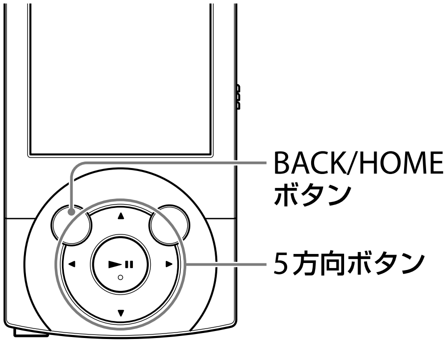
次のページにつづく

- 静かな場所や、ノイズの種類によっては、ノイズキャンセリング効果が感じられない、またはノイズが大きくなると感じる場合があります。その場合は、「ノイズキャンセルオン/オフ」を「オフ」にしてください（☞118ページ）。
- 携帯電話の影響により、ノイズが入ることがあります。この場合は、携帯電話から本機を離してお使いください。
- ヘッドホンの本体からの抜き差しは、ヘッドホンを耳からはずして行ってください。音楽を再生した状態や、ノイズキャンセリング機能が働いたままでヘッドホンを抜き差しするとヘッドホンからノイズが発生しますが、故障ではありません。
- 「ノイズキャンセルオン/オフ」の設定を変更するときに切り換え音が発生しますが、ノイズキャンセリング回路切り換えにより起こるものであり故障ではありません。

目次
ホーム
メニュー
索引

ノイズキャンセリング機能を使って再生する

ヘッドホンに内蔵したマイクが周囲の騒音を拾い、逆位相の音を出力することで周囲の騒音を低減します。





ご注意

- 「ノイズキャンセルオン/オフ」を「オン」にしても、付属のヘッドホン以外を使っているときはノイズキャンセリング機能は働きません。

1 ホームメニュー → （ノイズキャンセル）→「ノイズキャンセルオン/オフ」→「オン」を選ぶ。

情報表示エリアに が表示されます。

- お買い上げ時は「オン」になっています。

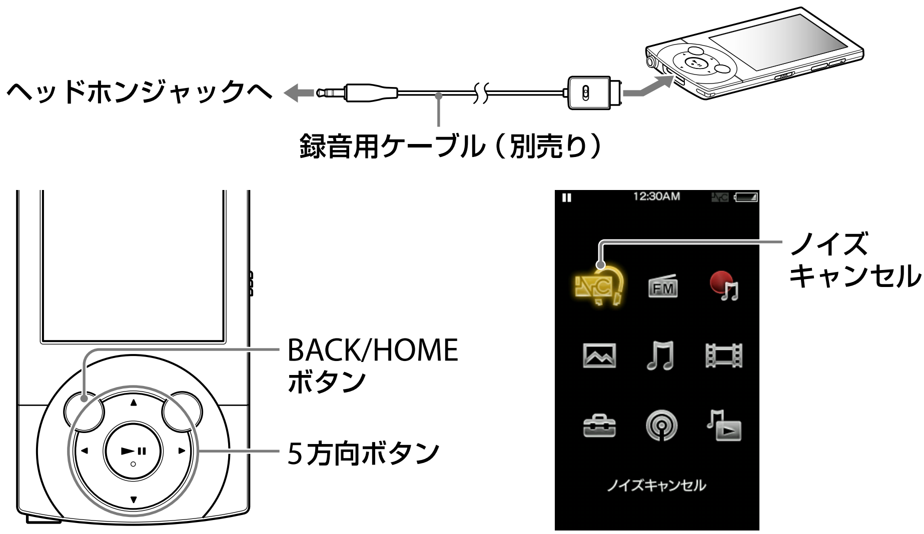
ヒント

- ノイズキャンセリング機能が有効なときは、画面に が表示されます。
付属のヘッドホン以外を使っているときには「ノイズキャンセルオン/オフ」を「オン」にしても、ノイズキャンセリング機能は働きません。その場合、情報表示エリアには が表示されます。
- ノイズキャンセリング機能の効果を調整することができます。詳しくは、☞ 123 ページをご覧ください。

目次
ホーム メニュー
索引

外部入力の音声を聞く（外部入力）

飛行機内のオーディオ機器などの外部機器の音声をノイズキャンセリング機能を利用して聞くことができます。



❶ **付属のヘッドホンを本機に接続し、ホームメニュー ➜ （ノイズキャンセル）➜「ノイズキャンセルオン/オフ」➜「オン」を選ぶ。**

❷ **別売りの録音用ケーブル（WMC-NWR1）を本機のWM-PORTに接続し、オーディオ機器のヘッドホンジャックに接続する。**

❸ **ホームメニュー ➜ （ノイズキャンセル）➜「外部入力/サイレント」を選ぶ。**

オーディオ機器からの音声にノイズキャンセリング効果が適用されます。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

ヒント

- 「外部入力」と「サイレント」（☞ 121ページ）は、▶II ボタンを押して切り換えることができます。
- 録音用ケーブル（別売り）を本機からはずすと、自動的に「サイレント」（☞ 121ページ）に切り換わります。

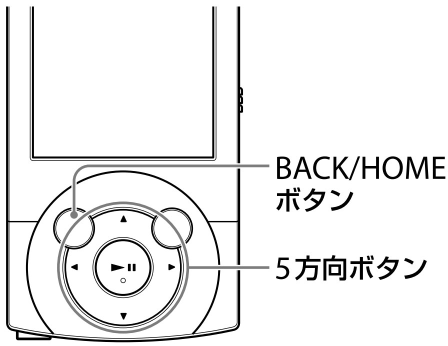
ご注意

- 飛行機内のオーディオ機器と接続して使用する場合は、市販の「飛行機内用アダプタープラグ」が必要になる場合があります。すべての飛行機内のオーディオ機器と接続できるわけではありません。
- オーディオ機器に接続するときは、LINE OUT端子ではなく、ヘッドホンジャックに接続してください。

目次
ホーム
メニュー
索引

音楽を再生しないで外部の騒音を低減する（サイレント）

音楽・ビデオ・ポッドキャストを再生しないときでもノイズキャンセリング効果を利用して、周囲の音を低減することができます。





1 **付属のヘッドホンを本機に接続し、ホームメニュー➡ （ノイズキャンセル）➡「ノイズキャンセルオン/オフ」➡「オン」を選ぶ。**

2 **ホームメニュー➡ （ノイズキャンセル）➡「外部入力/サイレント」を選ぶ。**

ヒント

- WM-PORTに録音用ケーブル（別売り）からの音声入力がある場合は、「外部入力」となります。「外部入力」（☞ 119ページ）と「サイレント」は、►II ボタンを押して切り換えることができます。外部入力の状態で、接続している録音用ケーブル（別売り）をはずした場合も、「外部入力」から「サイレント」に切り換わります。

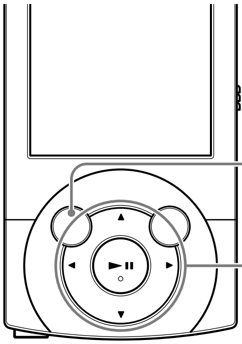
ご注意

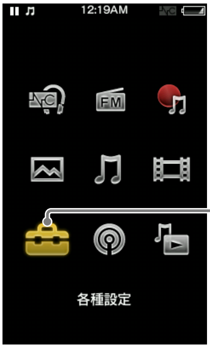
- ノイズキャンセリング機能は主に低い周波数帯域のノイズを打ち消すもので、高い周波数帯域のノイズに対しては効果はありません。また、すべての音が打ち消されるわけではありません。

目次
ホームメニュー
索引

ノイズキャンセリングの設定を変更する

ノイズキャンセリングの設定を変更するには、(各種設定)の「ノイズキャンセル設定」を選びます。





環境選択

周囲の騒音の種類を選択することで、それぞれの環境においてもっとも効果的にノイズキャンセリング機能が適用されるように設定することができます。

1 ホームメニュー➡(各種設定)➡「ノイズキャンセル設定」➡「環境選択」➡希望の設定の種類➡「OK」を選ぶ。

種類	説明
電車・バス	主にバス、電車の騒音を効果的に低減します。(お買い上げ時の設定)
航空機	主に航空機内の騒音を効果的に低減します。
室内	主にオフィス、勉強部屋などのOA機器や空調機器の騒音を効果的に低減します。

ヒント

- 「外部入力/サイレント」画面でOPTION/PWR OFFボタンを押し、オプションメニューから「環境選択」を選んでも、環境選択をすることができます。

ご注意

- 環境選択の設定を行っても「ノイズキャンセルオン/オフ」が「オン」になっていないときは効果は得られません。

目次
ホームメニュー
索引

ノイズキャンセル調整

本機は、ノイズキャンセリング機能（☞ 116ページ）の効果が最も得られるようにあらかじめ設定されていますが、耳の形状や使用環境によって、ヘッドホンに搭載されているマイクの感度を上げる（または下げる）ことでさらに効果が得られる場合があります。
ノイズキャンセリング機能の効果が得にくいと感じるときはノイズキャンセル調整でマイクの感度を調整してください。

❶ ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「ノイズキャンセル設定」➡「ノイズキャンセル調整」を選ぶ。

❷ ◀/▶ボタンで希望の値を選び、▶IIボタンを押して決定する。

- 31段階の値で調節できます。スライダの中央の位置が標準的な環境で最も効果が得られる設定です。お好みで調整してください。

ヒント

- 「外部入力/サイレント」画面でOPTION/PWR OFFボタンを押し、オプションメニューから「ノイズキャンセル調整」を選んでも、ノイズキャンセル調整をすることができます。

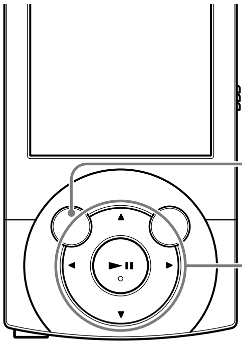
ご注意

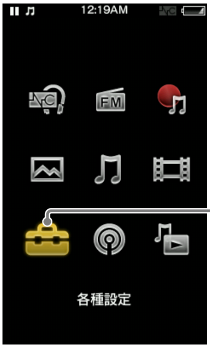
- ノイズキャンセル調整を行っても「ノイズキャンセルオン/オフ」が「オン」になっていないときは効果は得られません（☞ 118ページ）。
- お買い上げ時の設定（スライダの中央の位置）が標準的な環境で最も効果が得られる設定です。マイクの感度を最大にすればノイズキャンセリング機能の効果がより得られるようになるわけではありません。

目次
ホーム
メニュー
索引

共通設定を変更する

本機の共通の設定を変更するには、(各種設定)の「共通設定」を選びます。





本体情報

本機の型名、ファームウェア(本体に組み込まれたソフトウェア)のバージョンなどを表示できます。

1 ホームメニュー→(各種設定)→「共通設定」→「本体情報」を選ぶ。

項目	説明
型名:	本機の型名を表示します。
本体ソフトウェア:	ファームウェアのバージョンを表示します。
空き容量／総容量:	本機の空き容量／総容量を表示します。
総曲数:	本機に保存されている総曲数(ポッドキャスト(音声)や録音した曲を含む)を表示します。
総ビデオファイル数:	本機に保存されている総ビデオファイル数(ポッドキャスト(ビデオ)を含む)を表示します。
総写真数:	本機に保存されている総写真数を表示します。
WM-PORT:	WM-PORTのバージョンを表示します。

目次
ホームメニュー
索引

AVLS（音量制限）

音量の上げすぎによる音もれや、耳への圧迫感、周囲の音が聞こえないことへの危険を少なくし、より快適な音量で聞けます。

1 **ホームメニュー → （各種設定）→「共通設定」→「AVLS（音量制限）」→ 希望の設定の種類を選ぶ。**

種類	説明
オン	音量が一定のレベル以上、上がらなくなります。
オフ	音量制限を行いません。（お買い上げ時の設定）

操作確認音

本機の操作確認音を鳴らす設定を変更できます。

1 **ホームメニュー → （各種設定）→「共通設定」→「操作確認音」→ 希望の設定の種類を選ぶ。**

種類	説明
オン	確認音が鳴ります。（お買い上げ時の設定）
オフ	確認音が鳴りません。

目次
ホームメニュー
索引

画面オフタイマー

一定期間操作がないとスクリーンセーバー（画面表示を消す）に切り換わります。
スクリーンセーバーに切り換わるまでの時間の設定を選べます。

1 ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「共通設定」➡「画面オフタイマー」➡ 希望の時間設定の種類を選ぶ。

種類	説明
15秒	15秒でスクリーンセーバーに切り換わります。
30秒	30秒でスクリーンセーバーに切り換わります。（お買い上げ時の設定）
1分	1分でスクリーンセーバーに切り換わります。
3分	3分でスクリーンセーバーに切り換わります。
5分	5分でスクリーンセーバーに切り換わります。
30分	30分でスクリーンセーバーに切り換わります。

ご注意

- 以下の場合は、スクリーンセーバーに切り換わりません。
  - 「テレビ出力（ビデオ）」が「オフ」のときにビデオを再生中
  - ポッドキャストビデオの再生中
  - FMラジオの放送局をスキャン中およびオートプリセット中
  - USB接続でデータ転送中
  - ビデオやポッドキャストのエピソード、本機で録音した曲などのコンテンツを削除中
- 録音画面表示中は、スクリーンセーバーに切り換わらず、画面の輝度を落とします。

目次
ホーム メニュー
索引

輝度設定

表示画面の明るさを5段階で設定できます。

1 ホームメニュー ➡ （各種設定）➡「共通設定」➡「輝度設定」を選ぶ。

2 ◀/▶ボタンで希望の値を選び、▶II ボタンを押して決定する。

5段階の値で調節できます。数値が大きくなるほど明るくなります。お買い上げ時の設定は3です。

ご注意

- ▶II ボタンを押して決定する前にBACK/HOMEボタンを押すと、設定がキャンセルされます。

ヒント

- 画面の明るさを暗くすることで、電池を長持ちさせることができます（☞ 134ページ）。
- 本機のUSB接続中は、輝度設定に関係なく一番暗い設定になります。

壁紙設定

ホームメニューの壁紙を変更することができます。

1 ホームメニュー → （各種設定）→「共通設定」→「壁紙設定」→ 希望の壁紙の種類を選ぶ。

種類	説明
壁紙なし	お買い上げ時の壁紙を表示します。
ユーザー壁紙	設定した壁紙を表示します（設定方法は次項を参照）。
ユーザー壁紙（暗め）	設定した壁紙を表示します（設定方法は次項を参照）。写真を暗めに表示してメニューの文字を見やすくします。

お好みの写真をホームメニューの壁紙に設定するには

フォトの中のお好みの写真を壁紙として設定しておくと、壁紙設定で「ユーザー壁紙」または「ユーザー壁紙（暗め）」を選んだときに壁紙に設定できます。

1 ホームメニュー → （フォト）→ 希望の検索方法 → 希望の写真を選ぶ。

2 OPTION/PWR OFF ボタンを押してオプションメニューを表示する。

3 「この写真を壁紙にする」を選ぶ。

目次
ホームメニュー
索引

目次
ホーム
メニュー
索引

日付時刻設定

現在時刻を手動またはパソコンなどの接続機器の時刻に合せて設定できます。

1 ホームメニュー→（各種設定）→「共通設定」→「時計設定」→「日付時刻設定」→希望の設定の種類を選ぶ。

種類	説明
対応ソフト・機器と同期	x-アプリまたはSonicStage Vを起動させて、本機とパソコンを接続すると、本機の時刻がパソコンの時刻と同期して設定されます。（お買い上げ時の設定）
マニュアル設定	現在時刻を手動で設定します。詳しくは、「現在時刻を手動で設定する」（☞ 130ページ）をご覧ください。

ヒント

- 時刻の表示形式は「12時間表示」または「24時間表示」から選択できます。
  詳しくは「時刻表示形式」（☞ 130ページ）をご覧ください。

ご注意

- 本機を使用しないまま長期間放置するなど、本体の内蔵電池が放電しきると、設定した日時がリセットされ、「ー」で表示されます。
- 現在時刻は、1ヶ月で最大60秒の誤差を生じる場合があります。現在時刻の表示が正確ではない場合は、設定し直してください。

次のページにつづく

目次
ホーム
メニュー
索引

現在時刻を手動で設定する

1. ホームメニュー → (各種設定) →「共通設定」→「時計設定」→「日付時刻設定」→「マニュアル設定」を選ぶ。

2. ◀/▶ボタンで年を選び、▲/▼ボタンで年の数字を選ぶ。

3. 手順 2 で「年」を入力したのと同様に「月」、「日」、「時」、「分」の数字を入力し、▶II ボタンを押して決定する。

ご注意

- 「日付時刻設定」を「マニュアル設定」に設定した場合は、1か月で最大60秒の誤差が生じる場合があります。「対応ソフト・機器と同期」に設定して使用することをおすすめします。「マニュアル設定」に設定して時刻に誤差が生じた場合は、手動で時刻を修正してください。

時刻表示形式

現在時刻（☞ 129ページ）の表示形式を「12時間表示」または「24時間表示」から選べます。

1. ホームメニュー → (各種設定) →「共通設定」→「時計設定」→「時刻表示形式」→ 希望の表示形式の種類を選ぶ。

種類	説明
12時間表示	現在時刻の表示形式を12時間表示にします。（お買い上げ時の設定）
24時間表示	現在時刻の表示形式を24時間表示にします。

目次
ホーム
メニュー
索引

いたわり充電

いたわり充電モードを使用すると、バッテリー充電量の約90%に達したところで充電を停止します。電池耐久寿命に影響する最大充電量を抑えることで、電池の耐久時間の長寿命化をはかれます。

1 ホームメニュー → （各種設定）→「共通設定」→「いたわり充電」→ 希望の設定の種類を選ぶ。

種類	説明
オン	いたわり充電モードを使用します。
オフ	通常充電モードを使用します。（お買い上げ時の設定）

ご注意

- いたわり充電モードがオンの場合、満充電時の充電量が約90%に制限されるため、電池持続時間が約1割短くなります。

設定初期化

各種設定メニューで設定した内容をお買い上げ時の状態に戻せます。
お買い上げ時の状態に戻しても、音楽、写真などのデータは削除されません。

ご注意

- 音楽再生中に選択すると、一時停止してから初期化処理が行われます。

1 ホームメニュー → （各種設定）→「共通設定」→「各種初期化」→「設定初期化」→「はい」を選ぶ。

「設定を工場出荷時の状態に戻しました。」と表示されます。
- 初期化を止めるには「いいえ」を選びます。

目次
ホーム
メニュー
索引

メモリー初期化

本機の内蔵フラッシュメモリーを初期化（フォーマット）できます。

ご注意

- 初期化すると、曲、ビデオ、写真のデータ（お買い上げ時にあらかじめインストールされているサンプルデータ（☞ 168ページ）およびソフトウェアのインストーラ、取扱説明書を含む（☞ 21ページ））などが消去されます。初期化する前に内容を確認し、必要なデータはx-アプリまたはSonicStage Vに取り込むか、パソコンのハードディスク内に保存してください。
- Windowsのエクスプローラで内蔵フラッシュメモリーを初期化（フォーマット）しないでください。誤ってWindowsのエクスプローラで初期化した場合は、本機で初期化し直してください。

1 ホームメニュー → （各種設定）→「共通設定」→「各種初期化」→「メモリー初期化」を選ぶ。

「曲などのファイルを含んだすべてのデータが削除されます。実行しますか？」と表示されます。

2 「はい」を選ぶ。

「全てのデータを削除します。本当に実行しますか？」と表示されます。

- 初期化を止めるには「いいえ」を選びます。

3 「はい」を選ぶ。

初期化が終了すると「メモリーの初期化が完了しました。」と表示されます。

- 初期化を止めるには「いいえ」を選びます。

目次
ホーム
メニュー
索引

USB接続モード

USBケーブルで接続する機器によっては、接続した機器に本機が自動的に認識されず、本機の画面に「USB接続中」と表示されない場合があります。このような場合には、接続機器にUSBケーブルで本機をつなぐ前に、本機をUSB接続待機状態に設定することにより、より確実にUSB接続することができます。

1 ホームメニュー → （各種設定）→「共通設定」→「USB接続モード」を選ぶ。

「USBの接続ができない場合に利用します。USB接続待機状態にしますか？」と表示されます。

2 「はい」を選ぶ。

本機がUSB接続待機状態になり、USB接続待機中画面が表示されます。
接続機器にUSBケーブルで本機を接続すると、「USB接続中」と表示されます。

目次
ホーム
メニュー
索引

電池持続時間について

本機の設定変更や電源管理を適切に行うことで、電池の使用量を節約し長時間使用できます。
ここでは、電池を長持ちさせる方法をご紹介します。

手動で電源を切る

OPTION/PWR OFFボタンを長押しすると、画面表示が消えて再生待機状態になり、電池の消耗を抑えられます。
さらに、再生待機状態のまま最長で1日経過すると、自動的に電源が切れます。

電池持続時間を長くする設定

お買い上げ時の設定から「電池持続時間を長くする設定」に変えると、電池を長持ちさせることができます。「電池持続時間を長くする設定」での電池持続時間については「電池持続時間」（☞ 199ページ）をご覧ください。

設定		お買い上げ時の設定	電池持続時間を長くする設定
ノイズキャンセル	「ノイズキャンセルオン/オフ設定」*1（☞ 118ページ）	「オン」	「オフ」
共通設定	「画面オフタイマー」（☞ 126ページ）	「30秒」	「30秒」
	「輝度設定」*2（☞ 127ページ）	「3」	「3」
	「いたわり充電」*3（☞ 131ページ）	「オフ」	「オフ」

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

設定		お買い上げ時の設定	電池持続時間を長くする設定
音楽設定	「イコライザ」*4（☞ 57ページ）	「オフ」	「オフ」
	「VPT（サラウンド）」*4（☞ 60ページ）		
	「DSEE（高音域補完）」*4（☞ 61ページ）		
	「クリアステレオ」*4（☞ 62ページ）		
	「ダイナミックノーマライザ」*4（☞ 62ページ）		
	「DPC（スピードコントロール）」*5（☞ 66ページ）		
	「テレビ出力（ミュージック）」*6（☞ 51ページ）		
ビデオ設定	「テレビ出力（ビデオ）」*7（☞ 73ページ）	「オフ」	「オフ」

*1 「オン」に設定している場合、「オフ」の場合と比較して、約25%電池持続時間が短くなります。
*2 「5」に設定している場合、「3」の場合と比較して、約30%持続時間が短くなります。
*3 「オン」に設定している場合、「オフ」の場合と比較して、約10%電池持続時間が短くなります。
*4 「イコライザ」を「オフ」以外、「VPT（サラウンド）」を「オフ」以外、「DSEE（高音域補完）」を「オン」、「クリアステレオ」を「オン」、「ダイナミックノーマライザ」を「オン」に設定している場合、すべて「オフ」の場合と比較して、約40%電池持続時間が短くなります。
*5 「x2.0」に設定している場合、「オフ」の場合と比較して、約65%電池持続時間が短くなります。
*6 「オン」に設定し、テレビなどで画面を表示し続けた場合、「オフ」の場合と比較して、約40%電池持続時間が短くなります。
*7 「オン」に設定し、テレビなどで画面を表示し続けた場合、「オフ」の場合と比較して、約50%電池持続時間が短くなります。

データのファイル形式やビットレートを変える

曲やビデオ、写真のフォーマットやビットレートによっても、電池の持続時間（連続再生時間）が変わります。

充電時間や使用時間は☞ 198、199ページをご覧ください。

目次
ホームメニュー
索引

ファイル形式とビットレートとは？

音楽ファイル形式とは

インターネットや音楽CDから曲をx-アプリまたはSonicStage Vへ取り込み、保存するときのファイル形式を音楽ファイル形式といいます。
音楽ファイル形式には、MP3やWMA、ATRACなどがあります。

MP3：MPEG-1 Audio Layer3の略で、ISO（国際標準化機構）のワーキンググループであるMPEGで定めたオーディオ圧縮の規格です。
音声データをCDの約10分の1に圧縮できます。

WMA：Windows Media Audioの略で、Microsoft社が開発したオーディオ圧縮形式です。MP3より小さいファイルサイズで、同等の音質が楽しめます。

ATRAC：ATRAC（Adaptive Transform Acoustic Coding）は、「ATRAC3」、「ATRAC3plus」および「ATRAC Advanced Lossless」の総称です。高音質と高圧縮を両立させた「ATRAC3」では、音声データをCDの約10分の1に圧縮でき、「ATRAC3plus」では、約20分の1に圧縮できます。
「ATRAC Advanced Lossless」は、音質を全く劣化させずに録音することができる音声圧縮技術です。従来機器との再生互換性を維持するため、ATRAC3またはATRAC3plusの音声圧縮技術と組み合せてデータを圧縮し、データサイズをCDの約30 ～ 80 %[*1]に抑えて記録できます。

[*1] 楽曲によって圧縮率が異なります。

AAC：Advanced Audio Codingの略で「AAC-LC」とも呼ばれています。ISO（国際標準化機構）のワーキンググループであるMPEGで定めたオーディオ圧縮の規格です。MP3より小さいファイルサイズで、同等の音質が楽しめます。「HE-AAC」は、「AAC-LC」よりも高圧縮の規格で、携帯電話の音楽配信などにも使用されています。

リニアPCM：デジタル圧縮しない音声記録方式です。

次のページにつづく ⇩

目次
ホームメニュー
索引

著作権保護とは

音楽配信サービスなどから購入した音楽ファイルなどでは、著作権者の意向により、データに暗号化のような技術を施すことで、その利用や複製を制限している場合があります。

ビットレートとは

単位時間あたりにやりとりされる情報量のことで、64 kbps（bits per second）のように表します。数値が大きいほど情報量は多くなり、音質は向上しますが、変換後の音楽ファイルサイズも大きくなります。

曲のファイルサイズと音質、ビットレートの関係

ビットレートを上げれば、転送できる曲数が少なくなりますが、高音質な曲を本機に転送して楽しめます。
ビットレートを下げれば、転送できる曲数は多くなりますが、音質が低下します。

ご注意

- パソコンに取り込んだときのビットレートより高いビットレートで本機に転送しても、取り込んだときのビットレート以上の音質で再生することはできません。

ビデオファイル形式とは

映像と音声を圧縮し、まとめて保存するときのファイル形式をビデオファイル形式といいます。
ビデオファイル形式には、MPEG-4やAVCなどがあります。

MPEG-4（エムペグフォー）：MPEG-4（Moving（ムービング） Picture（ピクチャー） Experts（エクスパーツ） Group（グループ） phase（フェーズ） 4）の略で、MPEGで定めた規格の1つです。映像や音声の圧縮方式です。

AVC（エーブイシー）：Advanced（アドバンスド） Video（ビデオ） Coding（コーディング）の略で、MPEGで定めた規格の1つです。低いビットレートでよりきれいな画質を実現します。AVCファイルには4種類のプロファイルがあり、「AVC Baseline Profile」もその1つです。ISOのMPEG-4 AVC規格に準拠しており、MPEG-4 Part 10 Advanced Video Codingとして標準化されているため、一般的にMPEG-4 AVC/H.264やH.264/AVCと呼ばれています。

WMV（ダブリューエムブイ）：Windows（ウインドウズ） Media（メディア） Video（ビデオ）の略でMPEG-4を元にMicrosoft社が開発した動画データ圧縮形式です。高い圧縮率が特徴です。

目次
ホーム
メニュー
索引

写真のファイル形式とは

画像をパソコンなどに取り込み、静止画として保存するときのファイル形式を静止画ファイル形式といいます。
静止画ファイル形式には、JPEGなどがあります。

JPEG（ジェイペグ）：JPEG（Joint（ジョイント） Photographic（フォトグラフィック） Experts（エクスパーツ） Group（グループ））で定めた画像データの圧縮形式です。画像データを1/10から1/100に圧縮できます。

ヒント

- 本機で再生できるデータのファイル形式とビットレートについて詳しくは、☞ 194ページをご覧ください。

目次
ホーム
メニュー
索引

曲間を空けずに再生したいときは

曲をATRAC[*1]形式でx-アプリまたはSonicStage Vに取り込んで本機に転送すると、曲間を空けずに再生できます。
コンサートやライブなど曲間を空けずに収録されたアルバムは、曲をATRAC[*1]形式でx-アプリまたはSonicStage Vに取り込み本機に転送すると、本機で最後まで途切れることなく再生できます。

ご注意

- 本機で曲間を空けずに再生するには、曲間を空けずに収録された1つのアルバム内の曲を、全曲まとめて一度に同じビットレートのATRAC[*1]形式で取り込む必要があります。
- 「DPC（スピードコントロール）」（☞ 66ページ）を「オン」にしている場合には曲間が空いて再生されます。

[*1] ATRAC Advanced Losslessは除く。

目次
ホーム
メニュー
索引

曲情報はどうやって取り込まれるの？

x-アプリまたはSonicStage Vを使えば、CDを挿入しただけでアルバム名やアーティスト名、曲名などの曲情報を自動で取得できます。これは、CDの曲数や時間などの情報を元に、曲情報を曲情報のデータサービス：CDDB（Gracenote CD DataBase）から、インターネット経由で自動的に無償で取得しているためです。
このとき取得した曲情報は本機に転送され、さまざまな検索が可能になります。

ご注意

- 曲情報を取得する機能は無償でご利用いただけますが、はじめて曲情報を取得するときは、お使いの環境によって、Gracenoteへの登録が必要な場合があります。表示される画面の指示に従って操作してください。
- ウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合は、ファイアウォール機能により曲情報の取得ができない場合があります。ファイアウォール機能の設定についてはお使いのソフトウェアの説明書をご覧ください。
- CDによっては曲情報を取得できないことがあります。曲情報を取得できない場合は、x-アプリまたはSonicStage Vで曲情報を入力してください。曲情報の編集について詳しくは、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- x-アプリまたはSonicStage Vでは、取得したアルバム名やアーティスト名、曲名が日本語の場合、読み仮名を判断し50音順で表示します。本機にはこの情報を含めて転送されるため、読み仮名で検索できます。
- アーティストの姓と名の間にスペースがない方が、読み仮名検索の精度が高くなります。取得した曲情報のアーティスト名の姓と名の間にスペースがある場合は、曲情報を編集してください。曲情報の編集について詳しくは、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

データファイルを保存する

Windowsのエクスプローラを使って、パソコンのハードディスク内のデータを本機の内蔵フラッシュメモリーに転送できます。
本機をパソコンに接続すると、Windowsのエクスプローラ上に「WALKMAN」として、本機の内蔵フラッシュメモリーが表示されます。

ご注意

- Windowsのエクスプローラを使って本機の内蔵フラッシュメモリーを操作している間、ソフトウェアは使わないでください。
- 本機とパソコン間でのデータ転送中は、「USB接続を解除しないでください。」と表示されます。「USB接続を解除しないでください。」と表示されている間は、USBケーブルをはずさないでください。転送中のデータや本機内のデータが破損することがあります。
- パソコンで本機の内蔵フラッシュメモリーを初期化（フォーマット）しないでください。本機の内蔵フラッシュメモリーを初期化（フォーマット）するときは、必ず本機上で行ってください（☞ 132ページ）。
- 「OMGAUDIO」フォルダ内のファイルやフォルダ名を変更したり、ファイルを転送したりしないでください。本機が正常に動作しなくなることがあります。
- 「MUSIC」、「NWWM_REC」、「VIDEO」、「PICTURE」、「DCIM」、「PODCASTS」の各フォルダのファイルやフォルダ名を変更しないでください。本機で表示されなくなります。

目次
ホーム
メニュー
索引

ファームウェアをアップデートする

本機は、最新のファームウェアをインストールすることで、新しい機能の追加などを行えます。最新のファームウェアおよび更新の方法について詳しくは、「ウォークマン カスタマーサポート」のホームページ（☞ 144ページ）でご案内しておりますのでご確認ください。

❶ 「ウォークマン カスタマーサポート」のホームページから、アップデートプログラムをダウンロードする。

❷ 本機をパソコンに接続し、アップデートプログラムを起動する。

❸ アップデートプログラムのメッセージに従ってアップデートを行う。

アップデートが完了します。

ヒント

- 本機のファームウェアのバージョンは、ホームメニュー ➡ 「各種設定」➡「共通設定」➡「本体情報」で確認できます（☞ 124ページ）。

目次
ホーム
メニュー
索引

困ったときは

本機の操作中に困ったときや、トラブルが発生したときは、次の手順で解決方法をご確認ください。

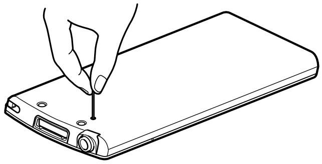
1「症状から調べる」の各項目で調べる（☞ 145ページ）。

2 パソコンに接続して、充電をする。

充電することで問題が解決することがあります。

3 クリップなどの細い棒で、RESETボタンを押す。

動作中にRESETボタンを押すと、本機に保存しているデータや設定が消去される場合があります。



4 x-アプリまたはSonicStage Vのヘルプで調べる。

5「ウォークマン カスタマーサポート」のホームページで調べる（☞ 144ページ）。

6 手順1～5を確認しても問題が解決しないときは、ソニーの相談窓口（☞最終ページ）またはお買い上げ店に相談する。

サポートホームページで調べる

パソコンをインターネットに接続できる環境の場合、「ウォークマン カスタマーサポート」のホームページ
http://www.sony.co.jp/walkman-support/でトラブルの解決方法や最新情報などを調べることができます。

サポートホームページを見るには

WALKMAN Guideで「インターネットで最新情報を調べる（カスタマーサポートサイトへのリンク）」を選びます。
WALKMAN Guideについて詳しくは、「取扱説明書」をご覧ください。



* サポートホームページの内容は、2009年7月現在のものです。

サポートホームページでは、以下の情報などを見ることができます。

- ソフトウェアアップデートなどの最新情報
- 製品別サポート情報
- Q&A（よくある問い合わせ情報）
- x-アプリまたはSonicStage Vなどのソフトウェアの使いかた
- 重要なお知らせ（サポートからの重要なお知らせ）
- カスタマー登録（カスタマー登録へのご案内）
- x-アプリ、詳細操作ガイド（本PDF）のダウンロードサービス

目次
ホーム
メニュー
索引

症状から調べる

本機の操作

再生音が出ない

- 音量がゼロになっている。
  → 音量を上げてください（☞ 8ページ）。
- ヘッドホンがジャックにしっかり差し込まれていない。
  → 正しく接続されていないと再生音が正常に聞こえません。「カチッ」と音がするまで差し込んでください（☞ 7ページ）。
- ヘッドホンのプラグが汚れている。
  → 乾いた布でプラグの汚れを拭きとってください。

曲やビデオが再生されない、写真が表示されない

- 電池が消耗している。
  → 充分に充電してください（☞ 22ページ）。
  → 充電しても反応しない場合は、RESETボタンを押して本機をリセットしてください（☞ 143ページ）。
- 「テレビ出力（ビデオ）」が「オン」に設定されている。
  → 設定を「オフ」に変更してください（☞ 73ページ）。
- ドラッグアンドドロップで転送した曲やビデオ、写真の階層が適切ではない。
  → 適切なフォルダと階層にデータを置いてください（☞ 35、41ページ）。
- 本機で再生できないフォーマットのファイルを転送した。
  → 再生できるファイルは、「主な仕様」の「再生できるファイルの種類」（☞ 194ページ）をご覧ください。ファイルの仕様によっては再生できないことがあります。
- MP4の音声ファイルをドラッグアンドドロップで「VIDEO」フォルダに転送した。
  → ドラッグアンドドロップでMP4の音声ファイルを転送するときは、本機の「MUSIC」フォルダに転送してください。

曲や写真を削除できない

- パソコンから転送した曲や写真は本機上で削除できません。
  → ソフトウェアを使って転送したものはソフトウェアを使って削除してください。Windowsのエクスプローラを使って転送したものはWindowsのエクスプローラを使って削除してください。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

転送したビデオや写真、ポッドキャストがリストに表示されない

- 対応していないフォーマットで記録されたビデオや写真は本機で認識されず、リストに表示されません（☞ 194ページ）。
- パソコンから本機に転送したビデオのファイル名を変更したり、ファイルの場所を移動したりすると本機で認識されない場合があり、リストに表示されません。
- ドラッグアンドドロップで転送したデータの階層が適切ではない。
  → 適切なフォルダと階層にデータを置いてください（☞ 41ページ）。
- Windowsのエクスプローラで、本機の内蔵フラッシュメモリーを初期化（フォーマット）した。
  → 本機上で、内蔵フラッシュメモリーを初期化（フォーマット）してください（☞ 132ページ）。
- 転送中、本機からUSBケーブルがはずれた。
  → 使用可能なファイルをパソコンに戻し、本機上で、本機の内蔵フラッシュメモリーを初期化（フォーマット）してください（☞ 132ページ）。

「全曲」や「アルバム」を選んだときに表示される曲が、「フォルダ」を選んだときに表示されない

- ドラッグアンドドロップで「MUSIC」フォルダの下に置いた曲が、本機で「フォルダ」を選んだときに表示される曲です。x-アプリまたはSonicStage Vで転送した曲は「フォルダ」からは選べません。

1つのアルバムなど限られた範囲でしか再生されない

- 「再生範囲設定」（☞ 57ページ）が「選択範囲内を再生」に設定されている。
  → 再生範囲の設定を変更してください。

転送したアルバムが、複数になって表示される

- コンピレーションアルバムをx-アプリまたはSonicStage Vでパソコンに取り込む場合、複数のアルバムとして取り込まれることがあります。その場合は、x-アプリまたはSonicStage Vで1つのアルバムになるように編集してから、本機に転送し直してください。編集について詳しくは、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

曲が転送順に表示されない

- 曲は転送順には表示されません。決まった曲順通りにしたい場合は、x-アプリまたはSonicStage Vでプレイリストを作成してから、本機に転送してください。プレイリストについて詳しくは、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

雑音が入る

- 静かな場所でノイズキャンセリング機能をオンにしている。
  → 静かな場所や周囲の騒音の種類によってはノイズが大きくなると感じる場合があります。その際はノイズキャンセリング機能をオフにしてください（☞ 118ページ）。なお、付属のヘッドホンは、屋外や電車内など騒音の多い場所でノイズキャンセリング効果を最大限に生かすために、ヘッドホンの音圧感度を大幅に高めています。そのため、ノイズキャンセリング機能をオフにしても静かな場所ではかすかなホワイトノイズが聞こえる場合があります。
- 近くで携帯電話などの電波を発する機器を使用している。
  → 携帯電話などを本機から離して使用してください。
- CDなどから取り込んだ曲が破損している。
  → データを削除して取り込み、転送し直してください。曲を取り込むときは、その他の作業を中止してください。データが破損する原因となることがあります。
- 本機で再生できないフォーマットのファイルを転送した。
  → 再生できるファイルは、「主な仕様」の「再生できるファイルの種類」（☞ 194ページ）をご覧ください。ファイルの仕様によっては再生できないことがあります。

ノイズキャンセリング機能の効果が得られない

- ノイズキャンセリング機能をオフにしている。
  → 「ノイズキャンセルオン/オフ」を「オン」にしてください（☞ 118ページ）。
- 付属のヘッドホンを装着していない。
  → 付属のヘッドホンを使用してください。
- ヘッドホンを正しく装着していない。
  → イヤーピースを交換したり、おさまりの良い位置にするなど、ぴったりと耳に装着させるようにしてください（☞ 116ページ）。イヤーピースがはずれて耳に残らないよう、イヤーピースを交換する際には、ヘッドホンにしっかり取り付けてください。
- ノイズキャンセル調整が適切に設定されてない可能性がある。
  → 本機は、ノイズキャンセリング機能の効果が最も得られるようにあらかじめ設定されていますが、ヘッドホンに搭載されているマイクの感度を上げる（または下げる）ことでさらに効果が得られる場合があります。ノイズキャンセルの調整をし直してください（☞ 123ページ）。
- 静かな場所で使用している。
  → 静かな場所や、周囲の騒音の種類によっては、ノイズキャンセリング機能の効果が感じられないことがあります。
- 「環境選択」で設定しているデジタルフィルターの種類が周囲の環境と合っていない。
  → 周囲の環境に合わせて「環境選択」の設定を選んでください（☞ 122ページ）。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

VPT（サラウンド）設定、クリアステレオ機能の効果が感じられない

- 別売りのクレードルなどを使用して外部スピーカーに音声を出力した場合、ヘッドホンで聞いたときよりもVPT（サラウンド）設定やクリアステレオ機能の効果が感じられないことがあります。これはヘッドホンで最適になるように設計されているためで故障ではありません。

本機が動作しない（ボタン操作に反応しない）

- HOLDスイッチがHOLD（ホールド）の位置になっている。
  → HOLDスイッチを逆の位置にスライドしてください（☞ 8ページ）。
- 結露している。
  → そのまま約2、3時間おいてください。
- 電池の残量が少ない、または消耗している。
  → 本機を起動中のパソコンに接続するなどして、充分に充電してください（☞ 22ページ）。
  → 充電しても反応しない場合は、RESETボタンを押して本機をリセットしてください（☞ 143ページ）。
- 本機はUSB接続中は操作できません。
  → パソコンとの接続をはずして操作してください。

再生を停止できない

- 本機では、再生の停止は一時停止になります。▶II ボタンを押すと、II が表示され、再生を一時停止します。

再生音が大きくならない

- 「AVLS（音量制限）」が「オン」に設定されている。
  → AVLS設定を解除してください（☞ 125ページ）。

右チャンネルから音が出ない、または右チャンネルの音が左右両方のヘッドホンから聞こえる

- ヘッドホンがジャックにしっかり差し込まれていない。
  → 正しく接続されていないと再生音が正常に聞こえません。「カチッ」と音がするまで差し込んでください（☞ 7ページ）。

再生していたら急に音が止まった

- 電池の残量が少ない、または消耗している。
  → 本機を起動中のパソコンに接続するなどして、充分に充電してください（☞ 22ページ）。
- 本機で再生できない曲、またはビデオを再生しようとしている。
  → 別の曲やビデオを選び、再生してください。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

歌詞が表示されない

- 曲に歌詞情報が付いていない。
  - ➔ x-アプリで「歌詞ピタ」（データ）を付けてください。SonicStage VやWindowsのエクスプローラで転送された曲には歌詞情報は表示されません。
  - ➔ moraから購入した楽曲や「着うたフル®」に付いている静止画による歌詞情報は表示することができません。

「この歌詞を表示するには歌詞を追加購入して転送し直してください。」というメッセージが出る

- 「歌詞ピタ」（データ）は、1台の歌詞対応“ウォークマン”のみに転送できます。
  - ➔ 複数台の歌詞対応“ウォークマン”に転送する場合は、複数の同一歌詞データを購入してから、転送し直してください。

サムネイル（ジャケット写真など）が表示されない

- 曲に適切な形式のジャケット写真情報が登録されていない。
  - ➔ x-アプリまたはSonicStage Vでジャケット写真の登録をしてください。Windowsのエクスプローラで転送された曲はジャケット写真が表示されない場合があります。
- ビデオの場合、ビデオファイルと同じ名前のサムネイル画像が必要です。
  - ➔ 本機の「VIDEO」フォルダ内にビデオファイルと同じ名前のJPEGファイルがある必要があります。
- 写真の場合、Exifに準拠したサムネイル情報が含まれていないと、サムネイルは表示されません。

知らないうちに電源が切れて電源が入った

- 正常に動作しなくなったときに、本機では自動的に電源を入れ直します。

本機の動作がおかしい

- 本機を接続したままの状態で、接続先のUSB機器（パソコンなど）の電源を入れた／切った。
  - ➔ RESETボタンを押して本機をリセットしてください（☞ 143ページ）。USB機器の電源を入れる／切る場合は、USB機器から本機を取りはずしてから行ってください。

画面表示

目次
ホーム
メニュー
索引

画面に「□」と表示される

- 本機で表示できない文字が使用されている。
  → x-アプリまたはSonicStage Vを使って転送した曲は、x-アプリまたはSonicStage Vを使って本機で表示可能な別の文字に置き換えてください。

アルバム名やアーティスト名などに「不明」と表示される。

- 曲にアルバム名やアーティスト名情報がついていません。

写真を表示中に、画面が暗くなった

- 写真を表示中に「画面オフタイマー」（☞ 126ページ）で設定した時間以上操作がなかった。
  → いずれかのボタンを押してください。

表示が消える

- 「画面オフタイマー」（☞ 126ページ）で設定した時間以上操作がなかった。
  → いずれかのボタンを押してください。
- ビデオ設定の「画面オフ設定」を「ホールド時画面オフ」に設定している（☞ 80ページ）。
  → 「画面オフ設定」を「常時画面オン」に設定してください（☞ 80ページ）。

音楽再生画面の情報表示エリアの ⇨（テレビ出力中）アイコンが点滅している

- 映像/音声出力ケーブルが接続されていません。
  → 接続を確認してください。

目次
ホーム
メニュー
索引

電源

電池の持続時間が短い

- 5 ℃以下の環境で使用している。
  → 電池の特性によるもので故障ではありません。
- 充電時間が足りない。
  → FULL が表示されるまで充電してください。
- 本機の設定変更や電源管理を適切に行うことで、電池の使用量を節約し長時間使用できます（☞ 134ページ）。
- 本機を長期間使用していなかった。
  → 何回か充放電を行うと、電池性能が回復します。
- 電池を充分に充電しても、使える時間がお買い上げ時の半分くらいになったときは電池が劣化しています。
  → ソニーサービス窓口にお問い合わせください。

充電できない

- USBケーブルがきちんとパソコンのUSBコネクタに接続されていない。
  → USBケーブルをいったんはずして、接続し直してください。
  → 付属のUSBケーブルを使用してください。
- 5 ℃～ 35 ℃の範囲外の環境で充電している。 が表示されている間は充電できません。
  → 5 ℃～ 35 ℃の環境で充電してください。
- パソコンの電源が入っていない。
  → パソコンの電源を入れてください。
- パソコンがスタンバイ（スリープ）、休止状態に入っている。
  → パソコンのスタンバイ（スリープ）、休止状態を解除してください。
- 本機に対応していないACアダプターを使用している。
  → 本機に対応の別売りACアダプター（AC-NWUM50Aなど）を使ってください。
- USBハブを使用している。
  → USBハブを使用していると、表示されない場合があります。パソコンのUSBコネクタに直接接続してください。
- 非対応のOSのパソコンに接続している。
  → 対応しているOSのパソコンで充電してください。
- 上記に当てはまらない場合は、本機のRESETボタンを押してからUSB接続をし直してください。

本機の電源が自動的に切れた

- 本機は電池の消耗を防ぐために自動的に再生待機状態（画面表示を消す）になります。
  → いずれかのボタンを押すと電源が入ります。

充電がすぐに終わる

- 満充電に近い場合、すぐに充電が終わります。

目次
ホーム
メニュー
索引

パソコンとの接続

インストールできない

- 対応OS以外のOSを使っている。
  → パソコンの動作環境を確認してください（☞ 202ページ）。
- すべてのWindowsのソフトウェアを終了していない。
  →ほかのソフトウェアが起動した状態でインストールを行うと、不具合が生じることがあります。特にウイルス対策ソフトウェアは負担が大きいため、ネットワークから切断してから必ず終了してください。
- ハードディスクの空き容量が足りない。
  → インストールするアプリケーションの必要なハードディスク空き容量を確認し、不要なファイルなどを削除してください。
- Administrator権限またはコンピュータの管理者以外でログオンしている。
  → Administrator権限またはコンピュータの管理者でログオンしていない場合、インストールできないことがあります。Administrator権限またはコンピュータの管理者でログオンしてください。また、ユーザー名に全角文字をご使用の場合は、半角英数字のユーザー名で新規のアカウントを作成してください。
- x-アプリがすでにインストールされている環境では、SonicStage Vはインストールできません。
  → x-アプリは、SonicStage Vの後継ソフトウェアです。x-アプリをお使いください。
  SonicStage Vをインストールする場合はx-アプリをアンインストールしてください。
- メッセージダイアログがインストール画面の後ろに隠れていて、インストール作業が止まっているように見える場合がある。
  → [Alt] キーを押しながら [Tab] キーを数回押してください。ダイアログが表示されたら、メッセージに従って操作してください。
- 日本語以外のOSを使っている。
  → 日本語OS以外にはインストールできません。

インストール時に画面上のバーが動いていない。または、ハードディスクのアクセスランプが数分間点灯していない

- インストール作業は正常に行われているため、そのままお待ちください。お使いのパソコンによっては、インストール終了まで30分以上かかる場合があります。

x-アプリまたはSonicStage Vが起動しない

- WindowsのOSをバージョンアップするなど、パソコン環境を変更すると、起動しない場合があります。「ウォークマン カスタマーサポート」のホームページ（☞ 144ページ）で調べてください。

次のページにつづく ⇩

USBケーブルでパソコンにつないでも、本機の画面に「USB接続中」と表示されない（本機がパソコンに認識されない）

- USBケーブルがきちんとパソコンのUSBコネクタに接続されていない。
  - → USBケーブルをいったんはずして、接続し直してください。
  - →付属のUSBケーブルを使用してください。
- USBハブを使用している。
  - → USBハブを使用していると、表示されない場合があります。パソコンのUSBコネクタに直接接続してください。
- 接続しているUSBコネクタに不具合がある可能性があります。パソコンの別のUSBコネクタに接続してください。
- はじめてお使いのとき、もしくは電池残量が不足しているときにパソコンへ接続すると、画面表示までに約30秒程度時間がかかる場合があります。故障ではありません。
- ソフトウェアの認証を行うために、時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。
- ソフトウェアのインストールに失敗している。
  - → インストーラーを使ってもう一度ソフトウェアをインストールしてください。取り込んだデータは引き継がれます。
- 接続機器にUSBケーブルで本機をつなぐ前に、本機をUSB接続待機状態に設定することにより、より確実にUSB接続することができます。
  - →「USB接続モード」で「はい」を選んでください（☞ 133ページ）。本機がUSB接続待機状態になり、USB接続待機中画面が表示されます。
- 上記に当てはまらない場合は、本機のRESETボタンを押してからUSB接続をし直してください。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

転送できない

- USBケーブルがきちんとパソコンのUSBコネクタに接続されていない。
  → USBケーブルをいったんはずして、接続し直してください。
- 本機の空き容量が不足している。
  → 不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
- 本機に転送できる最大プレイリスト数を超えている。転送できる最大プレイリスト数は「主な仕様」の「転送できる最大プレイリスト数、各プレイリストに登録できる最大曲数」（☞ 197ページ）をご覧ください。また、1プレイリストにつき999曲を超える曲数は転送できません。
- 再生期間や再生回数などの再生制限のついた曲は、著作権者の意向により本機に転送できない場合があります。それぞれの曲に関する設定内容については、配信者にお問い合わせください。
- 本機に異常のあるデータが入っている。
  → 必要なデータをパソコンに戻し、本機を初期化（フォーマット）してください（☞ 132ページ）。
- 対応のソフトウェアを使っていない。
  → 対応のソフトウェアをインストールし、データを転送してください。
- データが破損している。
  → 転送できないデータをパソコンから削除し、もう一度そのデータを取り込み直してください。パソコンにデータを取り込むときや転送中は、その他の作業を中止してください。データが破損する原因となることがあります。
- 本機で再生できないフォーマットのファイルを転送しようとしている。
  → 転送できるファイルは、「主な仕様」の「再生できるファイルの種類」（☞ 194ページ）をご覧ください。ファイルの仕様によっては転送できないことがあります。
- 本機に転送できる最大ファイル数を超えている。曲、ビデオ、写真の転送できる数、ポッドキャストエピソードの転送できる数は「主な仕様」の「再生できるファイルの種類」（☞ 194ページ）をご覧ください。
  → 不要な曲、ビデオ、写真、ポッドキャストを削除してください。

転送に時間がかかる

- ファイルサイズの大きなデータを本機に転送した。
  → ファイルサイズが大きいと転送に時間がかかることがあります。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

転送できるデータが少ない（録音できる時間が少ない）

- 本機の空き容量が不足している。
  ➔ 不要なデータを削除して、空き容量を増やしてください。
- 本機で再生するデータ以外のデータが入っている。
  ➔ 本機で再生するデータ以外のデータが入っていると、転送できる曲やビデオ、写真、録音できる時間が減ります。本機で再生するデータ以外のデータをパソコンに移動するなどして、本機の空き容量を増やしてください。

パソコンに曲を戻せない

- 転送したパソコンと異なるパソコンに曲を戻そうとしている。
  ➔ x-アプリまたはSonicStage Vで転送した曲は転送したパソコンと異なるパソコンには曲を戻せません。はじめに曲を転送したパソコンへ戻してください。パソコンに曲を戻せず本機の曲を削除する場合は、x-アプリまたはSonicStage Vで曲を選んで削除してください。
- 転送元のパソコンで曲を削除した。
  ➔ 転送元のパソコンで曲を削除すると、曲を戻せません。

パソコン接続中の動作が安定しない

- USBハブまたはUSB延長ケーブルを使用している。
  ➔ USBハブまたはUSB延長ケーブルを使用すると、動作が安定しないことがあります。パソコンのUSBコネクタに直接接続してください。

FMラジオ

FMラジオ放送がよく聞こえない

- 受信している周波数が適切でない。
  → 放送がもっともよく聞こえる周波数を▲/▼ ボタンを使い選局してください（☞ 98ページ）。

雑音が多く、音が悪い

- 電波が弱い。
  → 建物や乗り物内では電波が弱い場合があります。窓際に近づくなどして電波の入りやすい場所を選んでください。
- ヘッドホンのコードが伸びていない。
  → ヘッドホンのコードがアンテナとして働きます。できるだけ長く伸ばしてお使いください。
- 「モノラル/オート」が「オート」に設定してある場合は、受信感度は受信時の状態によって自動設定されます。
  → 受信感度が悪い場合は、「モノラル/オート」を「モノラル」に設定してください（☞ 103ページ）。

雑音が入る

- 近くで携帯電話などの電波を発する機器を使用している。
  → 携帯電話などを本機から離して使用してください。

FMラジオ放送が聞けない

- ヘッドホンが接続されていない。
  → ヘッドホンのコードがアンテナとして働きます。WM-PORTに別売りのアクセサリーなどを接続していて、ヘッドホンが接続できないときは、FMラジオ放送を聞くことはできません。

目次
ホーム
メニュー
索引

録音

録音中にノイズが出る

- 本機での録音に対応した別売りのアクセサリーに録音レベル切り換えスイッチがある場合、録音レベル切り換えスイッチが合っていない。
  → 接続しているオーディオ機器に合った位置にしてください。詳しくは、本機での録音に対応した別売りのアクセサリーの取扱説明書をご覧ください。

曲のはじめの数秒が録音されない

- シンクロ録音で録音をしている場合、ゆっくりフェードインする曲など録音する曲によっては無音検出が働き、正確に曲のはじめを検出できない場合があります。
  → マニュアル録音にして録音してください（☞ 107ページ）。

曲を消しても録音できる残り時間が増えない

- システム上の制約で、短い曲を何曲か消しても録音できる残り時間が増えないことがあります。

録音できない

- 本機での録音に対応した別売りのアクセサリーを接続していない。
  → 本機での録音に対応した別売りのアクセサリーを接続してください（☞ 104ページ）。
- 本機の空き容量が不足している。
  → 不要な曲を削除してください（☞ 112ページ）。
  → 録音した曲をパソコンに取り込んでください（☞ 109ページ）。
- 本機に録音できる最大曲数、最大フォルダ数を超えている。録音できる最大曲数、最大フォルダ数は「主な仕様」の「録音できる最大曲数、最大フォルダ数、1つのフォルダに録音できる最大曲数」（☞ 197ページ）をご覧ください。
  → 不要な曲を削除してください（☞ 112ページ）。
  → 録音した曲をパソコンに取り込んでください（☞ 109ページ）。
- 1つのフォルダに録音できる最大曲数を超えている。録音できる最大曲数は「主な仕様」の「録音できる最大曲数、最大フォルダ数、1つのフォルダに録音できる最大曲数」（☞ 197ページ）をご覧ください。
  → 録音するフォルダを変更してください。
- 録音元のオーディオ機器と正しく接続されていない。
  → 本機での録音に対応した別売りのアクセサリーを使って正しく接続してください。
- パソコンと接続している。
  → パソコンの接続をはずしてください。
- 録音中に本機の電池残量が少なくなり、電源が切れた。
  → 充分に充電してから録音してください。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間に一致しない

- システム上の制約で、短い曲をたくさん録音すると合計時間と合わなくなることがあります。

録音した曲の音量が小さい

- 録音元のオーディオ機器の出力レベルが低すぎた。
  - → 録音元の音量を上げる。
  - → アクセサリーによっては、録音入力レベルの切り換えができるものがあります。詳しくは、本機での録音に対応した別売りのアクセサリーの取扱説明書をご覧になって調整してください。

ポッドキャスト

エピソードを再生できない

- エピソードのファイルフォーマットに対応していない。
  - → 本機で再生できるファイルフォーマットを確認してください（☞ 194ページ）。

テレビ出力

音楽やビデオがテレビに出力できない

- 海外旅行や出張時に海外のテレビをお使いの場合は、テレビに合わせて、NTSCかPALの切り換えをしてください（☞ 52、74ページ）。
- 本機の「テレビ出力」が「オン」になっていない。
  - → 本機の「テレビ出力（ミュージック）」または「テレビ出力（ビデオ）」を「オン」にしてください（☞ 51、73ページ）。
- 別売りの映像/音声出力ケーブル（WMC-NWV10）を使用していない。
  - → 別売りの映像/音声出力ケーブル（WMC-NWV10）を使用してテレビに接続してください。詳しくは、映像/音声出力ケーブルの取扱説明書をご覧ください（☞ 51、73ページ）。
- お使いのテレビの入力設定が映像/音声出力ケーブルを接続した入力端子からの設定になっていない。
  - → テレビの入力切替を確認してください。

テレビ出力したビデオの画像が正しくない（余分な黒帯が表示されたり、画面が歪んだりする）

- 本機のビデオのズーム設定が合っていない。
  - → ビデオのズーム設定を切り換えてください（☞ 77ページ）。
- 本機の「テレビ出力サイズ」の設定が、お使いのテレビの画面に合っていない。
  - → 「テレビ出力サイズ」の設定を切り換えてください（☞ 74ページ）。
- お使いのテレビの表示設定が合っていない。
  - → お使いのテレビの表示設定を切り換えてください。

目次
ホーム
メニュー
索引

その他

操作時の確認音が鳴らない

- 「操作確認音」の設定が「オフ」になっている。
  ➔「操作確認音」の設定を「オン」にしてください（☞ 125ページ）。
- 別売りのクレードルなどに接続している場合、操作確認音は鳴りません。

本体が温かくなる

- 充電中または充電直後に本体が一時的に温かくなることがあります。また、大量のデータを転送した場合も、一時的に温かくなることがあります。しばらく放置してください。

日付と時刻がリセットされる

- 電池を使いきった状態でしばらく放置すると、日付と時刻がリセットされる場合がありますが、故障ではありません。FULL が表示されるまで充電し（☞ 22ページ）、日付と時刻を設定し直してください（☞ 24、129ページ）。

ヘッドホンを抜き差しするとノイズが聞こえる

- ヘッドホンの抜き差しはヘッドホンを耳からはずして行ってください。音楽を再生した状態や、ノイズキャンセリング機能が働いたままでヘッドホンを抜き差しするとヘッドホンからノイズが発生しますが、故障ではありません。

目次
ホーム
メニュー
索引

画面メッセージ

本機の画面に以下のメッセージが出たら、下の表に従ってチェックしてみてください。

この写真を壁紙に設定できませんでした。

- ファイルサイズの大きい写真を壁紙に設定しようとした。
  → 選択した写真のファイルサイズが大きすぎないか、破損していないかを確認してください。

再生できません。未対応の形式です。

- 本機で再生できないデータを再生しようとした。
  → 本機で対応していないデータは再生できません（☞ 194ページ）。

削除に失敗しました。

- 選んだビデオを削除できなかった。
  → x-アプリまたはSonicStage VまたはWindowsのエクスプローラで削除してください。

電池残量がありません。充電してください。

- 電池が消耗している。
  → 充電してください（☞ 22ページ）。

動作に必要な容量がありません。ファイルを削除して容量を確保してください。

- 本機の空き容量が不足している。
  → 転送したソフトや機器に接続して、本機から不要なファイルを削除してください。ビデオファイルやポッドキャストは、本機を使って削除できます（☞ 75、87ページ）。

ノイズキャンセルが無効になっているため実行できません。

- 「ノイズキャンセル」画面で「外部入力/サイレント」を選んだが、ノイズキャンセリング機能が無効になっている。
  → 「ノイズキャンセルオン/オフ」を「オン」にしてノイズキャンセリング機能を有効にしてください（☞ 118ページ）。

ファームウェアをアップデートできませんでした。

- ファームウェアのアップデートに失敗した。
  → パソコンに表示される画面に従って、ファームウェアのアップデートをし直してください。

USB接続を解除しないでください。

- 本機をパソコンや外部機器に接続しデータを転送している。
  → USB接続してデータを転送しているときは、データ転送が完了するまでUSBケーブルをはずさないでください。

目次
ホームメニュー
索引

ソフトウェアをアンインストールする

インストールしたソフトウェアをパソコンから削除したいときは、以下の手順に従ってください。

❶ **「スタート」メニューから「コントロールパネル」をクリックする。**

❷ **「プログラムの追加と削除」をダブルクリックする。**

❸ **一覧から「x-アプリ X.X」または「SonicStage V X.X」を選び、「削除」[*1] をクリックする。**

メッセージに従ってパソコンを再起動します。
再起動が完了すると、アンインストールは終了です。

[*1] Windows Vistaでは「アンインストールと変更」

ご注意

- x-アプリをインストールすると「Sony Media Library Earth」、SonicStage Vをインストールすると「OpenMG Secure Module」もインストールされます。「Sony Media Library Earth」および「OpenMG Secure Module」は、他のソフトウェアでも使用していることがありますので削除しないでください。

目次
ホーム
メニュー
索引

使用上のご注意

充電について

- 充電時間は電池の使用状態により異なります。
- 電池を充分に充電しても使える時間が通常の半分くらいになったときは、電池が劣化していると思われます。ソニーサービス窓口へお問い合わせください。

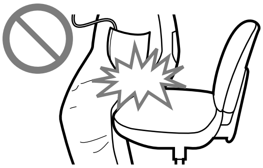
本機の取り扱いについて

- 落としたり、重いものを乗せたり、強いショックを与えたり、圧力をかけないでください。本機の故障の原因となります。
- 以下のような場所に置かないでください。
  - 直射日光があたる場所や暖房器具の近くなど温度が非常に高いところ
    変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
  - ダッシュボードや、炎天下で窓を閉め切った自動車内（とくに夏季）
  - ホコリの多いところ
  - ぐらついた台の上や傾いたところ
  - 振動の多いところ
  - 風呂場など、湿気の多いところ
  - 磁石、スピーカーボックス、テレビなど、磁気を帯びたものの近く
- ラジオやテレビの音に雑音が入るときは、本機の電源を切って、本機をラジオやテレビから離してください。
- 付属のヘッドホンをご使用中、肌に合わないと感じたときは早めに使用を中止して医師またはソニーの相談窓口（☞ 最終ページ）に相談してください。

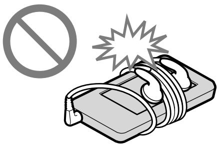
次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

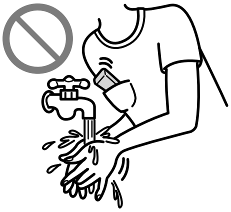
- 本機をお使いになるときは、キャビネットの変形や故障を防ぐために、次のことを必ずお守りください。
  - 本機をズボンなどの後ろのポケットに入れて座らない。



  - 本体にヘッドホンを巻き付けたまま、かばんの中に入れ、外から大きな力を加えない。



- 水がかからないようご注意ください。本機は防水仕様ではありません。特に以下の場合ご注意ください。
  - 洗面所などでポケットに入れての使用
    身体をかがめたときなどに落として水濡れの原因となる場合があります。
  - 雨や雪、湿度の多い場所での使用
  - 汗をかく状況での使用
    濡れた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットに入れると水濡れの原因となる場合があります。



- ヘッドホンを本体からはずすときは、ヘッドホンのプラグを持ってはずしてください。コードを持って引っ張ると断線の原因となる場合があります。
- イヤーピースは長期の使用・保存により劣化する恐れがあります。

次のページにつづく

目次
ホーム
メニュー
索引

ご使用について

- 自動車、オートバイ、自転車などの運転をしながら使用しないでください。特にノイズキャンセリング機能は周囲の音を遮断しますので、警告音なども聞こえにくくなります。運転中以外でも、踏切や駅のホーム、車の通る道、工事現場など、周囲の音が聞こえないと危険な場所では使わないでください。
- 飛行機内で使用する際は、離着陸時など、機内のアナウンスに従ってご使用をお控えください。
- 本機を寒い場所から急に暖かいところに持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が生じることがあります。結露とは、空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。
  結露が生じたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。そのままご使用になると故障の原因になります。

静電気に関するご注意

空気が乾燥する時期に耳にピリピリと痛みを感じることがありますが、これは本機の故障ではなく人体に蓄積される静電気によるものです。静電気の発生しにくい天然素材の衣服を身に着けていただくことにより影響が軽減されます。

画面表示部についてのご注意

画面を強く押さないでください。有機EL画面の故障の原因になります。

画面表示部について

本機の画面表示部はガラス製です。

本機を固いものの上に落としたり強い衝撃を与えたりすると、画面表示部が割れる恐れがありますので、お取り扱いには充分注意してください。ガラスが欠けたり割れたりしたときは、使用を中止し破損部に手を触れないでください。けがをする恐れがあります。また、ガラスの表面にはガラスの飛散防止フィルムが貼ってありますので、はがさずにご使用ください。

有機ELについて

長時間同じ表示を続けたり、繰り返し同じ表示をすると、画面に永続的な焼き付きが発生することがあります。 画面を保護するため、焼き付きが発生しやすい画像をできるだけ避け、注意事項を守りお使いください。

次のページにつづく ⇩

焼き付きについて

一般に、有機ELパネルは、その高精細な画像を得るために採用している材料の特性上、焼き付きが起こることがあります。画面内の同じ位置に変化しない画像の表示を続けたり、繰り返し表示したりすると、焼き付いた画面を元に戻せなくなります。

- 焼き付きが発生しやすい主な画像
  - 上下に帯が表示されるワイド画像（レターボックス映像）
  - 画面横縦比4:3の画像
  - 写真や長時間静止した画像
- 焼き付きを軽減するには
  - 画面いっぱいに映像を映す
    「ズーム設定」を「オート」や「フル」に切り換えて表示します（☞ 77ページ）。

目次
ホーム
メニュー
索引

お手入れ

本体表面の汚れは

- 柔らかい布（市販のめがね拭きなど）で拭いてください。
- 汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液をしめらせた布で拭いてください。
- シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので使わないでください。
- 内部に水が入らないようにご注意ください。

ヘッドホンプラグのお手入れについて

ヘッドホンプラグが汚れていると雑音や音飛びの原因になることがあります。常によい音でお聞きいただくために、ヘッドホンの先端のプラグ部をときどき柔らかい布で乾拭きしてください。

イヤーピースのお手入れについて

ヘッドホンからイヤーピースをはずし、うすめた中性洗剤で手洗いしてください。洗浄後は、水気をよく拭いてからご使用ください。

目次
ホーム
メニュー
索引

付属のソフトウェアについて

- 権利者の許諾を得ることなく、本機付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- 本機付属のソフトウェアを使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 本機付属のソフトウェアは、指定された装置以外には使用できません。
- 本機付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。
- 本機に付属していないソフトウェアを使用した際の動作は保証しておりません。
- 本機付属のソフトウェア上で表示できる言語は、パソコンにインストールされているOSによって異なります。お使いのパソコンのOSが、表示したい言語に対応しているかどうかをご確認ください。
  – 言語によっては、このソフトウェア上で正しく表示できない場合があります。
  – ユーザー定義の文字や特殊な記号は表示されない場合があります。
- 本機をメモリ初期化すると、本機に転送した曲、ビデオ、写真のデータだけでなく、お買い上げ時にあらかじめインストールされているサンプルデータおよびソフトウェアのすべてが消去されます。メモリ初期化を行う前に内容を確認し、必要なデータはパソコンに保存してください。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

サンプルデータについて

本機は、音楽、ビデオ、写真の試聴・体験用サンプルデータをあらかじめインストールしています。
一度削除したサンプルデータは元に戻せません。また、新たにサンプルデータの提供はいたしませんのでご了承ください。

- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。
- 本製品およびパソコンの不具合により、録音やダウンロードができなかった場合、および音楽（「歌詞ピタ」（データ）含む）、ビデオ、写真データが破損または消去された場合、データの内容の補償については、ご容赦ください。
- 以下の理由により、一部の文字や記号が本機上で正しく表示されない場合があります。
  – パソコンに接続しているポータブルプレーヤーの性能。
  – パソコンに接続しているポータブルプレーヤーが正常に動作していない。
  – コンテンツやファイルの情報が、ポータブルプレーヤーでサポートされていない言語や記号で書かれている。

本機を廃棄するときのご注意

Li-ion

機器に内蔵されている充電式電池はリサイクルできます。この充電式電池の取りはずしはお客様自身では行わず、「ソニーの相談窓口」にご相談ください。（「ソニーの相談窓口」の連絡先は最終ページに記載されています。）

目次
ホームメニュー
索引

目次
ホーム
メニュー
索引

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この詳細操作ガイドをもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、デジタルメディアプレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。

目次
ホーム メニュー
索引

ライセンスおよび商標について

- SonicStageおよびそのロゴはソニー株式会社の登録商標です。
- x-アプリおよびそのロゴはソニー株式会社の商標です。
- OpenMG、ATRAC、ATRAC3、ATRAC3plus、ATRAC Advanced Losslessおよびそれぞれのロゴはソニー株式会社の商標です。
- “ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- 「歌詞ピタ」は、ソニー株式会社の商標です。
- DSEE Digital Sound Enhancement Engine および CLEAR BASS はソニー株式会社の商標です。
- 「着うたフル®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。
- moraおよびモーラの名称、ロゴは、株式会社レーベルゲートの登録商標または商標です。
- Microsoft およびWindows、Windows Vista、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。
- Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- 本機はドルビーラボラトリーズの米国及び外国特許に基づく許諾製品です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- IBMおよびPC/ATは米国International Business Machines Corporationの登録商標です。
- PentiumはIntel Corporationの商標または登録商標です。
- 本製品の一部分にIndependent JPEG Groupが開発したモジュールが含まれています。
- 本製品の一部には、Independent JPEG Groupの研究成果を使用しています。
- 「ジャストシステム 読み仮名変換モジュール」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ジャストシステム 読み仮名変換モジュール」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- 本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているMPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：
  (i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 Visual規格に合致したビデオ信号（以下、MPEG 4 VIDEOといいます）にエンコードすること。
  (ii) MPEG-4 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

  なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照下さい。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

- 本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：
  (i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 Visual規格に合致したビデオ信号（以下、AVC VIDEOといいます）にエンコードすること。
  (ii) AVC Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

  なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照下さい。
- 製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているVC-1 PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：
  (i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、VC-1規格に合致したビデオ信号（以下、VC-1 VIDEOといいます）にエンコードすること。
  (ii) VC-1 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

  なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照下さい。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

この製品は "Embedded Memory with Playback and Recording Function System"（以下"EMPR[*1]"）規格に準拠して製造されています。コンテンツ保護方式として"MagicGate Type-R for Secure Video Recording for EMPR"を利用しています。

[*1] "EMPR"は、ソニー株式会社が開発した著作権保護に対応したシステムの規格名であり、"MagicGate Type-R for Secure Video Recording for EMPR"はDpa（社団法人 デジタル放送推進協会）からデジタル放送記録時のコンテンツ保護方式として認可を得ています。

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft Corporation. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft or an authorized Microsoft subsidiary.

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

Information on Expat
Copyright ©1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd and Clark Cooper.
Copyright ©2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.
IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Information on ncurses
Copyright (c) 1998-2004,2006 Free Software Foundation, Inc.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, distribute with modifications, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE ABOVE COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

次のページにつづく ⇩

Except as contained in this notice, the name(s) of the above copyright holders shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization.

Information on netkit-ftp
Copyright (c) 1985, 1989 Regents of the University of California.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THEIMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Information on strace
Copyright (c) 1991, 1992 Paul Kranenburg <pk@cs.few.eur.nl>
Copyright (c) 1993 Branko Lankester <branko@hacktic.nl>
Copyright (c) 1993 Ulrich Pegelow <pegelow@moorea.uni-muenster.de>
Copyright (c) 1995, 1996 Michael Elizabeth Chastain <mec@duracef.shout.net>
Copyright (c) 1993, 1994, 1995, 1996 Rick Sladkey <jrs@world.std.com>
Copyright (c) 1998-2001 Wichert Akkerman <wakkerma@deephackmode.org>

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

本製品に搭載されるソフトウェアには、ソニー株式会社（以下「弊社」とします）が第三者より直接的に又は間接的に使用の許諾を受けたソフトウェアが含まれております。これらのソフトウェアに関する本お知らせを必ずご一読くださいますようお願い申しあげます。

GNU GPL/LGPL 適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）またはGNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェア（下記「パッケージリスト」を参照）が含まれております。お客様には添付のGPL/LGPLに従いこれらのソフトウェアソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。
これらのソースコードは、Webでご提供しております。ダウンロードする際には、PC等のWebブラウザで以下のURLにアクセスしてください。
http://www.sony.net/Products/Linux/
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

次のページにつづく ⇩

パッケージリスト

busybox	dosfstools	mdadm	sysvinit
udev	u-boot	linux-kernel	procps
e2fsprogs	alsa-lib	alsa-utils	gcc
glibc	lrzsz	coreutils	net-tools
nfs-utils			

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library. To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION
0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making

次のページにつづく ⇩

modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library' s complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays

次のページにつづく ⇩

copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and “any later version”, you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY
15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library' s name and an idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc. 59 Temple Place - Suite 330, Boston, MA 02111-1307, USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author’s protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors’ reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone’s free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The “Program”, below, refers to any such program or work, and a “work based on the Program” means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

NO WARRANTY
11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and an idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or

次のページにつづく ⇩

FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place - Suite 330, Boston, MA 02111-1307, USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details
type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it
under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program
`Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

目次
ホーム
メニュー
索引

主な仕様

再生できるファイルの種類

ミュージック(ポッドキャストを含む)		
音声圧縮形式(コーデック)	MP3	ビットレート:32 ~ 320 kbps、可変ビットレート(VBR)対応 サンプリング周波数*1:32、44.1、48 kHz
	WMA*2	ビットレート:32 ~ 192 kbps、可変ビットレート(VBR)対応 サンプリング周波数*1:44.1 kHz
	ATRAC	ビットレート:48 ~ 352 kbps(66*3、105*3、132 kbpsはATRAC3) サンプリング周波数*1:44.1 kHz
	ATRAC Advanced Lossless*4	ビットレート:64 ~ 352 kbps(132 kbpsはATRAC3 base layer) サンプリング周波数*1:44.1 kHz
	リニアPCM	ビットレート:1,411 kbps サンプリング周波数*1:44.1 kHz
	AAC*2	ビットレート:16 ~ 320 kbps、可変ビットレート(VBR)対応*5 サンプリング周波数*1:8、11.025、12、16、22.05、24、32、44.1、48 kHz
	HE-AAC	ビットレート:32 ~ 144 kbps、可変ビットレート(VBR)対応 サンプリング周波数*1:24 kHz
ビデオ(ポッドキャストを含む)		
ビデオ圧縮形式(コーデック)	AVC(H.264/AVC)	ファイルフォーマット:MP4ファイルフォーマット、メモリースティックビデオフォーマット 拡張子:.mp4、.m4v プロファイル:Baseline Profile レベル:1.2、1.3、2、2.1、2.2、3 ビットレート:最大10 Mbps フレーム数:最大30 fps 解像度:最大720×480*6
	MPEG-4	ファイルフォーマット:MP4ファイルフォーマット、メモリースティックビデオフォーマット 拡張子:.mp4、.m4v プロファイル:Simple Profile ビットレート:最大6 Mbps フレーム数:最大30 fps 解像度:最大720×480*6
	Windows Media Video 9	ファイルフォーマット:ASFファイルフォーマット 拡張子:.wmv ビットレート:最大6 Mbps フレーム数:最大30 fps 解像度:最大720×480*6
音声圧縮形式(コーデック)	AAC-LC(AVC、MPEG-4用)	チャンネル数:最大2チャンネル サンプリング周波数:24、32、44.1、48 kHz ビットレート:1チャンネルあたり最大288 kbps
	WMA(Windows Media Video 9用)	ビットレート:32 ~ 192 kbps(可変ビットレート(VBR)対応) サンプリング周波数*1:44.1 kHz

次のページにつづく

目次
ホーム
メニュー
索引

ファイルサイズ	最大2 GB	
ファイル数	最大2,000ファイル	
フォト[*7]		
フォト圧縮形式（コーデック）	JPEG	DCF 2.0/Exif 2.21のファイルフォーマットに準拠 拡張子：.jpg JPEG（Baseline） 画素数：最大4,096 × 4,096 ピクセル（1,600万画素）
ファイル数	最大20,000ファイル	

[*1] すべてのエンコーダーに対応しているわけではありません。

[*2] 著作権保護されたファイルは再生できません。

[*3] SonicStageでは、ATRAC3 66/105 kbpsのCD録音はできません。

[*4] ATRAC Advanced Losslessのビットレート表記は、ATRAC対応機器・メディアに高速転送可能なコンテンツのビットレートを意味します。

[*5] サンプリング周波数によっては、規格外および保証外の数値も含みます。

[*6] 再生可能な解像度を示すものであって、本体で表示できるピクセル数を示すものではありません。本体ディスプレイでは 400 × 240 で表示されます。

[*7] データの種類によっては表示できないものがあります。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

記録できる最大曲数と時間の目安

1曲4分のATRAC形式[*1]およびMP3形式の曲だけを転送・録音した場合で計算しています。他の再生できる音楽ファイル形式では、増減する可能性があります。

[*1] ATRAC Advanced Losslessは除きます。ATRAC Advanced Losslessは楽曲により圧縮率が異なります。例えば、CD1枚（4分の曲が15曲入っていた場合）が約200 MB ～ 500 MBになります。

最大記録曲数

	NW-A845	NW-A846	NW-A847
	16 GB	32 GB	64 GB
48 kbps	10,000曲	21,000曲	42,000曲
64 kbps	7,850曲	15,500曲	31,500曲
128 kbps	4,000曲	8,050曲	16,000曲
256 kbps	2,000曲	4,050曲	8,150曲
320 kbps	1,600曲	3,200曲	6,450曲
1,411 kbps（リニアPCM）	365曲	735曲	1,450曲

最大記録時間

	NW-A845	NW-A846	NW-A847
	16 GB	32 GB	64 GB
48 kbps	約666時間40分	約1,400時間00分	約2,800時間00分
64 kbps	約523時間20分	約1,033時間20分	約2,100時間00分
128 kbps	約266時間40分	約536時間40分	約1,066時間40分
256 kbps	約133時間20分	約270時間00分	約543時間20分
320 kbps	約106時間40分	約213時間20分	約430時間00分
1,411 kbps（リニアPCM）	約24時間20分	約49時間00分	約96時間40分

次のページにつづく

目次
ホーム
メニュー
索引

記録できるビデオファイルの最大時間の目安

本機にビデオのみを転送した場合で計算しています。使用状況によっては増減する可能性があります。

	NW-A845	NW-A846	NW-A847
	16 GB	32 GB	64 GB
映像 : 384 kbps 音声 : 128 kbps	約60時間40分	約122時間40分	約246時間40分
映像 : 768 kbps 音声 : 128 kbps	約34時間40分	約70時間00分	約140時間40分

記録できる最大フォト枚数

最大 20,000枚
ファイルサイズによっては記録できる最大フォト枚数が少なくなります。

録音できる最大曲数、最大フォルダ数、1つのフォルダに録音できる最大曲数

録音できる最大曲数: 4,000曲、
最大フォルダ数: 255個、
1つのフォルダに録音できる最大曲数: 255曲

転送できる最大プレイリスト数、各プレイリストに登録できる最大曲数

転送できる最大プレイリスト数: 8,192、
各プレイリストに登録できる最大曲数: 999曲

容量(ユーザー使用可能領域)*1

NW-A845 : 16 GB(約14.4 GB = 15,550,021,632 バイト)
NW-A846 : 32 GB(約29.1 GB = 31,350,161,408バイト)
NW-A847 : 64 GB(約58.5 GB = 62,898,438,144バイト)

*1 本機では、メモリーの一部をデータ管理領域として使用しているため、ユーザー使用可能領域は一般的な容量表示とは異なります。

デジタルアンプ

"S-Master"

ヘッドホン出力

周波数特性
20 ～ 20,000 Hz(44.1 kHzサンプリング時、単信号測定)

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

ノイズキャンセリング機能

デジタルノイズキャンセリング機能対応
環境選択：電車・バス/航空機/室内
入力切替（ノーマルモード/外部入力モード/サイレントモード）

総騒音抑制量（TNSR）*1

約17 dB

*1 当社規定の航空機シミュレートノイズ下における、「環境選択」を「航空機」に設定時とヘッドホン非装着時との比較による値。総騒音抑制量（当社測定法による）約17 dBは音のエネルギーで約98.0%の騒音低減に相当。

FMラジオ受信周波数

76.0 ～ 90.0 MHz（TV*1 1 ～ 3CH）

*1 地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了することが、国の法令によって定められています。地上アナログテレビ放送終了後は、本機ではテレビの音声を聞くことはできません。

IF（FM）

128 kHz

アンテナ

ヘッドホンコードアンテナ

インターフェース

ヘッドホン：ステレオミニ
WM-PORT（マルチ接続端子）：22ピン
Hi-speed USB（USB 2.0 準拠）

動作温度

5 ℃～ 35 ℃

電源

- 内蔵リチウムイオン充電式電池使用
- USB電源（付属のUSBケーブルを接続して、パソコンから供給）

充電時間

パソコンのUSBコネクタからの充電の場合
約3時間（満充電）、約1.5時間（約80 %まで充電）

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

電池持続時間[*1]

*1 設定により電池の持続時間は異なります。持続時間は次ページの「本機の設定と電池持続時間について」の「電池持続時間での設定(電池持続時間を長くする設定)」の各設定にして連続再生をしたときの目安です。再生待機状態でもわずかながら電池を消耗しているため、再生待機状態が長時間あった場合には持続時間は短くなります。また、音量や使用状況、周囲の温度によっても持続時間は異なります。

ミュージック	
ATRAC 132 kbps	約26時間
ATRAC Advanced Lossless 64 kbps	約24時間
MP3 128 kbps	約29時間
WMA 128 kbps	約29時間
AAC 128 kbps	約29時間
HE-AAC 48 kbps	約30時間
リニアPCM 1,411 kbps	約31時間

ビデオ	
MPEG-4 384 kbps	約9時間
AVC Baseline 384 kbps	約8時間
WMV 384 kbps	約8時間

FMラジオ	
放送受信時	約14時間

ダイレクト録音	
ATRAC 128 kbps	約7時間

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

本機の設定と電池持続時間について

		お買い上げ時の設定	電池持続時間での設定（電池持続時間を長くする設定）
ノイズキャンセル	「ノイズキャンセルオン/オフ」*1（☞ 118ページ）	「オン」	「オフ」
共通設定	「画面オフタイマー」（☞ 126ページ）	「30秒」	「30秒」
	「輝度設定」*2（☞ 127ページ）	「3」	「3」
	「いたわり充電」*3（☞ 131ページ）	「オフ」	「オフ」
音楽設定	「イコライザ」*4（☞ 57ページ）	「オフ」	「オフ」
	「VPT（サラウンド）」*4（☞ 60ページ）	「オフ」	「オフ」
	「DSEE(高音域補完)」*4（☞ 61ページ）	「オフ」	「オフ」
	「クリアステレオ」*4（☞ 62ページ）	「オフ」	「オフ」
	「ダイナミックノーマライザ」*4（☞ 62ページ）	「オフ」	「オフ」
	「DPC(スピードコントロール)」*5（☞ 66ページ）	「オフ」	「オフ」
	「テレビ出力（ミュージック）」*6（☞ 51ページ）	「オフ」	「オフ」
ビデオ設定	「テレビ出力（ビデオ）」*7（☞ 73ページ）	「オフ」	「オフ」

*1 「オン」に設定している場合、「オフ」の場合と比較して、約25%電池持続時間が短くなります。

*2 「5」に設定している場合、「3」の場合と比較して、約30%持続時間が短くなります。

*3 「オン」に設定している場合、「オフ」の場合と比較して、約10%電池持続時間が短くなります。

*4 「イコライザ」を「オフ」以外、「VPT（サラウンド）」を「オフ」以外、「DSEE（高音域補完）」を「オン」、「クリアステレオ」を「オン」、「ダイナミックノーマライザ」を「オン」に設定している場合、すべて「オフ」の場合と比較して、約40%電池持続時間が短くなります。

*5 「x2.0」に設定している場合、「オフ」の場合と比較して、約65%電池持続時間が短くなります。

*6 「オン」に設定し、テレビなどで画面を表示し続けた場合、「オフ」の場合と比較して、約40%電池持続時間が短くなります。

*7 「オン」に設定し、テレビなどで画面を表示し続けた場合、「オフ」の場合と比較して、約50%電池持続時間が短くなります。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム メニュー
索引

ディスプレイ
2.8型、有機EL、WQVGA（400 × 240ドット）、ドットピッチ0.153 mm、262,144色

本体寸法
約46.8 × 約104.9 × 約7.2 mm（幅／高さ／奥行き、最大突起部含まず）

最大外形寸法
約47.4 × 約104.9 × 約7.7 mm（幅／高さ／奥行き）

質量
約62 g

付属品
- ヘッドホン（1）
- イヤーピース（Sサイズ、Mサイズ、Lサイズ）（各サイズ2個1組）
  お買い上げ時はMサイズが装着されています。
- USBケーブル（1）
- アタッチメント
  オーバル型（1）、丸型（1）
  本機を別売りのクレードルなどに取り付けるときに使います。
  別売りのアクセサリーの形状に合わせて、オーバル型か丸型を使い分けてください。
- 取扱説明書（1）
- 「歌詞ピタ」サービスご案内チラシ（1）
- 安全のために（1）
- 保証書（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- カスタマー登録のお願い（1）
- ソフトウェア
  以下の内容が本体メモリー内に格納されています。

–SonicStage V
音楽ファイルを本機に転送できる音楽管理ソフトウェアです。

–WALKMAN Guide
本機の「詳細操作ガイド（本PDF）」や役立つリンク集がご利用になれます。

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

本機の動作環境（下記環境を満たすすべてのパソコンで動作を保証するものではありません。）

- パソコン
  以下のOSを標準インストールしたIBM PC/AT互換機専用です（日本語版標準インストールのみ）。
  Microsoft Windows Vista® Home Basic（Service Pack 1以降）/Windows Vista® Home Premium（Service Pack 1以降）/Windows Vista® Business（Service Pack 1以降）/Windows Vista® Ultimate（Service Pack 1以降）/Windows® XP Home Edition（Service Pack 2以降）/Windows® XP Professional（Service Pack 2以降）（日本語版標準インストールのみ。マイクロソフト社サポート対象外のOSには非対応）
  ※ Windows XP Professional x64 Editionは非対応。
- CPU
  Pentium® III 500 MHz相当以上(Windows XP)/800 MHz以上(Windows Vista)
- メモリ
  256 MB以上(Windows XP)/512 MB以上(Windows Vista ただしHome Basic以外は1 GB以上推奨)
- ハードディスクドライブ
  450 MB以上（1.5 GB以上を推奨）の空き容量が必要です。
  Windowsのバージョンによってはそれ以上使用する場合があります。また、音楽やビデオ、フォトのデータを扱うための空き容量がさらに必要です。
- ディスプレイの設定
  画面の解像度：1,024 × 600 ピクセル以上（1,024 × 768 ピクセル以上を推奨）
  画面の色：High Color（16 ビット）以上（256 以下では正しく動作しない場合があります）
- サウンドボード
- USBポート（Hi-Speed USB推奨）
- Windows Media Player11以上あるいはWMF11runtime（付属）と、Internet Explorer 6以上がインストールされている必要があります。
- CDDBやインターネット音楽配信サービス（EMD）を利用する場合や、x-アプリまたはSonicStage Vでバックアップしたデータを復元する場合は、インターネットへの接続環境が必要です。
- 本機を自作パソコンに接続し、数秒以内に本機画面が点灯しない場合は、本機をすぐに取りはずしてパソコンのUSB電源配線に間違いがないかご確認ください。そのまま使い続けると、本機が過熱し故障します。

以下のシステム環境での動作保証はいたしません。
–自作パソコン
–標準インストールされているOSから他のOSへのアップグレード環境
–マルチブート環境
–マルチモニタ環境
–Macintosh

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

目次
ホームメニュー
索引

索引

数字・記号

あ行

か行

さ行

次のページにつづく

た行

な行

は行

ま行

次のページにつづく ⇩

目次
ホーム
メニュー
索引

お問い合わせ窓口のご案内

本機についてご不明な点や**技術的なご質問、故障と思われるときのご相談**については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには ⇨ ウォークマン カスタマーサポートへ**
  (http://www.sony.co.jp/walkman-support/)
  デジタルメディアプレーヤーに関する最新サポート情報や、その他よくあるお問い合わせとその回答をご案内しています。
  ※本機へ曲を転送できる機器との接続に関する詳細情報につきましても上記ホームページをご確認ください。

- **電話・FAXでのお問い合わせは ⇨ ソニーの相談窓口へ**
  (下記電話・FAX番号)
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

    ◆ セット本体に関するご質問時:
    - 型名:本体裏面に記載
    - 製造(シリアル)番号:本体裏面に記載
    - ご相談内容:できるだけ詳しく
    - お買い上げ年月日

    ◆ 付属のソフトウェアに関連するご質問時:
    質問の内容によっては、お客様のシステム環境についてご質問させていただく場合があります。上記内容に加えて、システム環境を事前にわかる範囲でご確認いただき、お知らせください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	フリーダイヤル……………0120-333-020 携帯電話・PHS・一部のIP電話‥0466-31-2511	
修理相談窓口	フリーダイヤル……………0120-222-330 携帯電話・PHS・一部のIP電話‥0466-31-2531 ※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。	

➡ 左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「３０１」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX(共通) 0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1